

「サイクル機構モニターいばらき」の活動報告

2005 年 8 月

核燃料サイクル開発機構
東海事業所

本資料の全部または一部を複写・複製・転載する場合は、下記にお問い合わせください。

〒319-1184 茨城県那珂郡東海村村松 4 番地 49
核燃料サイクル開発機構
技術展開部 技術協力課

電話 : 029-282-1122(代表)
ファックス : 029-282-7980
電子メール : jserv@jnc.go.jp

Inquiries about copyright and reproduction should be addressed to:
Technical Cooperation Section,
Technology Management Division,
Japan Nuclear Cycle Development Institute
4-49 Muramatsu, Tokai-mura, Naka-gun, Ibaraki 319-1184, Japan

© 核燃料サイクル開発機構 (Japan Nuclear Cycle Development Institute)
2005



「サイクル機構モニターいばらき」の活動報告

関 成一*, 梶 幹雄*, 大和田 敏雄**

要 旨

地域住民の方々へ原子力の基本知識の紹介、サイクル機構業務の概要及び地域住民の方々からの生の声をサイクル機構の業務運営に反映させることを目的として、平成11年度から平成16年度の間、事業所がある東海村をはじめ、大洗町、旭村を中心として隣接、隣々接市町村に在住する地域の方々を1年間の任期で「サイクル機構モニターいばらき」のモニターとして委嘱し、計27回の会合を開催した。また、本会合ではサイクル機構の事業説明、施設見学、意見交換等を行い、モニターから直接多くの意見を頂いた。

サイクル機構においては、「サイクル機構モニターいばらき」の運用により、多くの業務への反映、地域の方々の原子力、サイクル機構業務に対する理解度向上など一定の成果を上げることができた。

今後とも、安全を最優先とした事業実績の積み重ねと、地道かつ丁寧な理解促進・地域活動を両輪として、事業を進めて行くことが重要である。

* 東海事業所 運営管理部 地域交流課

** 大洗工学センター 管理部 地域交流課

目 次

1	はじめに	1
2	「サイクル機構モニターいばらき」について	2
2.1	目的	2
2.2	モニターの選任	2
2.3	モニターの役割	3
2.4	モニターの委嘱期間及び会合の開催回数	3
2.5	モニターの内訳	3
2.6	モニター会合の内容	3
3	「サイクル機構モニターいばらき」の活動概要	5
3.1	第1期	5
1)	概要	5
2)	モニターの構成	5
3)	主な意見	5
3.2	第2期	6
1)	概要	6
2)	モニターの構成	7
3)	主な意見	7
3.3	第3期	8
1)	概要	8
2)	モニターの構成	9
3)	主な意見	9
3.4	第4期	10
1)	概要	10
2)	モニターの構成	11
3)	主な意見	11
3.5	第5期	12
1)	概要	12
2)	モニターの構成	13
3)	主な意見	13
3.6	第6期	14
1)	概要	14
2)	モニターの構成	15
3)	主な意見	15
4	アンケート結果	16

4.1	アンケートの概要	16
4.2	アンケート結果	16
1)	「サイクル機構」に対する印象について	16
2)	「サイクル機構」に対するイメージについて	16
3)	サイクル機構職員に欠けているものについて	17
4)	「サイクル機構」の地域への溶けこみについて	17
5)	原子力発電の必要性及びそれへの不安について	18
6)	原子力発電に不安を感じる理由について	18
7)	今後期待するエネルギーについて	19
5	アンケートに対する考察	20
5.1	「サイクル機構」に対する設問について	20
1)	「サイクル機構」に対する印象について	20
2)	「サイクル機構」に対するイメージについて	20
3)	サイクル機構職員に欠けているものについて	20
4)	「サイクル機構」の地域への溶けこみについて	21
5.2	原子力発電等に対する設問について	21
1)	原子力発電の必要性及びそれへの不安について	21
2)	原子力発電に不安を感じる理由について	21
3)	今後期待するエネルギーについて	22
6	サイクル機構の業務への反映	23
6.1	概要	23
6.2	業務運営に関することについて	23
6.3	広報に関することについて	24
6.4	「サイクル機構モニターいばらき」に関することについて	24
7	まとめ	25
付録 1	【モニターからの意見】	付 - 1 (1)
付録 2	【アンケート】	付 - 2 (1)
付録 3	【第 1 期アンケート結果】	付 - 3 (1)
付録 4	【第 2 期アンケート結果】	付 - 4 (1)
付録 5	【第 3 期アンケート結果】	付 - 5 (1)
付録 6	【第 4 期アンケート結果】	付 - 6 (1)
付録 7	【第 5 期アンケート結果】	付 - 7 (1)
付録 8	【第 6 期アンケート結果】	付 - 8 (1)

表 目 次

表 1	モニター（地域別、性別、職業、年齢）の構成 ……………	28
表 2-1	モニターから頂いた意見に対するサイクル機構の取組みについて （業務運営に関すること） ……………	32
表 2-2	モニターから頂いた意見に対するサイクル機構の取組みについて （広報に関すること） ……………	33
表 2-3	モニターから頂いた意見に対するサイクル機構の取組みについて （「サイクル機構モニターいばらき」に関すること） ……………	34

図 目 次

図 1	モニターの性別及び年齢構成 ……………	35
図 2-1	「サイクル機構」に対する印象 ～初回と最終回の比較～ ……………	36
図 2-2	「サイクル機構」に対する印象 ～%による比較～ ……………	36
図 3-1	「サイクル機構」に対するイメージ ～初回と最終回の比較～ ……	37
図 3-2	「サイクル機構」に対するイメージ ～%による比較～ ……………	37
図 4-1	サイクル機構職員に欠けているもの ～初回と最終回の比較～ ……	38
図 4-2	サイクル機構職員に欠けているもの ～%による比較～ ……………	38
図 5-1	「サイクル機構職員」の地域への溶けこみ～初回と最終回の比較～	39
図 5-2	「サイクル機構職員」の地域への溶けこみ ～%による比較～ ……	39
図 6-1	原子力発電の必要性 ～初回と最終回の比較～ ……………	40
図 6-2	原子力発電の必要性 ～%による比較～ ……………	40
図 7-1	原子力発電への不安 ～初回と最終回の比較～ ……………	41
図 7-2	原子力発電への不安 ～%による比較～ ……………	41
図 8-1	原子力発電に不安を感じる理由 ～初回と最終回の比較～ ……………	42
図 8-2	原子力発電に不安を感じる理由 ～%による比較～ ……………	42
図 9-1	今後期待するエネルギー ～初回と最終回の比較～ ……………	43
図 9-2	今後期待するエネルギー ～%による比較～ ……………	43

1 はじめに

「サイクル機構モニターいばらき」において、延べ 205 名をモニターとして委嘱し、会合を通してサイクル機構の事業説明、施設見学、意見交換会等を行い、直接多くの意見を頂いた。

モニターは、東海事業所、大洗工学センターが所在する東海村、大洗町及び旭村を中心とした隣々接市町村までに在住する地域の方々であり、本報告書に記述の意見はこれら住民の生の声である。

本報告書では、これらの意見を取りまとめ、一定の成果があったもの、課題として抽出されたもの等を分析・評価したうえで業務に反映したもの、また、今後の業務運営に反映すべきものをまとめた。

2 「サイクル機構モニターいばらき」について

2.1 目的

業務の透明性を図り、社会に開かれた体制を構築することを目的として、「サイクル機構モニターいばらき」の制度（以下、モニター制度という）を導入した。具体的には、サイクル機構の技術的及び社会的信頼を確立し、それを維持するために、地域の方々を対象として、サイクル機構の業務内容や原子力の基本知識を広く紹介するとともに、原子力施設を見学し、直接その声を聴き、サイクル機構の業務運営に資することを目的とした双方向のコミュニケーションに基づく制度である。

2.2 モニターの選任

第1期モニターの選任は、東海事業所、大洗工学センターの立地町村及び隣接、隣々接市町村在住の方から市役所、町村役場で1~3名推薦して頂き、その方をモニターとして委嘱した。具体的には、立地町村は3名、隣接市町村は2名、隣々接市町村は1名を原則とした。また第2期以降のモニターは原則として前期モニターからの紹介とし、同一市町村在住の友人、知人を紹介して頂き、その方を次期モニターとして委嘱した。

(1) モニターの構成

東海事業所の対象となる地域は以下の通りである。

- ・ 所在地（立地）：東海村
- ・ 隣接市町 ：日立市、那珂町（現那珂市）、常陸太田市、ひたちなか市
- ・ 隣々接市町村 ：十王町（現日立市）
 金砂郷町（現常陸太田市）、水府村（現常陸太田市）
 里美村（現常陸太田市）大宮町（現常陸大宮市）
 瓜連町（現那珂市）、常北町（現城里町）
 桂村（現城里町）

大洗工学センターの対象となる地域は以下の通りである。

- ・ 所在地（立地）：大洗町、旭村
- ・ 隣接市町 ：水戸市、茨城町、鉾田町
- ・ 隣々接市町 ：笠間市、友部町、内原町（現水戸市）、岩間町
 美野里町、小川町

(2) モニターの任期

モニターの任期は1年間とし、再任は行わないこととした。

(3) モニターの資格

モニターは満 20 歳以上であることを条件とし、性別、職業は問わないこととした。但し、サイクル機構関係者はモニターの対象外とした。

2.3 モニターの役割

モニターの役割は、東海事業所および大洗工学センターにて開催する会合や原子力施設見学会に参加頂くとともに、アンケートへの協力や懇談会、説明会を通してサイクル機構の業務や原子力全般について率直な意見を述べて頂くことを主な役割とした。この他、サイクル機構が発行する各種刊行物を適宜配布し、一読を願うこととした。

2.4 モニターの委嘱期間及び会合の開催回数

モニターの委嘱期間は各年度を区切りとした。具体的には、第 1 期は、平成 11 年 3 月 23 日～平成 12 年 3 月 31 日まで、第 2 期は平成 12 年 5 月 22 日～平成 13 年 3 月 31 日まで、第 3 期は平成 13 年 6 月 13 日～平成 14 年 3 月 31 日まで、また、第 4 期～6 期の委嘱期間は 4 月 1 日～翌年の 3 月 31 日までの年度単位とした。

各期の初回会合開催時期及び年間会合開催回数は以下の通りである。

第 1 期：平成 11 年 3 月 23 日初回開催。合計 4 回開催。

第 2 期：平成 12 年 5 月 22 日初回開催。合計 4 回開催。

第 3 期：平成 13 年 6 月 13 日初回開催。合計 6 回開催。

第 4 期：平成 14 年 5 月 30 日初回開催。合計 5 回開催。

第 5 期：平成 15 年 6 月 25 日初回開催。合計 4 回開催。

第 6 期：平成 16 年 6 月 22 日初回開催。合計 4 回開催。

2.5 モニターの内訳

第 1 期は 32 名、第 2 期は 33 名、第 3 期は 34 名、第 4 期は 34 名、第 5 期は 36 名、第 6 期は 36 名をモニターとして委嘱し、第 1 期～第 6 期までに男性 118 名、女性 87 名、合計 205 名の方々をモニターとして委嘱した。委嘱したモニター（地域別、性別、職業、年齢）の構成を表 1 に、また、モニターの性別及び年齢別構成を図 1 に示す。

2.6 モニター会合の内容

各期ともモニター会合は概ね午前 10 時から午後 3 時半までの時間帯で、東海事業所と大洗工学センターにて交互に開催した。会合内容については各期とも、初回、第 2 回会合において、東海事業所、大洗工学センターの概要説明及び施設見学を実施した。また、各期を通して初回を除き各会合において 7

～9名程度のグループに分れてのディスカッションを実施した。各期を通して最終会合におけるグループディスカッションのテーマは『サイクル機構へのアドバイス』とした。

各期の活動の特徴としては、第1期はモニター制度が初めての試みであったことから、まず会合を実施することを目的の一つとし、モニター会合そのものの運営スタイルについて検討した。第2期以降は基本的に1期のスタイルを継続するとともにサイクル機構内外の原子力施設を比較し、その観点から意見を頂く目的で、(株)東京電力福島第一発電所の見学を実施した。第3～5期においては(株)東京電力福島第二発電所の見学を実施した。第6期はつくば市の筑波大学陽子線医学利用センター及び高エネルギー加速器研究機構を見学した。

その他全期を通して、初回と最終会合において各期共通のアンケート（サイクル機構や原子力について問うもの）を実施した。このアンケートはモニター会合に参加する前後の意識変化を調査するために、初回及び最終会合で同じ内容の質問とした。アンケート結果を「4アンケート結果」に示す。

3 「サイクル機構モニターいばらき」の活動概要

3.1 第1期

1) 概要

会合は合計4回開催し、第1回及び第3回は東海事業所で、第2回、第4回は大洗工学センターで開催した。

以下に各会合の開催日及び主な内容を示す。

第1回会合

- ・開催日 : 平成11年3月23日
- ・見学施設: 再処理工場、アトムワールド(東海展示館)
- ・主な内容: サイクル機構の概況の説明

第2回会合

- ・開催日 : 平成11年6月25日
- ・見学施設: 高速実験炉「常陽」
- ・主な内容: 東海再処理工場の安全への取組みについての説明

第3回会合

- ・開催日 : 平成11年9月28日
- ・見学施設: 緊急時対策所、アスファルト固化処理施設
- ・主な内容: 4グループに分かれての意見交換
《テーマ》エネルギー政策(1Gr.)、新エネルギー(2Gr.)、
安全防災(3Gr.)、サイクル機構(4Gr.)

第4回会合

- ・開催日 : 平成12年2月29日
- ・見学施設: なし
- ・主な内容: JCO事故(平成11年9月30日発生)に関する説明
4グループに分かれての意見交換
《テーマ》サイクル機構へのアドバイス

2) モニターの構成

大洗工学センター対象のモニター15名、東海事業所対象のモニター17名の合計32名を第1期のモニターとして委嘱した。年齢層は20代~60代であった。職業は、会社員、公務員、農業、自営業、主婦、定年退職された方である。

3) 主な意見

《施設見学関係》

- ・施設内で何度もサーベイを行っているところを見て、「大丈夫か」と不安になった。
- ・初めて施設を見学して、ものものしく、非常に怖く感じた。今まで以上に恐怖を感じた。
- ・施設見学の際、安全性について説明すべきである。

《安全関係》

- ・住民の本当の気持ちは安全の一言に尽きる。職員の安全教育と研究の向上がどうか、PR よりも新聞種にならないことを住民は望んでいる。
- ・報道で知る危険は安全の裏側であって、それ以上の安全確保がされていることがよくわかった。
- ・国民の信頼回復のために、安全面など精一杯努力して欲しい。

《広報関係》

- ・安全に留意し、もう少し地域の方々の意見も聞いて欲しい。
- ・定期的な地域への情報公開の実施、安全の取り組みについてもっとPRして欲しい。

《説明方法関係》

- ・専門用語が多く出てくる。工夫が必要。

3.2 第2期

1) 概要

会合は合計4回開催し、第1回を東海事業所にて、第2回、第4回を大洗工学センターにて開催した。第3回では、(株)東京電力福島第一原子力発電所を視察した。

以下に各会合開催日及び主な内容について示す。

第1回会合

- ・開催日 : 平成12年5月22日
- ・見学施設 : 再処理施設、アトムワールド(東海展示館)
- ・主な内容 : 4グループにわかれての意見交換
《テーマ》原子力の基礎についての意見交換

第2回会合

- ・開催日 : 平成12年9月13日
- ・見学施設 : 防災管理棟、安全管理棟、放射線管理棟、高速実験炉「常陽」
- ・主な内容 : 大洗工学センターの概況説明

4 グループにわかれての意見交換

《テーマ》放射線、防災

第3回会合

- ・開催日 : 平成12年11月29日
- ・見学施設 : (株)東京電力福島第一原子力発電所、Jヴィレッジ、栽培漁業施設、エネルギー館(東京電力展示館)

第4回会合

- ・開催日 : 平成13年2月26日
- ・見学施設 : ナトリウム処理施設
- ・主な内容 : 4グループに分かれての意見交換
《テーマ》サイクル機構へのアドバイス

2) モニターの構成

大洗工学センター対象のモニター15名、東海事業所対象のモニター18名の合計33名を第2期のモニターとして委嘱した。年齢層は20代～60代であった。職業は、会社員、農業、自営業、主婦、定年退職された方である。

3) 主な意見

《JCO事故関係》

- ・JCO事故があり、原子力に従事している人を信頼していたのに、裏切られた思いがする。
- ・JCO事故の教訓として、初心を忘れず仕事をするのが重要。

《防災関係》

- ・東海村には既に緊急時のマニュアルが配布されているが、「原子力は安全だ」という意識が強く、住民はよく読もうとしなかった。マニュアルは見やすく、分かりやすく、どこか家の中に貼っておけるようなものでないと良い。
- ・家庭、地域住民の安全を確保するため、何かあったときにどのように行動すればよいのかを知りたい。

《教育関係》

- ・下請け会社の安全管理が心配。知識の無い人に原子力施設の運転をして欲しくない。
- ・社員教育は重要。上司から命令されたことしか出来ないのは良くない。一つの操作がどのような結果をもたらすか、根本的なところがわかるようにしなければならない。
- ・「人間は間違える」、「機械は故障する」という精神を持つことが大切。

3.3 第3期

1) 概要

会合は合計6回開催し、その内第3回は東海事業所、大洗工学センターそれぞれの事業所に分かれて開催した。この事業所別会合を除く残り5回のうち、第1回と第6回は大洗工学センターにて、第2回と第5回は東海事業所にて実施した。第4回は、(株)東京電力福島第二原子力発電所を視察した。

第5回は午前と午後の二部構成とし、午前の部は第1期～第3期までのモニターの合同会合、午後は第3期だけの会合とした。また、第3回と第4回の間にあたる平成13年10月25日には、大洗工学センター対象のモニターのみへ、大洗工学センターの実施する総合防災訓練の見学について案内した。

また、平成13年10月31日に発生した高速実験炉「常陽」メンテナンス建屋における火災については、第4回にてその内容について説明を実施した。

以下に各会合開催日及び主な内容について示す。

第1回会合

- ・開催日 : 平成13年6月13日
- ・見学施設 : 高速実験炉「常陽」(炉心改造工事のため、格内見学無し)
大洗わくわく科学館
- ・主な内容 : 大洗工学センターの概況説明、大洗わくわく科学館の概況説明

第2回会合

- ・開催日 : 平成13年7月31日
- ・見学施設 : 防災管理棟、プルトニウム燃料第三開発施設、
アトムワールド(東海展示館)
- ・主な内容 : 東海事業所の概況説明
4グループにわかれての意見交換
《テーマ》燃料を中心に原子力全般

第3回会合(東海事業所開催分)

- ・開催日 : 平成13年9月13日
- ・見学施設 : 個人被ばく管理棟、安全管理棟
- ・主な内容 : 意見交換会

第3回会合(大洗工学センター開催分)

- ・開催日 :平成 13 年 9 月 18 日
- ・見学施設:安全管理棟、放射線管理棟
- ・主な内容:2グループにわかれての意見交換

《テーマ》放射線

防災訓練見学(大洗工学センター対象のモニターへ案内)

- ・開催日 :平成 13 年 10 月 25 日
- ・見学施設:防災管理棟内の災害対策本部、「常陽」現場指揮所
- ・主な内容:意見交換

第4回会合

- ・開催日 :平成 13 年 11 月 12 日
- ・見学施設:(株)東京電力福島第二原子力発電所、Jヴィレッジ、エネルギー館(東京電力展示館)
- ・主な内容:高速実験炉「常陽」メンテナンス建屋における火災についての説明

第5回会合(第1期~第3期合同会合)

- ・開催日 :平成 14 年 1 月 25 日
- ・見学施設:地層処分基盤研究施設(第3期のみ)
- ・主な内容:

- ・サイクル機構の近況報告
- ・講演会「地球環境とエネルギー」
《講師》元読売新聞論説委員・中村正雄氏
- ・頂いたアドバイスに対するサイクル機構の取組についての説明

第6回会合

- ・開催日 :平成 14 年 2 月 27 日
- ・見学施設:FBR サイクル国際研究開発センター
- ・主な内容:4グループにわかれての意見交換
《テーマ》サイクル機構へのアドバイス

2) モニターの構成

大洗工学センター対象のモニター16名、東海事業所対象のモニター18名の合計34名を第3期のモニターとして委嘱した。年齢層は30代~70代であった。職業は、会社員、公務員、農業、自営業、主婦、定年退職された方である。

3) 主な意見

《原子力全般》

- ・原子力の概況説明では、種々の発電の中で原子力は最も良いということになるが、良いところばかりでないことも真である。安全対策は万全と説明されても、個人的にはどうしても大丈夫と思いつれない。
- ・一般住民は原子力に関する知識が乏しく、理解するには難しい面が多々ある。
- ・放射線は目に見えないのが怖い。世代的に原子力というと原子爆弾のイメージがあり、怖いと思ってしまう。

《放射線安全関係》

- ・安全に関して、ただ大丈夫と話すだけでは駄目。数値を公表し、その上で安全をうたった方が効果がある。但し、紙面に数値が並んでいるものを手渡されるだけでは一般人は理解できない。対面で数値を用いて説明することで理解が得られる。

《広報関係》

- ・一般住民は原子力と聞くと「怖い」というイメージがあり、まだまだ原子力のPRが不足しているように思う。
- ・広報の範囲を拡大した方が良い。

《事故対応関係》

- ・事故時の情報公開が重要。公にスピーディーに情報を発信すること。
- ・事故発生は技術ではなく、人の問題である。上に立つ人の認識が重要である。

3.4 第4期

1) 概要

会合は合計5回開催し、第1回、第5回を東海事業所にて、第2回、第4回を大洗工学センターにて開催した。第3回では、(株)東京電力福島第一原子力発電所を視察した。なお、第4回は合同会合として開催し、午前と午後の二部構成とし、午前の部は第1期～第4期までのモニターの合同会合、午後は第4期だけの会合とした。

以下に各会合開催日及び主な内容について示す。

第1回会合

- ・開催日 : 平成14年5月30日
- ・見学施設 : アトムワールド(東海展示館)、防災管理棟、安全管理棟
個人被ばく管理棟
- ・主な内容 : 東海事業所の概況説明

第2回会合

- ・開催日 :平成14年8月30日
- ・見学施設:高速実験炉「常陽」
- ・主な内容:大洗工学センターの概況説明
4グループにわかれての意見交換

第3回会合

- ・開催日 :平成14年11月21日
- ・見学施設:(株)東京電力福島第二原子力発電所、Jヴィレッジ、
エネルギー館(東京電力展示館)

第4回会合(第1期~4期合同会合)

- ・開催日 :平成15年1月29日
- ・見学施設:なし
- ・主な内容:サイクル機構の近況報告
講演会「放射線の世界」
《講師》東京理科大学薬学部 教授・薬学博士
久保寺昭子氏
高速増殖炉サイクル実用化に向けた調査研究報告
サイクルGr. 小野主幹

第5回会合

- ・開催日 :平成15年3月6日
- ・見学施設:再処理工場
- ・主な内容:サイクル機構の近況報告(「もんじゅ」の判決について)
グループディスカッション
《テーマ》サイクル機構へのアドバイス

2) モニターの構成

東海事業所対象のモニター19名、大洗工学センター対象のモニター15名の合計34名を第4期のモニターとして委嘱した。年齢層は30代~60代であった。職業は、公務員、農業、自営業、アルバイト、主婦である。

3) 主な意見

《JCO事故関係》

- ・JCO事故でも時間がたたないと正確な情報が広まらなかったので迅速な対

応を望む。

《教育関係》

- ・学校の授業にも取り入れ原子力の安全性・必要性をアピールしてほしい。
- ・危険物を扱っているので人の教育は大切にしていきたい。

《安全関係》

- ・事故を起こさないためには働いている人達がマニュアルを守るとか、心身とも健康であることも重要である。
- ・エネルギーの必要性は理解できるが、事故トラブルが多いのは残念である。
- ・安全管理を更に徹底してほしい。

《その他》

- ・地元行事への原子力ブースに出展するときは必ずパンフレットも配布した方がよい。
- ・モニター制度はよい。今後とも継続していくべきである。
- ・施設を直接見、聞くことができ大きく関心をもった。

3.5 第5期

1) 概要

会合は合計4回開催し、その内第1回及び第4回は大洗工学センター、第2回は東海事業所にて実施した。第3回は(株)東京電力福島第一原子力発電所を視察した。

以下に各会合開催日及び主な内容について示す。

第1回会合

- ・開催日 : 平成15年6月25日
- ・見学施設 : 高速実験炉「常陽」
安全管理棟、放射線管理棟
大洗わくわく科学館
- ・主な内容 : 大洗工学センターの概況説明、大洗わくわく科学館の概況説明

第2回会合

- ・開催日 : 平成15年9月10日
- ・見学施設 : 再処理施設見学
- ・主な内容 : 東海事業所の概況説明
4グループにわかれての意見交換

《テーマ》特に設定なし

第3回会合

- ・開催日 : 平成15年11月20日
- ・見学施設 : (株)東京電力福島第一原子力発電所、Jヴィレッジ、エネルギー館(東京電力展示館)

第4回会合

- ・開催日 : 平成16年3月9日
- ・見学施設 : FBR サイクル国際研究開発センター
- ・主な内容 : 高速増殖炉サイクル実用化に向けた調査研究について
実験炉「常陽」冷却系改造工事ビデオ
4グループにわかれての意見交換
《テーマ》サイクル機構へのアドバイス

2) モニターの構成

東海事業所対象のモニター19名、大洗工学センター対象のモニター17名の合計36名を第5期のモニターとして委嘱した。年齢層は30代～70代であった。職業は、会社員、公務員、農業、自営業、主婦、定年退職された方である。

3) 主な意見

《原子力全般》

- ・原子力は悪い情報(TV、新聞)だけだったので不安があったが、モニターになって原子力に対する安心を得た。
- ・モニターを通して原子力の必要性がよくわかった。
- ・原子力は絶対必要なものだと思うが安全性のことを考えると全面的に受入れることができない部分もある。そういう人もいることを理解し、安全対策をしっかり行い業務を進めてほしい。

《広報関係》

- ・専門用語を分かりやすく説明する体制作りが必要である。
- ・原子力は怖いものと思われているのでパンフレット等で、特に安全面をやさしく伝えてほしい。

《事故対応関係》

- ・トラブル時の報告等は可能な限り早く伝えてほしい。

《モニター関係》

- ・原研と統合してもモニター制度は継続してほしい。
- ・モニター対象人数を増やして理解者を増やす工夫をすべきである。

《その他》

- ・いろいろな資料をいただき見学させていただき大変勉強になった。安全ということがよくわかったが、モニターだけでなく広くいろいろなところでPRを行ったらよいと思う。
- ・どうしたら地域の人々に取り組んでいる方向と内容、使命、役割を理解していただけるかと言う面でやや不満を感じる。内部の技術者や関係者のみで取り組んでいるのが原因だと思う。

3.6 第6期

1) 概要

会合は合計4回開催し、第1回、第4回を東海事業所にて、第2回を大洗工学センターにて開催した。第3回ではつくば市にある「筑波大学陽子線医学利用センター」及び「高エネルギー加速器研究機構」を視察した。

以下に各会合開催日及び主な内容について示す。

第1回会合

- ・開催日：平成16年6月22日
- ・見学施設：アトムワールド（東海展示館）、防災管理棟、安全管理棟
- ・主な内容：東海事業所の概況説明

第2回会合

- ・開催日：平成16年9月2日
- ・見学施設：高速実験炉「常陽」、大洗わくわく科学館
- ・主な内容：大洗工学センターの概況説明
4グループにわかれての意見交換

第3回会合

- ・開催日：平成16年11月30日
- ・見学施設：筑波大学陽子線医学利用センター
高エネルギー加速器研究機構

第4回会合

- ・開催日：平成17年2月24日
- ・見学施設：再処理施設

地層処分基盤研究施設

- ・ 主な内容：サイクル機構の近況報告
グループディスカッション
《テーマ》サイクル機構へのアドバイス等

2) モニターの構成

東海事業所対象のモニター19名、大洗工学センター対象のモニター17名の合計36名をモニターとして委嘱した。年齢層は30代～60代であった。職業は、会社員、公務員、農業、アルバイト、パート、主婦である。

3) 主な意見

《教育関係》

- ・ 原子力が環境にやさしいことを理解してもらう活動をすべきである。

《安全関係》

- ・ 立派な施設であるが、老朽化に対して点検・整備を行う等努力してほしい。
- ・ 安全対策についても真摯に取り組まれていると思うが、より一層安全に留意して研究開発してほしい。
- ・ 原子力の開発は安全を最優先でやってほしい。

《モニター関係》

- ・ 原研とサイクル機構が統合されるとモニター制度はどうなるのか、継続されることを望む。

《その他》

- ・ JCO事故以来、原子力は怖いものだと思っていたが、イメージが変わった。再処理施設など見学でき、知識も深めることが出来た。
- ・ まだまだモニターの原子力に対する不安はつきないと思うが、ディスカッションの場で説明を受け、原子力の安全対策などを理解できれば安心も生まれると思う。
- ・ 施設見学を受け入れてほしい。
- ・ 原子力のトラブルが報道でよく取上げられているので不安に思っていた。モニターになり施設見学や意見交換をしたことで多少なり不安が解消してきた。現場を見ることは理解する上でよかった。

4 アンケート結果

4.1 アンケートの概要

第1期～第6期まで、各期毎に初回及び最終会合にて同じ内容のアンケートを実施し、モニター経験前後の意識を調査した。アンケート内容を「8データ集」付録2に示す。アンケートの各設問に対する回答は選択形式としたが、回答選択理由については記述形式とした。

各期のアンケートの回答をまとめた結果、すべての設問を通して第1期～第6期において初回と最終回の回答傾向はほぼ同様であることがわかった。その結果を図2-1～9-2に示す。また「8データ集」付録3～8に各期の結果とモニターからの意見を掲載した。

なお、初回の回答者数合計は189名、最終回の回答者数合計は169名であった。以下に各設問の結果を示す。

4.2 アンケート結果

1) 「サイクル機構」に対する印象について〔設問1〕

結果を図2-1、図2-2に示す。初回と最終回の結果を比較して、最終回ではサイクル機構に対する「印象は良い」と回答したモニターが増加し、その数は全体の約95%となった。また、「どちらとも言えない」との回答が初回には回答者全体の約55%を超えたのに対し、最終回では減少し、全体の約5%となった。また初回に悪い印象をもったモニターが回答者全体で約10%であったのに対し、最終回では悪い印象を持つモニターはいない結果となった。

最終回で印象が良くなった理由としては、モニターを通して原子力やサイクル機構の業務の必要性、安全性及び放射線や放射能の管理状況等の説明を受けたことや施設を見学することにより、内容を知ることができたこと、直接接した職員の印象が良かったこと、等が挙げられた。また、初回にどちらとも言えないと回答した理由については、原子力やサイクル機構を良く知らないことが理由に挙げられた。

2) 「サイクル機構」に対するイメージについて〔設問2〕

結果を図3-1、図3-2に示す。本設問に対しては、複数回答を可とした。初回と最終回の結果を比較すると、最終回で「官僚的」イメージを持つとしたモニターは初回と較べ約1/3、「閉鎖的」イメージを持つが約1/9、「わからない」と回答したモニターが約1/15にそれぞれ減少し、「開かれた」と感じるモニターが約1.9倍、「親しめる」と感じるが約1.7倍、「明るい」と感じるが約1.6倍、「まじめ」と感じるが約1.6倍となった。回答者数別に見ると、最

終回での「サイクル機構の」印象は、「開かれた」、「親しめる」、「まじめ」、「明るい」のイメージが回答者の大多数を占め好印象に変化した。

最終回で、「開かれた」、「親しめる」、「まじめ」、「明るい」と感じた理由には、最初は閉鎖的なイメージであったがモニターとして会合に参加し、職員と接する間にそう思うようになった等が挙げられた。

3) サイクル機構職員に欠けているものについて〔設問3〕

結果を図4-1、図4-2に示す。本設問に対しては、複数回答を可とした。初回と最終回の結果を比較すると最終回結果では、「情報を公開しようとする姿勢」が約1/2、「事故等を自分のものとして受け止める姿勢」が約5/7、「責任感」、「安全意识」が欠けていると感じているモニターが約1/2にそれぞれ減少した。一方回答者数別に見ると、多かった回答は、「事故等を自分のものとして受け止める姿勢」、「情報を公開しようとする姿勢」、「安全意识」であった。

次にそれぞれの回答理由について示す。まず、「事故等を自分のものとして受け止める姿勢」を選択した理由として、欠けているとは思わないがその姿勢を持ち続けて欲しいということが挙げられた。「情報を公開しようとする姿勢」、「安全意识」を選択した意見としては、一人ひとりが自分の仕事に自覚と責任をもって取り組み、安全面だけを強調するのではなく、リスク面も明らかにしてそれに対する対応も明らかにして欲しいということが挙げられた。また、その他を選択した理由には、数回の会合で職員を判断することは難しいという点が挙げられたが、それと同時に、トラブル時の新聞報道において批判記事を眼にすると「そう思わせてしまう何かがあった」と感じるとの意見も挙げられた。

4) 「サイクル機構」の地域への溶けこみについて〔設問4〕

結果を図5-1、5-2に示す。初回、最終回ともに、「どちらかと言えばそう思う」、「どちらとも言えない」との回答が多い結果となった。最終回の結果では、「そう思う」、「どちらかと言えばそう思う」、「どちらとも言えない」が増加した。「そう思わない」、「わからない」の回答では、「そう思わない」の回答では約半分以下に減少した。この結果、初回ではサイクル機構が地域に溶けこんでいると思うモニターと、溶け込んでいないと思うモニターの数がほぼ同等であったのに対し、最終回ではサイクル機構が地域に溶けこんでいると思うモニターが大きく上回る結果となった。一方、「わからない」の回答は、初回31名の回答があったのに対し、最終回では4名に減少した。

次にそれぞれの回答理由について示す。地域に溶けこんでいると感じる理

由としては、「サイクル機構モニターいばらき」を開催していること、各地域に出かけての広報活動や展示館等で交流活動があること等が挙げられた。どちらとも言えない理由には、隣々接市町村においてはあまり関りが無いこと等が挙げられた。溶けこんでいないと感じる理由には、まだまだ何をしているか周知されていないこと、住民側から見れば十分とは思わないこと等が挙げられた。

5) 原子力発電の必要性及びそれへの不安について〔設問5〕〔設問6-1〕

ここでは、原子力発電の必要性を問う設問と、原子力発電への不安を問う設問をまとめて結果を述べる。結果を図 6-1~図 7-2 に示す。原子力発電の必要性については、初回、最終回ともに、回答の傾向は変わらず、原子力発電を「必要」と考えるモニターが大多数を占め、その割合は初回で全体の約 63%、最終回では全体の約 75%となり、「どちらかと言えば必要」の回答を加えると初回で全体の約 90%、最終回で全体の約 95%となった。また、原子力発電への不安についても、初回と最終回で回答の傾向は変わらず、原子力発電に不安を「感じる」回答者が多数を占める結果となり、その数は「少し感じる」を含めると、初回では約 84%、最終回で約 70%となり若干不安が改善された。

次に設問に対する回答の理由を示す。原子力発電の必要性について、「必要」な理由には、日本は資源の乏しい国であること、日本の現在のエネルギー必要量が原子力発電なくしてはまかないきれない状態であること等が上げられた。「どちらかと言えば必要」との回答理由には、色々なエネルギーの組み合わせで利用するのが良いこと、原子力に代わる安全で人にも環境にも優しいものが出来ると良いが、エネルギーの安定供給を考慮すると今は頼らざるを得ないこと等が挙げられた。また、「どちらとも言えない」の回答に対する理由には、目先の利便性だけを追求することなく本当の豊かさとは何かを考えると、生活の仕方も変えることが挙げられた。

6) 原子力発電に不安を感じる理由について〔設問6-2〕

結果を図 8-1、図 8-2 に示す。本設問に対しては、複数回答を可とした。原子力発電に不安を感じる理由で初回に多かったものは、「運転員の操作ミスの可能性があるから」、「JCO のような臨界事故の可能性があるから」、「老朽化による施設破損の可能性があるから」、「放射性廃棄物の処理・処分方法がまだ確立されていないから」、「被ばくの可能性があるから」、「地震による施設破損の可能性があるから」という結果となった。初回と最終回の結果を比較すると、全体として理由の選択肢を、複数選択する回答者が減少する傾向であった。特

に「JCOのような臨界事故の可能性があるから」、「被ばくの可能性があるから」、「老朽化による施設破損の可能性があるから」と回答したモニターが初回と比較して最終回では顕著に減少する結果となった。「その他」の回答には、漠然とした不安を挙げる回答者が多数を占め、具体的意見として不安材料は一つではなく「大丈夫」と100%信じていることができないこと、「危険ではあると思うこと」、特に協力会社員等の教育が不安であること等が挙げられた。

7) 今後期待するエネルギーについて〔設問7〕

結果を図9-1、図9-2に示す。本設問に対しては、複数回答を可とした。初回と最終回の結果を比較して、「風力発電」、「太陽光」、「原子力発電」で最終回の回答数が増加した。これらは初回と比較して、それぞれ回答者が約1.2倍となった。また、回答者数別に結果を見ると、初回、最終回で回答の傾向は変わらず、今後期待するエネルギーとして「太陽光」に次いで「原子力発電」、「風力発電」の順に回答者が多く、また、「原子力発電」を選択した多くのモニターが同時に「太陽光」も選択していた。

「原子力発電」、「太陽光」を選択した理由には、地球温暖化につながらないエネルギーであること、今すぐに使用できる「原子力発電」と共に将来的にはより安全な「太陽光」が実用化されればさらに良いこと等が挙げられた。

5 アンケートに対する考察

各設問のアンケート結果に対する考察は以下のとおりである。

5.1 「サイクル機構」に対する設問について

1) 「サイクル機構」に対する印象について〔設問1〕

第1回では、サイクル機構についてよく知らないことを理由に、“どちらとも言えない”と回答した回答者が全体の約1/3を占めたのに対し、最終回ではほぼ全員がサイクル機構に対する印象は“良い”と回答した。これはモニターが会合に参加して原子力に関する説明を聞き、施設を見学したことによって、原子力やサイクル機構の業務について理解を深めていただけたこと、施設見学やグループディスカッションを通じてサイクル機構職員と直接話したことにより、サイクル機構に良い印象を持っていただいたと考えられる。

2) 「サイクル機構」に対するイメージについて〔設問2〕

モニターとしての1年間の活動により、サイクル機構を身近に感じ、機構に好感を持ったと考えられる。しかしながらモニターとしてはサイクル機構を身近に感じるが、第三者としてみると近寄りが多く、閉鎖的、官僚的なイメージがあるとの意見もあった。この意見は初回アンケート結果からも読み取ることができる。具体的には第三者的要素に近い状態である初回の結果ではサイクル機構のイメージは、「官僚的」、「閉鎖的」と感じるモニターが「親しみやすい」、「明るい」、「開かれた」と感じるモニターとほぼ同数であり、一般の方々の多くがサイクル機構に対して「閉鎖的」、「官僚的」と感じていると考えられる。一方、最終回における結果から、「閉鎖的」、「官僚的」と感じるモニターが激減したことから、これらのイメージを払拭するためには、サイクル機構の施設を直に見ていただくこと、直接職員と話す機会を持つこと等が有効な手段であると考えられる。

3) サイクル機構職員に欠けているものについて〔設問3〕

回答の選択肢を分析すると、「事故等を自分のものとして受けとめる姿勢」、「安全意识」、「責任感」はそれぞれ、「責任感」の欠如から事故等を自分のものとして受けとめる姿勢が欠如することに繋がり、また「安全意识」の欠如は業務を安全に遂行する責任感の欠如に繋がり、これらを併せて考えると、事故等を「自分のものとして受けとめる姿勢」、「安全意识」、「責任感」が欠如していると感じる根本原因は同じところにあると考えられる。また、「地域活動」、「地元意識」についても、「地元意識」が無いことから「地域活動」が

不足し、さらには、地元意識の欠如から安全意識が低いとも考えられる。

これらを総合すると、最終回で回答者数が最多となった事故等を自分のものとして受けとめる姿勢が欠けている、との回答の裏には安全意識、責任感、地域活動、地元意識の欠如が潜んでいると考えられ、事故等を自分のものとして受けとめる姿勢を改善するためには安全意識の向上にとどまらず地域活動等、多方面から取り組んでいく必要がある。

次に最終回で回答者数の多かった、「情報を公開しようとする姿勢」の欠如について述べる。特にモニターへは逐次サイクル機構が刊行するパンフレットやその他情報を提供してきたにも関わらず、「情報を公開しようとする姿勢」が欠けていると感じる回答者が最終回結果においても多数を占める結果となった。これは、サイクル機構の発する情報が理解困難であったこと、モニターの要求する情報と、サイクル機構の提供する情報にズレがあったこと等が可能性として挙げられる。

4) 「サイクル機構」の地域への溶けこみについて〔設問4〕

この設問では、設問中の「地域」をそれぞれの回答者が在住している市町村と捉えたことにより、「どちらかと言えばそう思う」、「どちらとも言えない」の順に回答が初回、最終回ともに多くなったと考えられる。これは、回答者が在住する市町村にサイクル機構が出向いていないことを回答理由に挙げていることから推測できる。この結果からサイクル機構の所在町村である大洗町、旭村、東海村から遠方に在住しているほど、「地域に溶けこんでいない」と感じるモニターが多かったと考えられる。一方この結果は、〔設問3〕における機構職員に欠けるもので、「地域活動」の回答結果と関係していると考えられるが、今回の設問では、「地域」を限定しなかったことから、正確な分析を行うことはできなかった。

5.2 原子力発電等に対する設問について

1) 原子力発電の必要性及びそれへの不安について〔設問5〕〔設問6-1〕

アンケート結果から、殆どのモニターが原子力発電を「必要」だと感じている一方、その多くが原子力発電に何らかの不安を感じていることがわかった。この結果は、初回と最終回で同じ傾向を示したことから、モニター会合で実際に施設を見学し、原子力に関する知識を得、さらにはサイクル機構に対して良い印象を持った後にも、「原子力発電」に対する不安は拭えないことがわかった。

2) 原子力発電に不安を感じる理由について〔設問6-2〕

初回と最終回の結果の比較から、施設を見学すること及び原子力に関する知識を得ることによって、放射線被ばくに関すること、事故時の通報連絡、老朽化による施設の破損、臨界事故に関する不安については、ある程度取り除くことができるが、運転員の操作ミス、地震による施設破損、放射性廃棄物処理処分方法の未確立等の不安が完全に払拭されていないことがわかった。またその他の回答として漠然とした不安を挙げるモニターもあり、原子力についての知識をある程度深めても、漠然とした不安は消えないことがわかった。

3) 今後期待するエネルギーについて〔設問7〕

原子力発電の必要性を問う設問において原子力発電は必要であると殆どのモニターが回答していたが、今後期待するエネルギーで最も回答が多くなったのは「太陽光」であった。また「原子力発電」を選択した多くが「太陽光」も同時に選択していたことから、全てのエネルギー源を原子力発電に頼るのではなく、「原子力発電」を加えたベストミックスを望んでいると考えられる。一方「原子力発電」を必要に感じながらもその殆どが何らかの不安を感じていること、及び今すぐに使用できる原子力発電とともに将来的にはより安全な太陽光が実用化されればさらに良い、という意見から、やむなく原子力を選択しているモニターもいることが考えられる。

また最終回において原子力発電に期待するモニターが増加したのは、実際にモニターとして原子力及び、日本のエネルギー事情に関する知見が深まった結果であると思われる。

6 サイクル機構の業務への反映

6.1 概要

モニター制度の導入の大きな目的の一つは、モニターからサイクル機構や原子力に対して直接聴いた意見をサイクル機構の業務運営に資することである。モニターから直接意見を聴く機会には、モニター会合やアンケートがあり、1期～6期を通じて多くの意見が集まった。頂いた主な意見「8 データ集」付録1に示す。これらの意見に対してサイクル機構では様々な取組みを行ってきた。その取組み状況を、表2-1～表2-3に示す。モニターからの意見は大きく分けると、業務運営に関すること、広報に関すること、モニター制度に関すること、に分類でき、表には分類ごとの意見及び取組みについて記した。またモニターから寄せられた意見は、サイクル機構の取組みに反映可能なアドバイスと、意見として頂く感想に分類した。以下に個々の取組みについて記す。

なお、1期～3期までにモニターからいただいた意見などに対するサイクル機構の取組みについては、平成13年に実施した1期～3期の「第1回合同会合」及び平成17年度に実施した1～6期「第3回合同会合」の場にて報告した。

6.2 業務運営に関することについて

業務運営に関するアドバイスとそれに係るサイクル機構の取組みについてまとめたものを、表2-1に示す。アドバイスは 作業安全に関すること、従業員の意識に関すること、地域住民との交流に関すること、学校教育への参画に関すること、の4つに分類できる。

作業安全に関しては、全作業員に対する教育・訓練の徹底や教育内容の見直しを継続的に実施していくこととした。従業員の意識に関しては、外部の専門家を招へいしての研修や、社外研修への参加等を継続的に実施していくこととした。地域との交流については、平成13年7月にオープンした「大洗わくわく科学館」、平成15年4月にオープンした「テクノ交流館リコッティ」を交流の拠点として今後も継続的に活用していくと共に、地域行事や清掃活動等のボランティア活動にも継続して積極的に参加していくこととした。学校教育への参画に関しては、平成13年11月から女性PAチーム等による地元小中学校への出張授業を実施しているが、これを継続して実施していくこと、また、地元学校や各種団体、町内会サークルなどの施設見学も積極的に受け入れていくこととした。

6.3 広報に関することについて

広報に関するアドバイスとサイクル機構の取組みについてまとめたものを表 2-2 に示す。広報に関するアドバイスは、 広報の方法に関すること、 広報の内容に関すること、 の2つに分類できる。

広報の方法に関しては、国の研究機関としての色々な制約があるが、可能な範囲でマスメディア、広報誌、インターネット等を用いて広報の強化を図ると共に、事業説明会等を実施することとした。広報内容に関しては、より分かりやすいものとなるよう絵を多用したり、専門用語に解説をつけたり、文字を大きくするなど、説明内容及び資料について継続的に見直しを実施していくこととした。また、広報の拠点としてアトムワールドを今後とも有効活用していくこととした。

6.4 「サイクル機構モニターいばらき」に関することについて

モニター制度に関するアドバイスとサイクル機構の取組みについて、表 2-3 に示す。モニター制度に関するアドバイスは、 会合に関すること、 モニターの選任の方法（全県レベルで幅広い年齢層を対象にする等）に関すること、 の2つのアドバイスに分類できる。

モニター制度に関しては意見として寄せられた、OB 会の開催希望については第 3 期、4 期及び 17 年度に特別会合を実施した。また、モニターの選任については、新たな制度として 14 年度より 16 年度の茨城県内全域の方々を対象としアンケートを主体とした「コミュニケーションモニター茨城」を実施した。

7 まとめ

アンケートでは、大きく分けて サイクル機構について、原子力発電について、の二つについて尋ねており、〔設問1〕の現在の「サイクル機構」の印象について問う設問から、〔設問4〕の「サイクル機構」の地域への溶けこみを問う設問までは前者 について、〔設問5〕の原子力の必要性を問う設問から、〔設問7〕の今後期待するエネルギーを問う設問までは、後者 について、尋ねている。

また、アンケートへの回答と合わせて多くの意見も寄せられた。主要点を以下に示す。

《サイクル機構について》

- (1) 多くのモニターが、サイクル機構の必要性を理解したが、安全を最優先に作業を進めることを望んでいる。
- (2) 多くのモニターが、広報の方法及び内容の改善、学校教育への原子力知識の啓蒙活動の導入を望んでいる。広報の内容については、専門用語は使わず、図や写真を多用した説明を望んでいる。
- (3) サイクル機構職員に欠けると感じる事柄は、事故等を自分のものとして受け止める姿勢、情報を公開しようとする姿勢、であると感じるモニターが多い傾向にある。
- (4) 多くのモニターが、地域住民と直接交流を図れるモニター制度は、非常に良い制度であり、継続を望んでいる。

《モニターの意識変化について》

- (1) 1年を通じてサイクル機構に足を運び、サイクル機構職員と直接話す機会を得たことで、モニターが機構に対して親近感を持ち、その結果、機構に対する印象が改善できた。
- (2) モニターを経験する前後において、多くのモニターが原子力発電の必要性を感じていたが、その約7割が、基本的な原子力の知識を得、サイクル機構に対して親近感を持った後においても、原子力発電の安全性に対して少なからず不安を感じており、モニター経験後も原子力に対する不安は払拭できない傾向にある。

前述のとおり、サイクル機構については、1年間で機構について知り、親近感を持ったことで、1年前と比較して印象等は好転した。

原子力発電については1年前から必要性を認めながらも、その不安は1年間

で完全には払拭しきれなかったが、不安の理由が1年前と1年後で変化している。具体的には臨界事故発生の可能性を理由とする回答者が減少し、運転員の操作ミス理由とする回答者が引き続き高い割合を示している。また原子力発電を将来のエネルギー源として期待する回答者が増加している。

「サイクル機構モニターいばらき」を実施することで、サイクル機構に対しては親近感を持ち、開かれた存在であると認知され、さらに、原子力発電の必要性の認知度も向上するが、その不安は払拭しきれず、不安の理由の多くを占める“運転員の操作ミス”、からも伺えるように、原子力事業やサイクル機構の事業に全幅の信頼をおくには至っていないことがわかる。

一般の方々には、第一に日本のエネルギー事情を理解いただくこと、第二に、原子力発電の必要性について理解いただくこと、合わせて、原子力の正しい知識を持っていただくことが重要である。

サイクル機構においても、地域の方々に対して同様の理解促進活動、広報活動を展開していくことが重要であることはいうまでもない。

合わせて、サイクル機構が地域及び社会に対して常に開かれた存在であること（地域に存在を認めてもらうこと）も必要である。まず、サイクル機構従業員の一人一人（原子力に従事する従業員）が、人として信頼されることが、地域の理解、信頼を得ていくことの出発点である。オープンな姿勢で、積極的な情報公開及び地域共生に努めていくことが、漠然とした不安感の払拭と良好な信頼関係構築の一助になると思われる。

個別の課題としては、人的ミスによる不安、及び原子力は危険である、という意見が払拭しきれないことが挙げられている人的ミスによる不安については、原子力関係の事故原因を突き詰めると、技術的な問題ではなく、人的ミスが原因していることが多く、これが不安の原因になっていると考えられる。

リスクコミュニケーション等を含めた原子力の理解活動を導入する等、広報の方法を工夫することも必要ではあるが、対策の本質は、サイクル機構従業員の一人一人（原子力に従事する従業員）が、安全を最優先として事業に取り組む姿勢を示し、それを実践し、かつその実績を積み上げることに他ならない。

一方、「サイクル機構モニターいばらき」の制度を6期運用継続してきたが、各期においていただいたモニターの意見を年度ごとに適宜業務に反映させてきたにもかかわらず、第1期から6期を通じて、初回アンケートにおける原子力あるいはサイクル機構に対する印象については、ほとんど改善傾向が見られていない（横ばい）という結果が出ている。

これは、日々改善の努力を積み重ねても、あるいは多様な取り組みを展開し

ても、それらが、地域の方々に広く深く浸透しきれていない、あるいは、浸透することに長い時間を要することを示している。結局、これらの理解促進活動・地域共生活動に近道は無く、日々地道かつ丁寧に積み重ね、継続していくことが唯一の選択肢であると思われる。また、仮に、改善傾向が見られたとしても、大きなトラブルの発生等があれば、一瞬にしてその印象が悪化することは過去の経験からも想像に難くない。近年、報道機関の原子力関連の事象に対する過剰あるいはセンセーショナルな報道傾向がマイナスに作用していることは否めないが、対策の本質は、前述のとおり、安全を最優先とした事業実績の積み重ねに尽きると思われる。

サイクル機構においては、「サイクル機構モニターいばらき」の運用により、多くの業務改善、地域の方々の原子力、サイクル機構業務に対する理解度向上など一定の成果を上げることができたが、前述のとおり、今後とも安全を最優先とした事業実績の積み重ねと、地道かつ丁寧な理解促進・地域共生活動を両輪として、事業を進めていくことが重要である。また、この基本原則を新法人に引き継いでゆくことが必要と考える。

表1モニター(地域別、性別、職業、年齢)の構成

(―はアンケート未記入の方)

在住市町村	性別	職業	年齢	モニター委嘱
東海村	男性	―	60代	第1期
	男性	―	60代	
	男性	―	60代	第2期
	男性	―	60代	
	女性	―	60代	
	男性	無職	70代	第3期
	男性	無職	60代	
	女性	主婦	70代	
	男性	自営業	50代	第4期
	女性	主婦	50代	
	女性	主婦	60代	
	男性	会社員	30代	第5期
	女性	主婦	30代	
	女性	主婦	40代	
	男性	会社員	30代	第6期
	女性	主婦	60代	
	女性	主婦	60代	
那珂町 (現那珂市)	男性	―	60代	第1期
	男性	―	60代	
	男性	―	60代	第2期
	女性	―	40代	
	男性	無職	60代	第3期
	男性	会社員	50代	
	男性	無職	60代	第4期
	男性	―	40代	
	男性	―	60代	第5期
	男性	無職	60代	
	男性	―	60代	第6期
	男性	無職	70代	
	日立市	男性	―	60代
男性		―	60代	
男性		―	60代	第2期
男性		―	60代	
男性		―	60代	第3期
男性		無職	60代	
男性		無職	60代	第4期
男性		無職	60代	
男性		無職	70代	第5期
男性		会社員	60代	
男性		無職	60代	第6期
男性		無職	60代	
ひたちなか市	男性	―	60代	第1期
	女性	―	50代	
	女性	―	40代	第2期
	女性	―	40代	
	女性	主婦	40代	第3期
	女性	主婦	50代	
	男性	無職	60代	第4期
	女性	主婦	40代	
	女性	―	50代	第5期
	男性	―	60代	
	男性	―	60代	第6期
	男性	―	60代	

表1モニター(地域別、性別、職業、年齢)の構成

(―はアンケート未記入の方)

常陸太田市	女性	―	50代	第1期
	女性	―	30代	
	女性	―	40代	第2期
	女性	―	40代	
	女性	パート	不明	第3期
	女性	主婦	40代	
	女性	主婦	50代	第4期
	女性	アルバイト	40代	
	女性	主婦	40代	第5期
	女性	主婦	50代	
	女性	主婦	70代	第6期
	女性	主婦	40代	
十王町 (現日立市)	女性	―	40代	第1期
	男性	―	50代	第2期
	男性	無職	60代	第3期
	男性	無職	60代	第4期
	男性	無職	60代	第5期
	男性	無職	60代	第6期
水府村 (常陸太田市)	女性	―	40代	第1期
	女性	―	40代	第2期
	男性	自営業	40代	第3期
	女性	主婦	40代	第4期
	女性	自営業	40代	第5期
金砂郷町 (常陸太田市)	女性	主婦	30代	第6期
	男性	―	50代	第1期
	男性	―	60代	第2期
	男性	―	60代	第3期
	男性	農業	50代	第4期
	女性	主婦	60代	第5期
大宮町 (常陸大宮市)	女性	主婦	50代	第6期
	男性	―	40代	第1期
	男性	公務員	20代	第2期
	男性	公務員	40代	第3期
	男性	公務員	40代	第4期
	男性	公務員	50代	第5期
瓜連町 (現那珂市)	男性	公務員	40代	第6期
	男性	―	60代	第1期
	男性	―	60代	第2期
	男性	会社員	60代	第3期
	男性	―	60代	第4期
	男性	無職	50代	第5期
桂村 (城里町)	男性	無職	70代	第6期
	女性	―	50代	第1期
	女性	―	50代	第2期
	女性	主婦	60代	第3期
	女性	主婦	60代	第4期
	女性	主婦	50代	第5期
常北町 (城里町)	女性	主婦	60代	第6期
	男性	―	40代	第1期
	女性	―	40代	第2期
	女性	主婦	40代	第3期
	女性	主婦	50代	第4期
	男性	農業	60代	第5期
里美村 (常陸太田市)	男性	農業	60代	第6期
	男性	無職	60代	第4期
	男性	自営業	60代	第5期
	男性	会社員	50代	第6期

表1モニター(地域別、性別、職業、年齢)の構成

(―はアンケート未記入の方)

在住市町村	性別	職業	年齢	モニター委嘱
大洗町	男性	団体職員	60代	第1期
	男性	自営業	60代	
	男性	農業	50代	
	男性	自営業	60代	第2期
	男性	―	60代	
	男性	無職	60代	第3期
	女性	主婦	50代	
	男性	理髪店	60代	第4期
	男性	無職	60代	
	男性	農業	60代	第5期
	女性	無職	60代	
	男性	無職	60代	第6期
	男性	無職	50代	
旭村	男性	農業	60代	第1期
	男性	公務員	20代	
	男性	アルバイト	60代	第2期
	男性	農業	60代	第3期
	男性	無職	60代	第4期
	男性	無職	70代	第5期
	女性	無職	70代	
	男性	無職	60代	第6期
	男性	無職	60代	
茨城町	女性	パート	50代	第1期
	女性	パート	40代	
	女性	―	―	第2期
	女性	―	60代	
	女性	パート	50代	第3期
	女性	主婦	50代	
	女性	主婦	50代	第4期
	男性	農業	60代	
	女性	―	50代	第5期
	男性	農業	60代	
	女性	主婦	40代	第6期
	男性	農業	70代	
鉾田町	女性	主婦	30代	第1期
	女性	主婦	30代	第2期
	女性	主婦	30代	
	女性	主婦	30代	第3期
	女性	主婦	30代	
	女性	木工業	40代	第4期
	女性	主婦	30代	第5期
	女性	主婦	30代	
	男性	無職	60代	第6期
	男性	無職	60代	
水戸市	男性	無職	60代	第1期
	男性	無職	60代	第2期
	男性	無職	70代	第3期

表1 モニター(地域別、性別、職業、年齢)の構成

(―はアンケート未記入の方)

水戸市	男性	無職	60代	第4期
	男性	無職	60代	第5期
	男性	無職	60代	第6期
笠間市	男性	会社員	40代	第1期
	男性	会社員	40代	第2期
	女性	主婦	40代	第3期
	女性	主婦	40代	第4期
	女性	―	40代	第5期
	女性	主婦	30代	第6期
友部町	男性	公務員	30代	第1期
	男性	会社員	40代	第2期
	男性	自営業	40代	第3期
	男性	会社員	30代	
	男性	ボランティア	70代	第4期
	男性	ボランティア	60代	
	男性	―	70代	第5期
	男性	無職	60代	
	男性	無職	60代	第6期
	男性	無職	60代	
内原町 (現水戸市)	男性	公務員	50代	第1期
	女性	―	40代	第2期
	男性	―	60代	
	男性	無職	60代	第3期
	女性	無職	60代	
	女性	パート	50代	第4期
	女性	パート	50代	
	女性	主婦	50代	第5期
	女性	主婦	60代	
	女性	無職	60代	第6期
	女性	無職	60代	
岩間町	男性	公務員	50代	第1期
	男性	無職	60代	第2期
	男性	無職	60代	第3期
	男性	無職	60代	第4期
	男性	農業	60代	第5期
	男性	会社員	60代	第6期
美野里町	女性	主婦	60代	第1期
	女性	主婦	60代	
	女性	主婦	50代	第2期
	女性	主婦	60代	
	女性	主婦	60代	第3期
	女性	主婦	60代	
	女性	主婦	60代	第4期
	女性	主婦	60代	
	女性	主婦	60代	第5期
	女性	主婦	―	
女性	主婦	50代	第6期	
女性	主婦	60代		
小川町	男性	農業	60代	第1期

表2-1 モニターから頂いた意見に対するサイクル機構の取組みについて(業務運営に関すること)

アドバイス	機構の取組み
○ 作業者に対する十分な教育を行うこと。	職員はもとより、関連企業従業員や作業員も含めた教育・訓練の強化、教育内容の見直しを適宜実施。(作業者認定制度の導入もある)
○ 慣れに注意すること。	作業前にその日の作業内容・手順を確認することの他、現場での危険予知や、危険のポイントの復唱等を実施。
○ 民間会社との従業員の意識のズレがある。	“動燃”⇒“サイクル機構”への移行と同時に、社外から招へいた講師による社内研修、社外研修等を通して意識改革を継続的に実施。
○ 地域住民との交流の場を持つこと。	「アトムワールド」、「大洗わくわく科学館」、「テクノ交流館リコッティ」を地域住民の方との交流の拠点の1つとして活用。また、立地及び周辺市町が主催する行事や清掃活動等のボランティア等に積極的に参加。
○ 住民との話し合いの場を多く持つこと。	地域フォーラム、さいくるフレンドリートークなどを開催し、業務報告や説明会、意見交換を実施。また、事業所周辺宅への戸別訪問を実施。
○ 地域に密着し、情報公開をすること。	
○ 学校教育へ参画すること。	平成13年11月より女性PAチーム等による地元学校への出張授業を実施。また、地元学校の施設見学の受入れを実施。
○ 施設見学を受入れること。	まとまった人数(約10名以上)で受入可。
○ トラブル時は可能な限り早く連絡すること。	トラブル時に迅速な対応が出来るようにインフラの整備、従業員の教育・訓練等を実施。

ご意見・ご感想

- | |
|---|
| ○ 何事にも自信を持つこと。 |
| ○ 仕事にプロ意識をもつこと。 |
| ○ 茨城の原子力事業者が連携をとった東海NOAH協定は良い。 |
| ○ 原子力の開発は安全最優先にやってほしい。 |
| ○ 人間がすることですから、絶対はないのですから、日頃の心構えが大切だと思います。 |

表2-2 モニターから頂いた意見に対するサイクル機構の取組みについて(広報に関すること)

アドバイス	機構の取組み
○ サイクル機構のPRをもっとした方が良い。	国の研究機関としての各種制約はあるものの、マスメディア、広報誌、インターネットなどを通じて、PRの強化を継続していく。
○ マスコミを有効に活用した方が良い。	再処理施設等の運転状況については毎日HPで公表、サイクル機構全体のトピックスについては毎週「週報」としてプレス発表、事案に応じて適宜個別発表。また、記者に対し、勉強会、施設見学会などを適宜開催。
○ 説明に、専門用語が多く、難解である。説明に工夫を。具体的には文字より写真、絵を活用すること。	皆さまに分かりやすく我々の業務についてご理解いただけるよう、説明内容及び資料についてアンケートを行う等して継続的に見直しを実施。
○ 広報誌は住民に行きわたるように市町村などを利用したほうが良い。	市町村や主な公共施設などに配布を実施。
○ 専門用語を分かりやすく説明する体制作りすること。	施設見学、出張授業等に女性PAチーム体制で実施。
○ 展示館の展示物の内容が難しい。	展示物更新の際、見直しを図る。
○ 主婦対象の説明会を開催して欲しい。	「地域フォーラム」「さいくるフレンドリートーク」等を開催。

ご意見・ご感想
○ PRの第一は事故をおこさないことである。
○ “茨城の原子力” “サイクルポケットブック” は役に立った。
○ 原子力は怖いものだと思われるのでパンフレットなどで特に安全面を易しく伝えてほしい。
○ 原子力についてまだまだ、一般の方へのPRが不足している。もっと地域に根付いた理解促進活動が必要である。

表2-3 モニターから頂いた意見に対するサイクル機構の取組みについて(「サイクル機構モニターいばらき」に関すること)

アドバイス	機構の取組み
<input type="radio"/> OB会を開催して欲しい。	第3期、第4期及び17年度に特別会合を実施。
<input type="radio"/> モニター任期満了後も種々の案内等連絡が欲しい。	主に郵送により、広報誌やカレンダーの配布、サイクル機構主催のイベント案内を実施。
<input type="radio"/> サイクル機構主催のイベントへ参加できるよう検討して欲しい。	
<input type="radio"/> 結果の報告をして欲しい。	第3期及び17年度特別会合時に、いただいたご意見に対するサイクル機構の取組みについて報告。
<input type="radio"/> 開催案内は余裕をもって通知して欲しい。	できるかぎり早く案内を行う。具体的には、会合開催1ヶ月前の案内を目安とした。
<input type="radio"/> 会合当日に配付される資料を事前に配布して欲しい。	予め提供可能なものについては事前配布に努めた。
<input type="radio"/> モニターに対して、1年間の任期の中で行う命題を決めた方が良い。	第3期から第1回会合にてモニター会合の年間計画について説明。
<input type="radio"/> 施設見学前に施設についての説明を予めして欲しい。	より理解を深めていただけるよう必要に応じて事前説明を実施した。
<input type="radio"/> 全県レベルでの幅広い人選をした方が良い。	14年度～16年度の間に、広く県内の方を対象とし、アンケートを主体としたコミュニケーションモニターを実施した。
<input type="radio"/> 年齢や性別など、モニター選定の方法について検討した方が良い。	
<input type="radio"/> モニター同士の自己紹介、情報交換が出来ると良い。	グループディスカッションやOB会などを通じてより友好的な形ができるよう努めた。

ご意見・ご感想

<input type="radio"/> モニターとなったことで、原子力に対する関心が深まった。
<input type="radio"/> 全原子力事業者に対するモニター制度の設置を検討した方が良い。
<input type="radio"/> 会合において、いたれりつくせりでなくて良い。

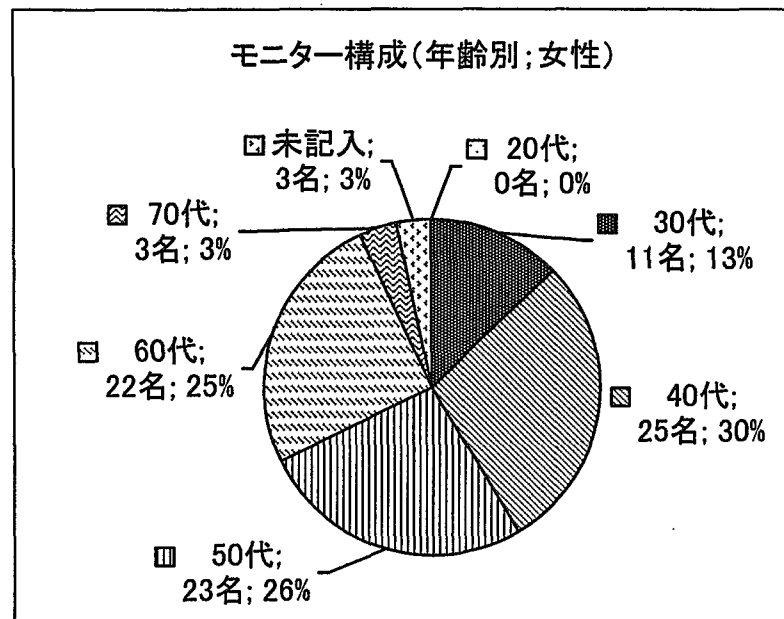
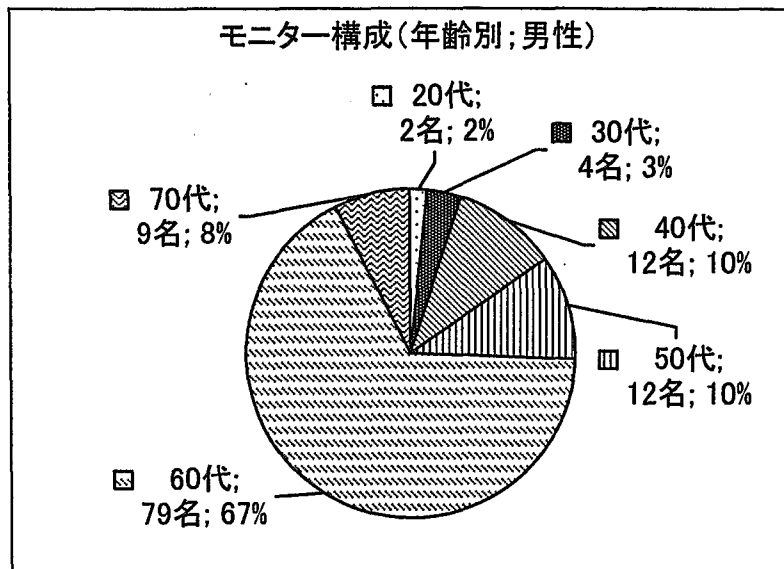
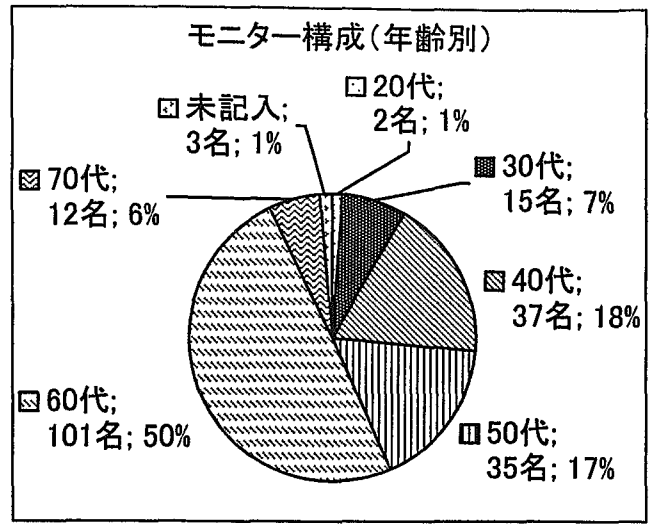
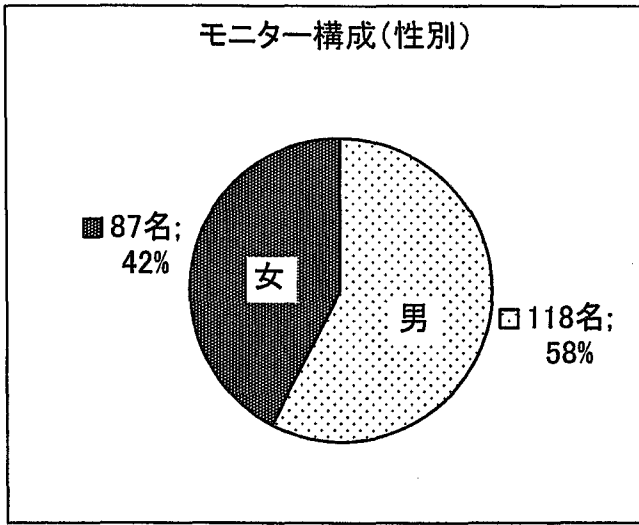


図1 モニターの性別及び年齢構成

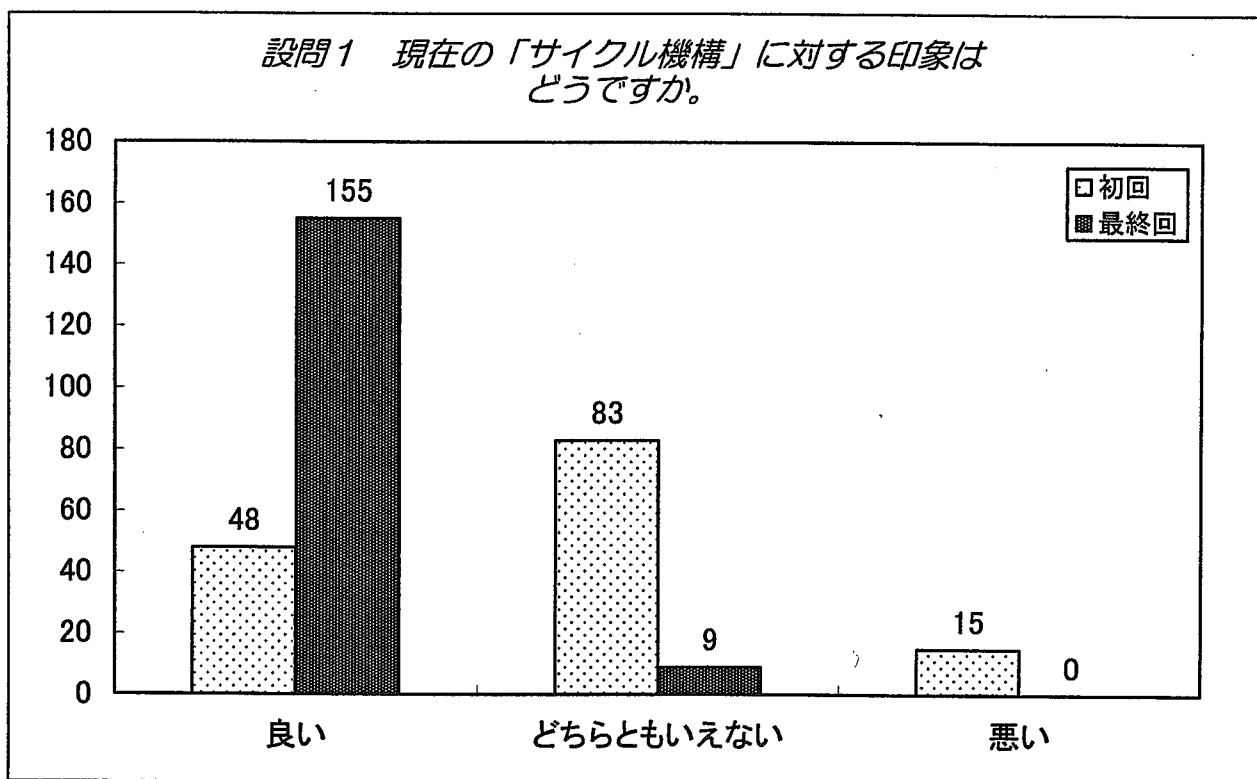


図2-1 「サイクル機構」に対する印象 ～初回と最終回の比較～

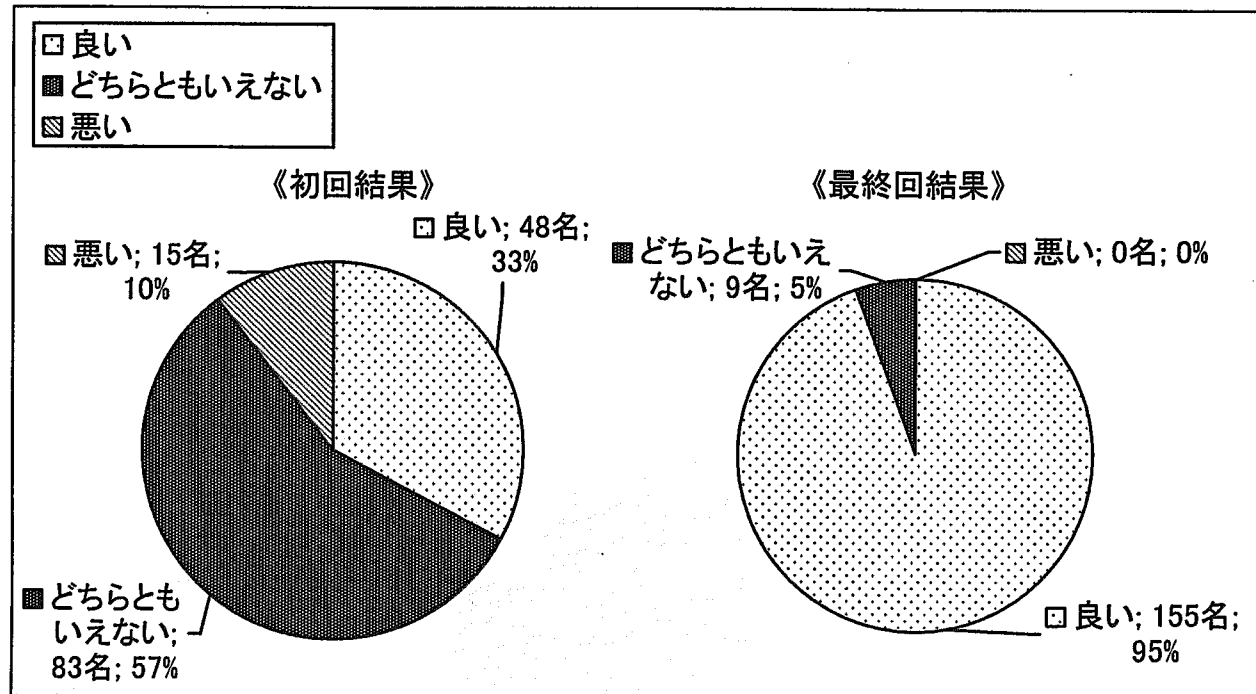


図2-2 「サイクル機構」に対する印象 ～%による比較～

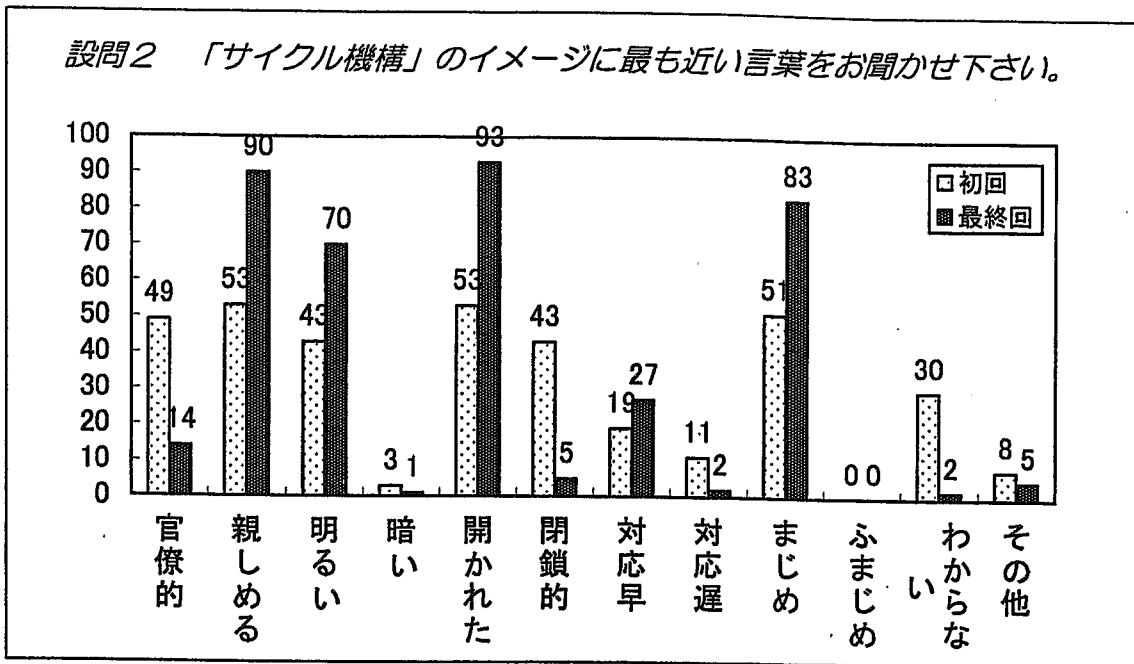


図3-1 「サイクル機構」に対するイメージ ～初回と最終回の比較～

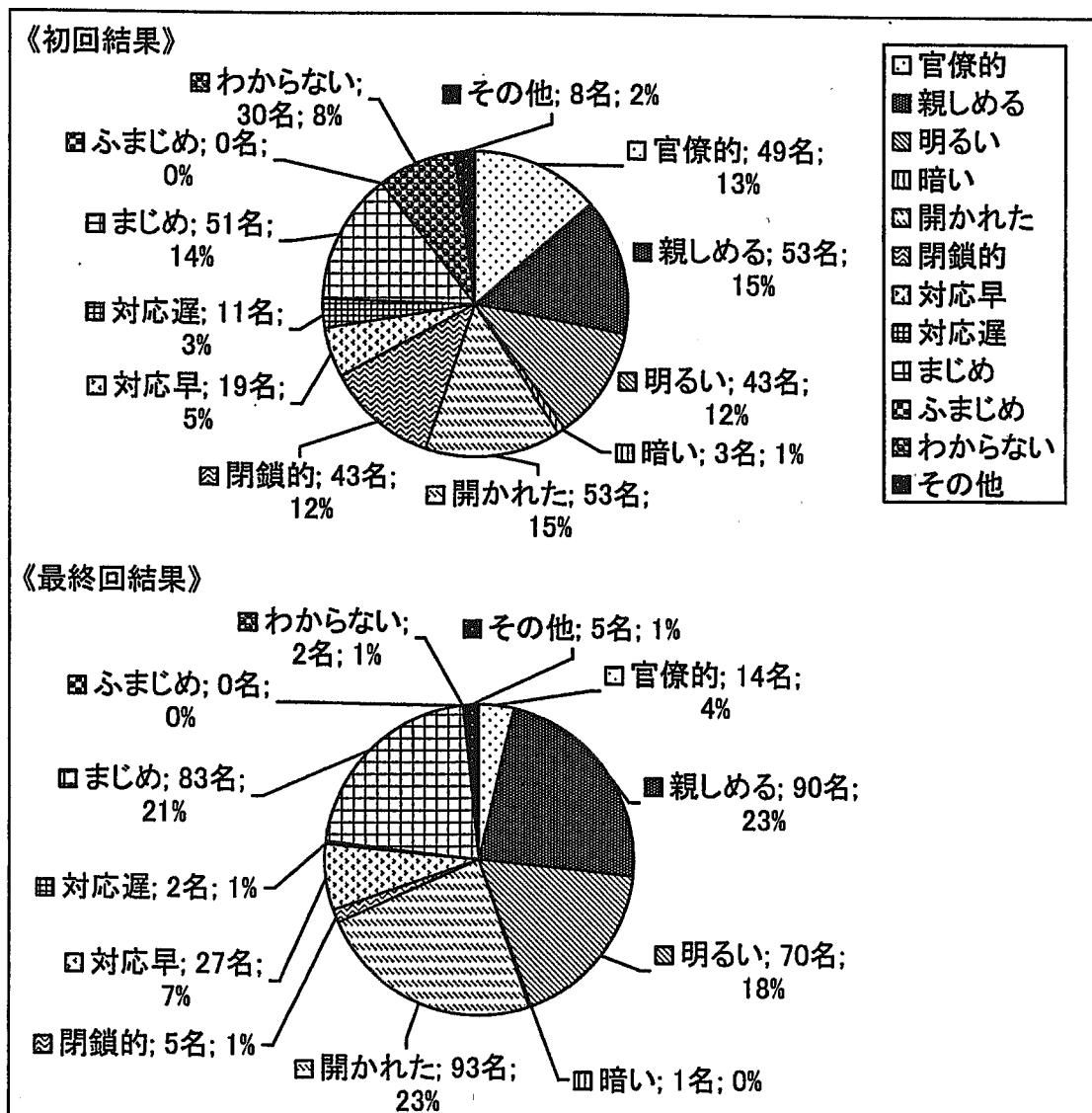


図3-2 「サイクル機構」に対するイメージ ～%による比較～

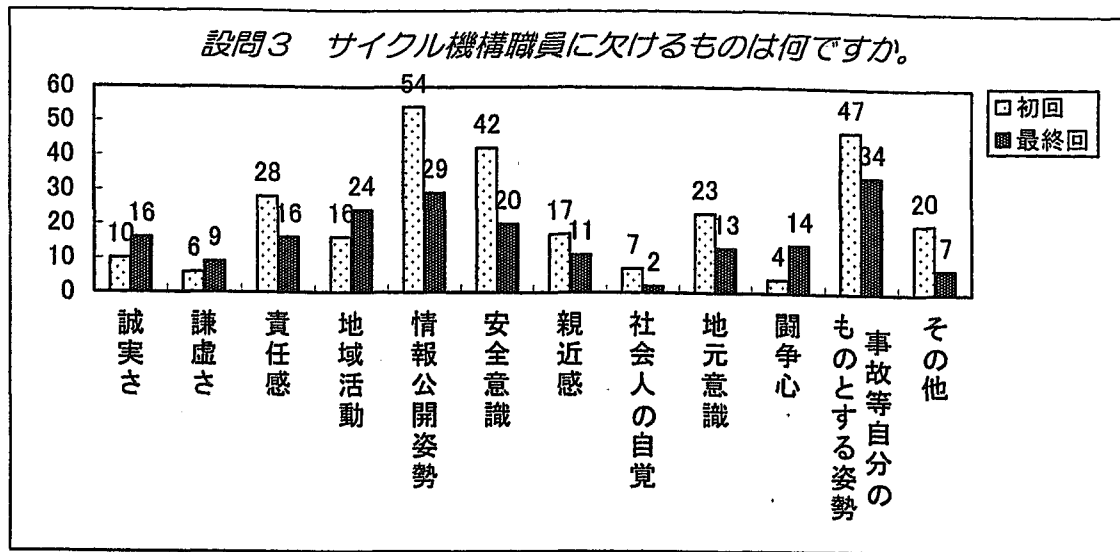


図4-1 サイクル機構職員に欠けているもの ～初回と最終回の比較～

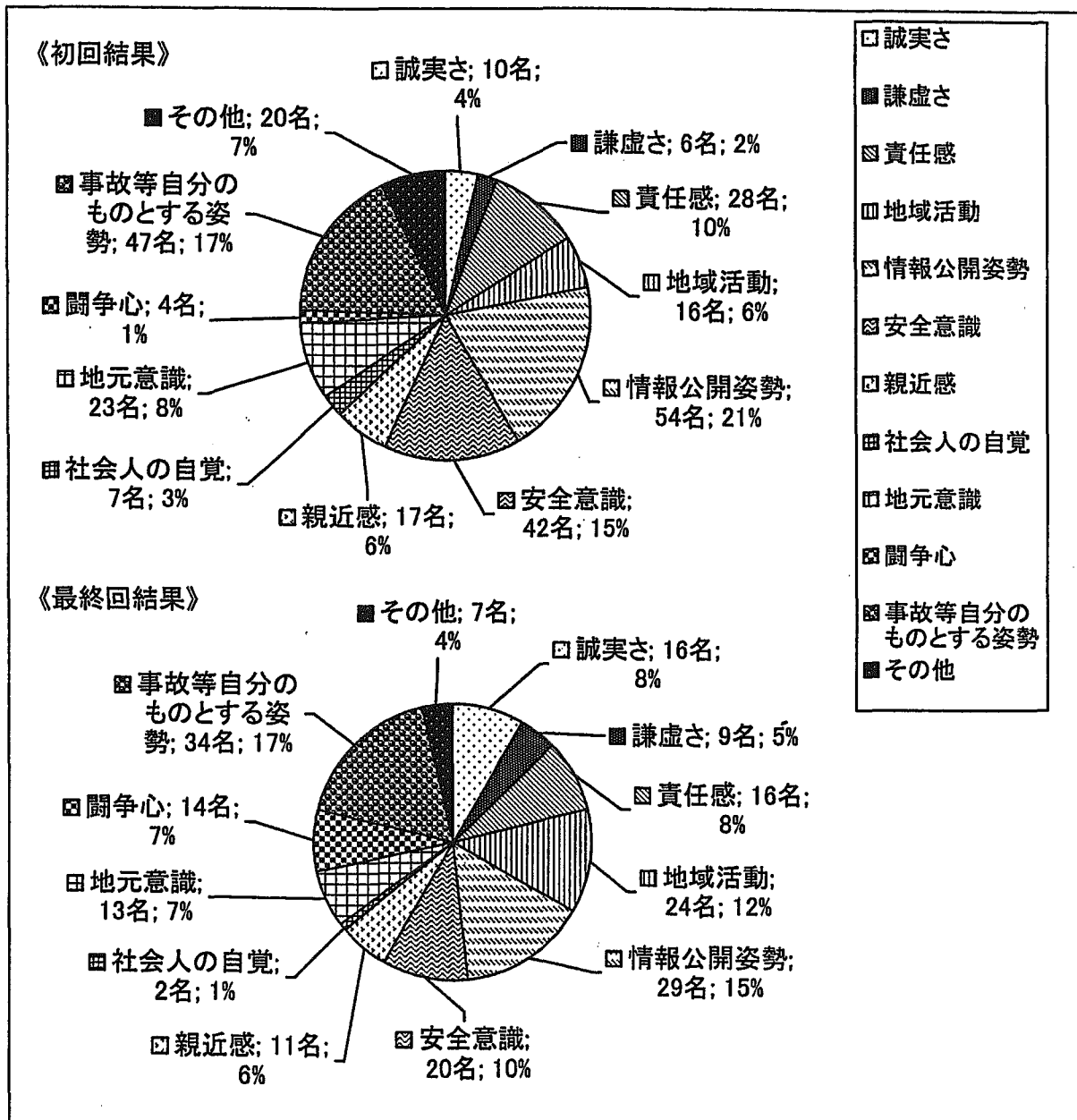


図4-2 サイクル機構職員に欠けているもの ～%による比較～

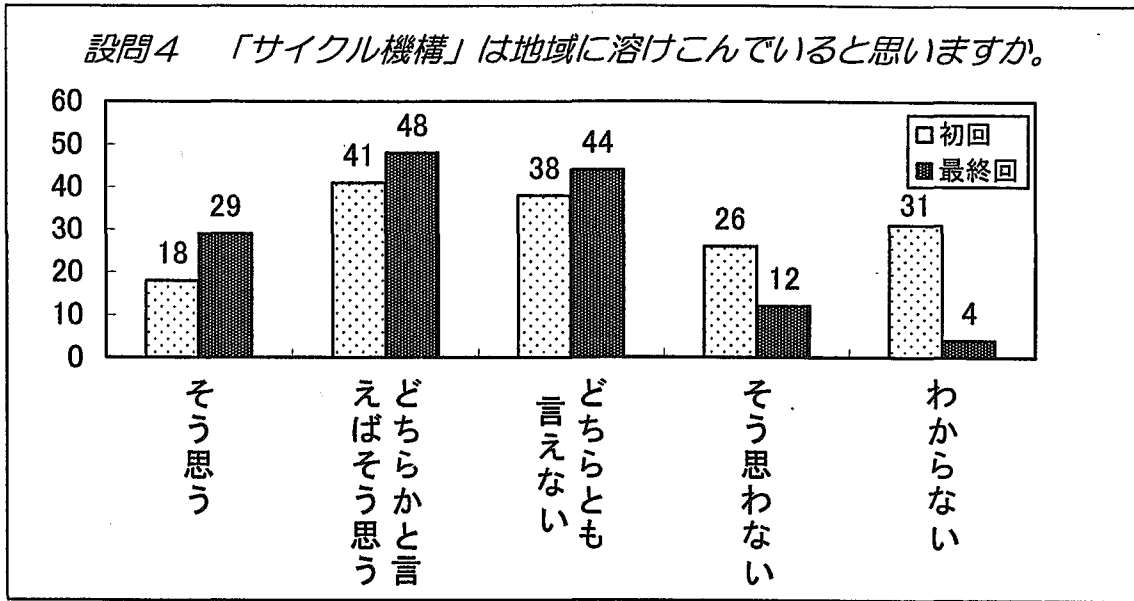


図5-1 「サイクル機構職員」の地域への溶けこみ ～初回と最終回の比較～

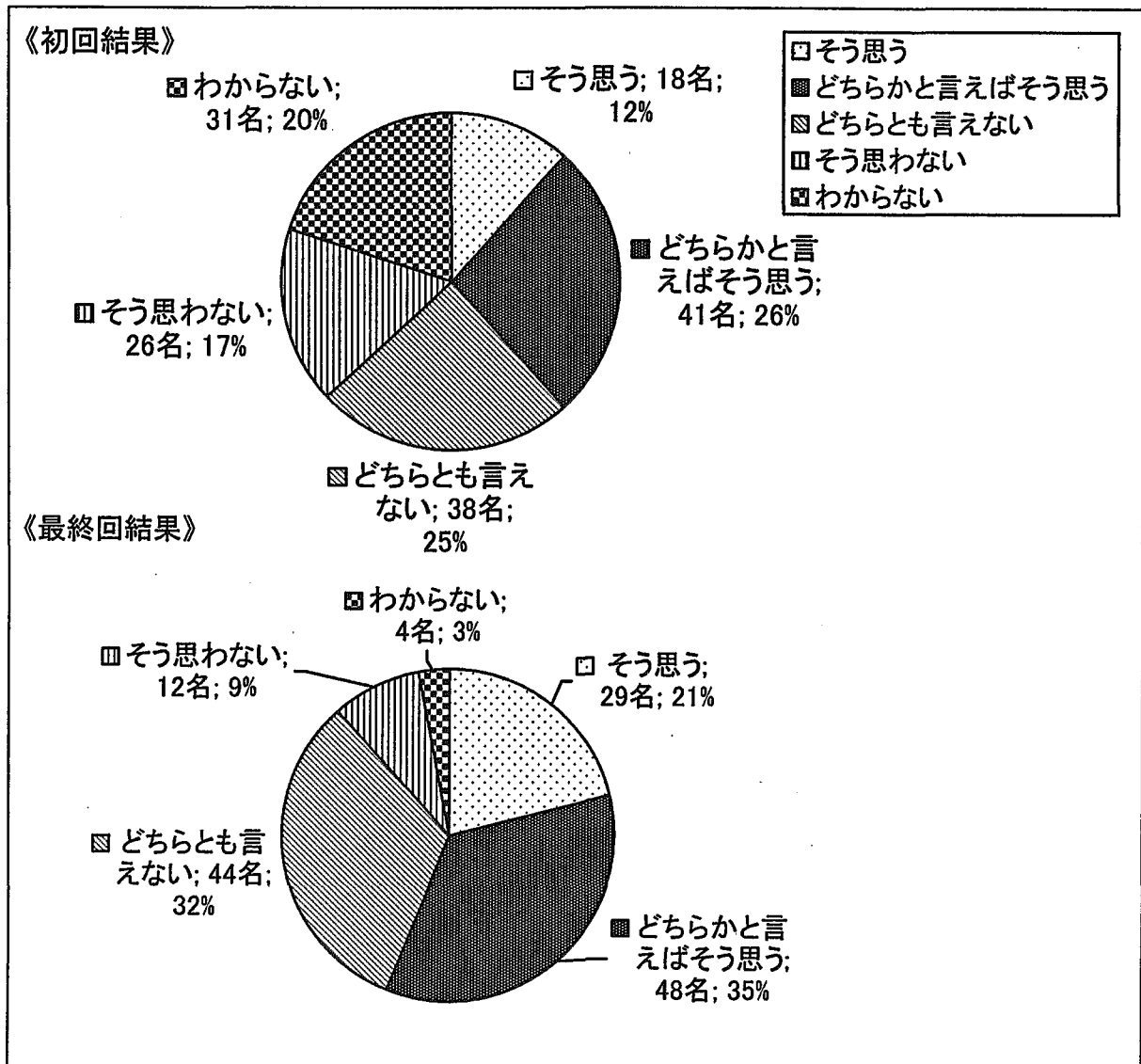


図5-2 「サイクル機構職員」の地域への溶けこみ ～%による比較～

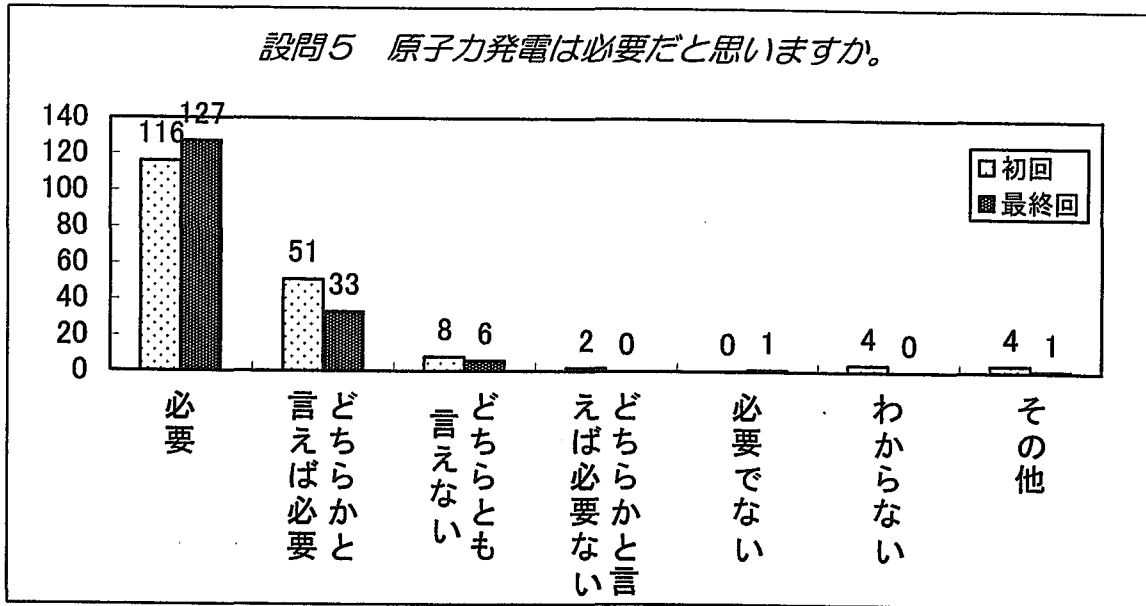


図6-1 原子力発電の必要性 ～初回と最終回の比較～

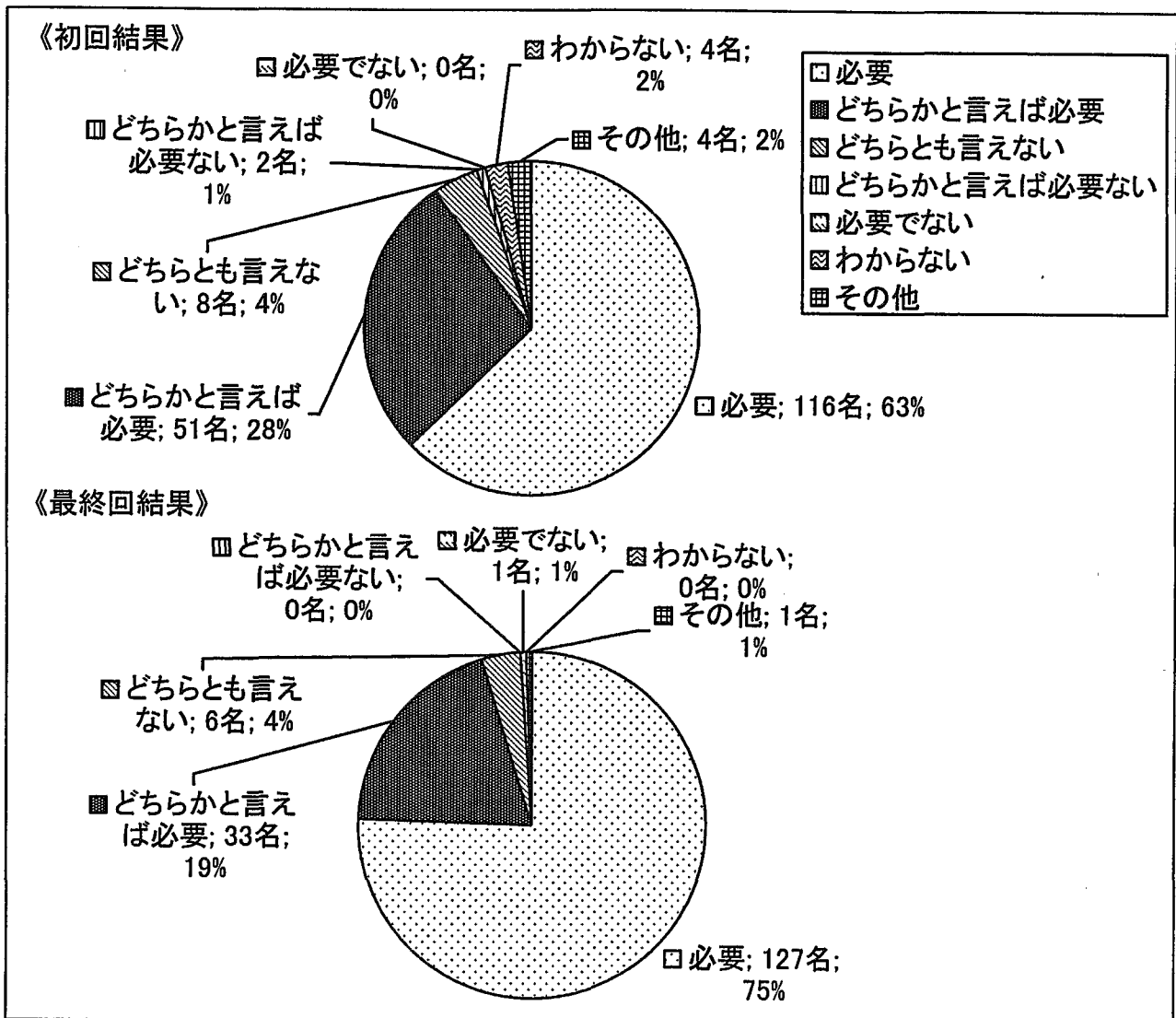


図6-2 原子力発電の必要性 ～%による比較～

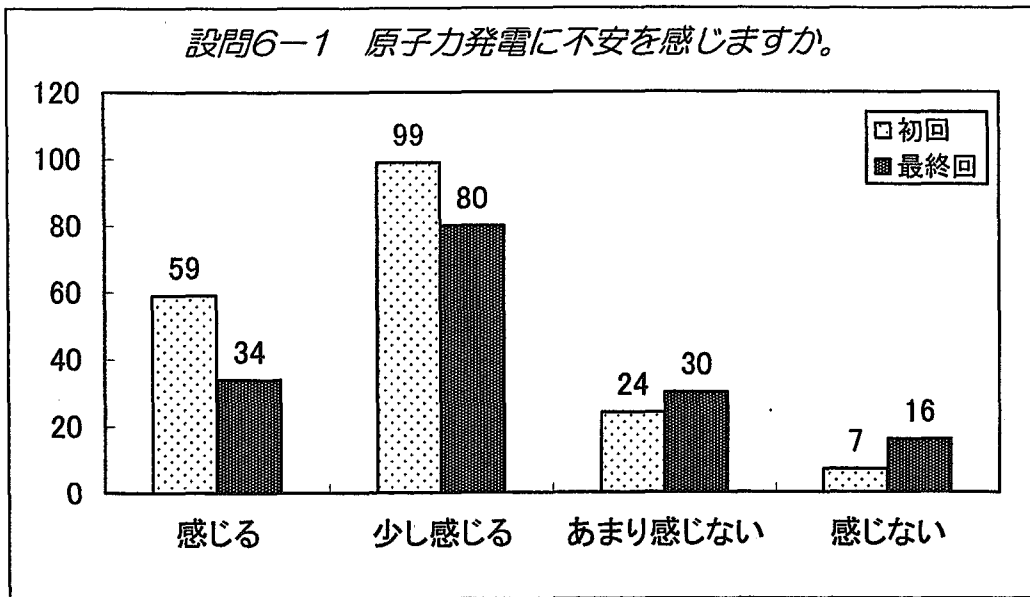


図7-1 原子力発電への不安 ～初回と最終回の比較～

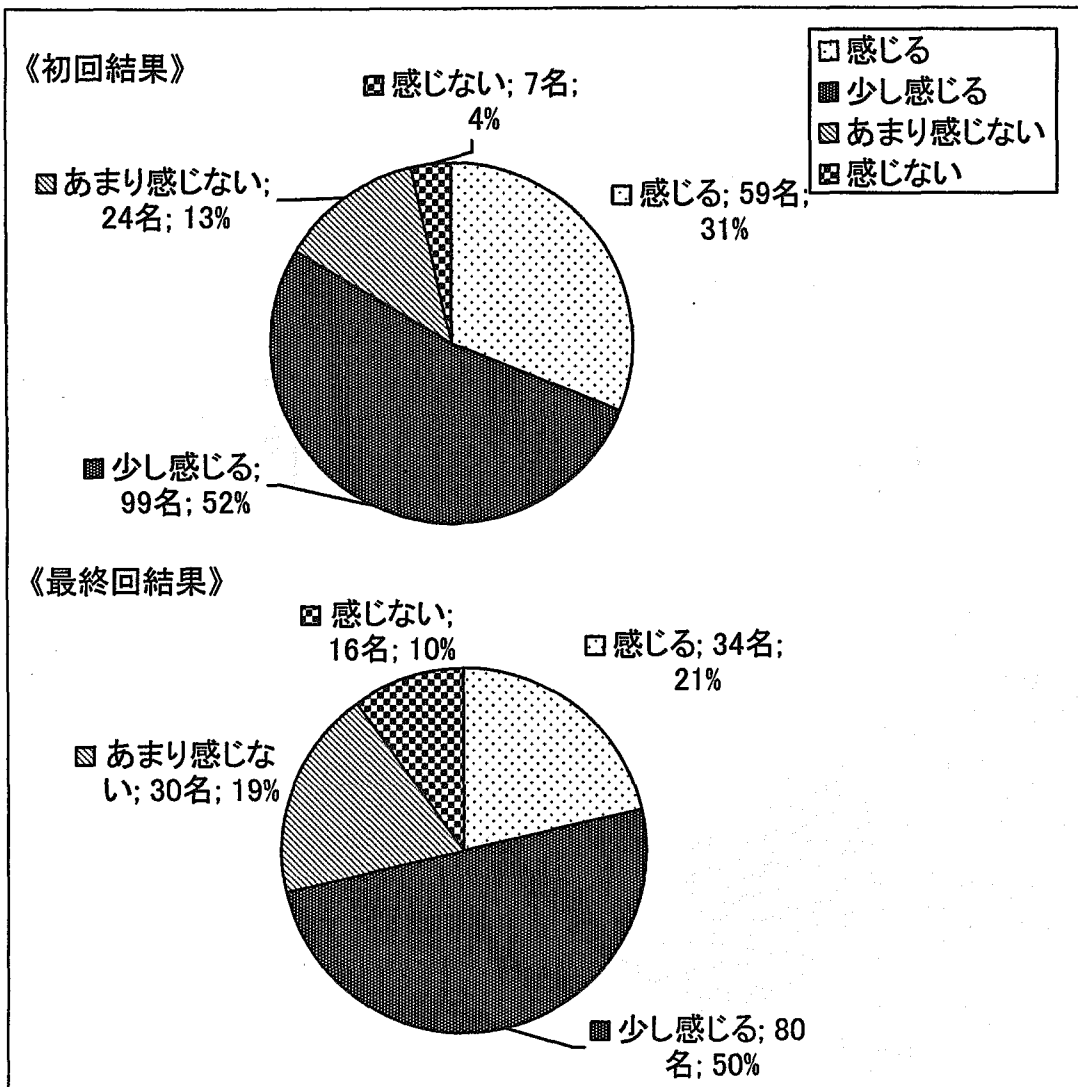


図7-2 原子力発電への不安 ～%による比較～

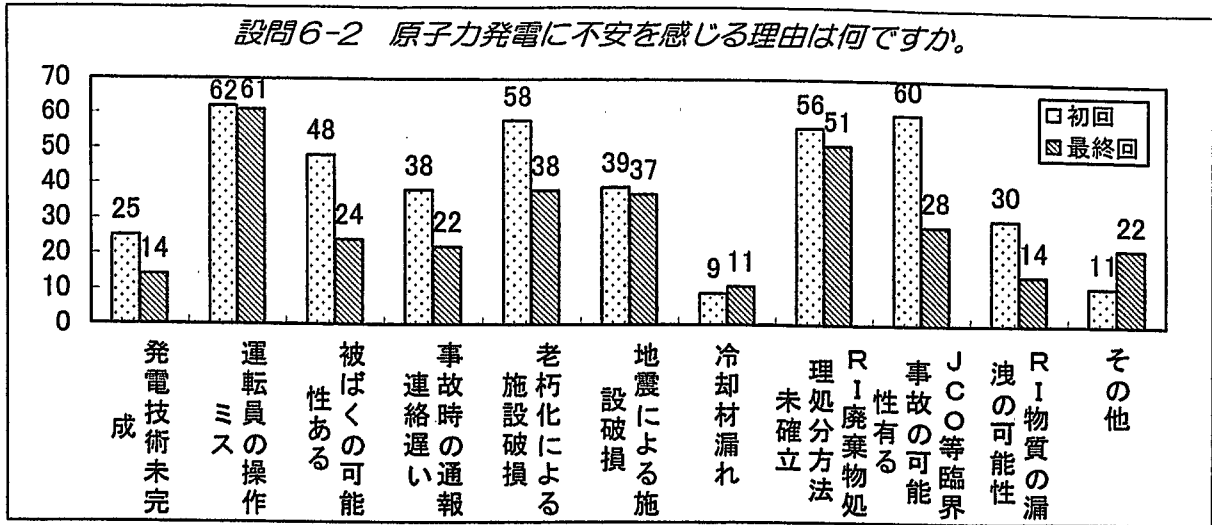


図8-1 原子力発電に不安を感じる理由 ～初回と最終回の比較～

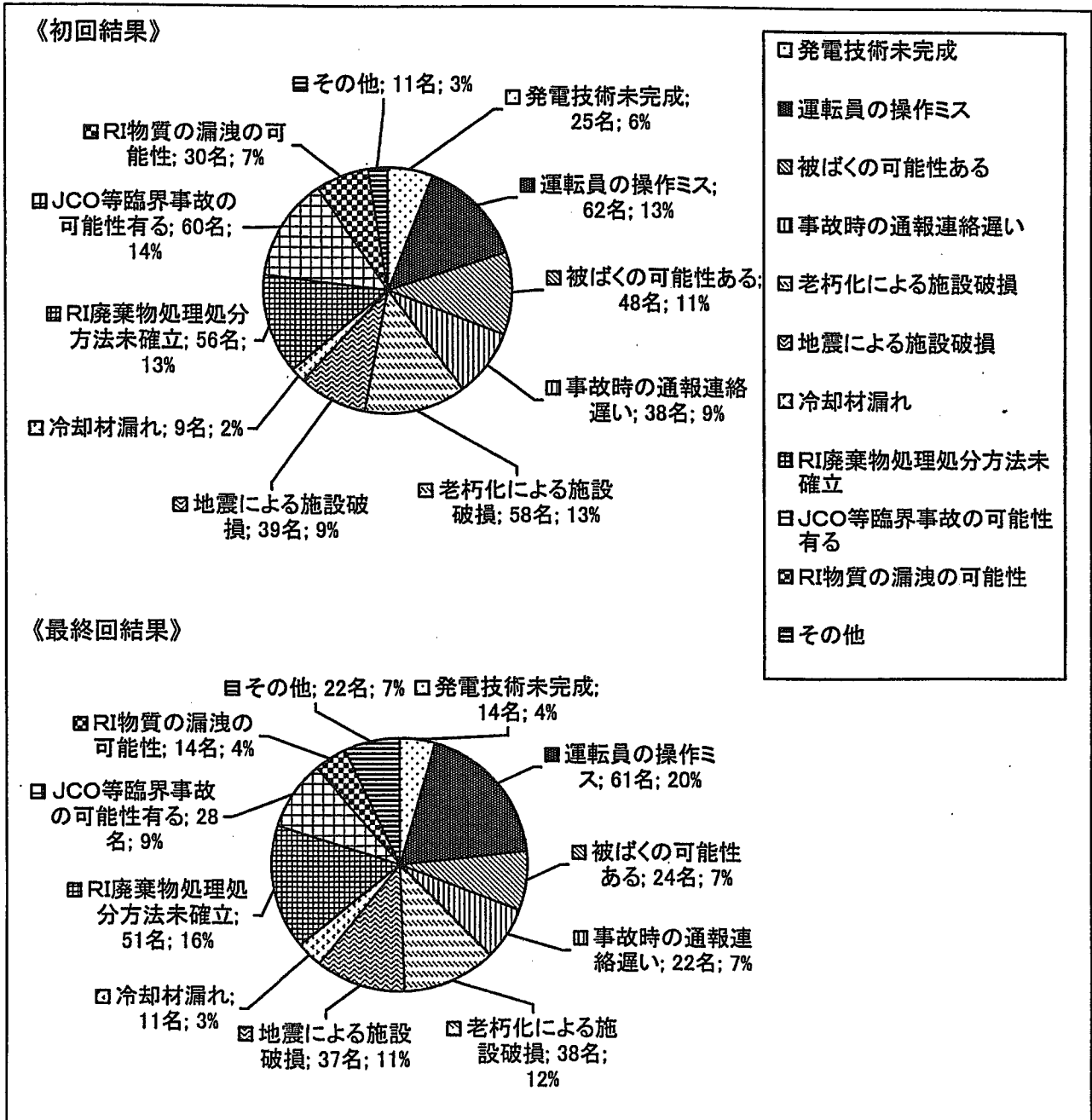


図8-2 原子力発電に不安を感じる理由 ～%による比較～

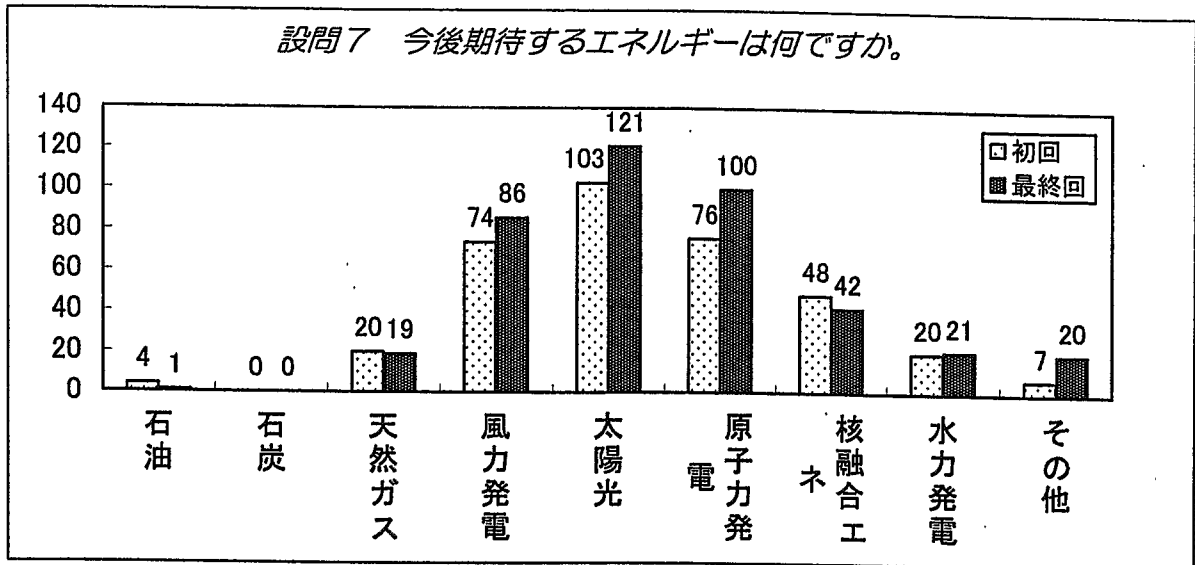


図9-1 今後期待するエネルギー ～初回と最終回の比較～

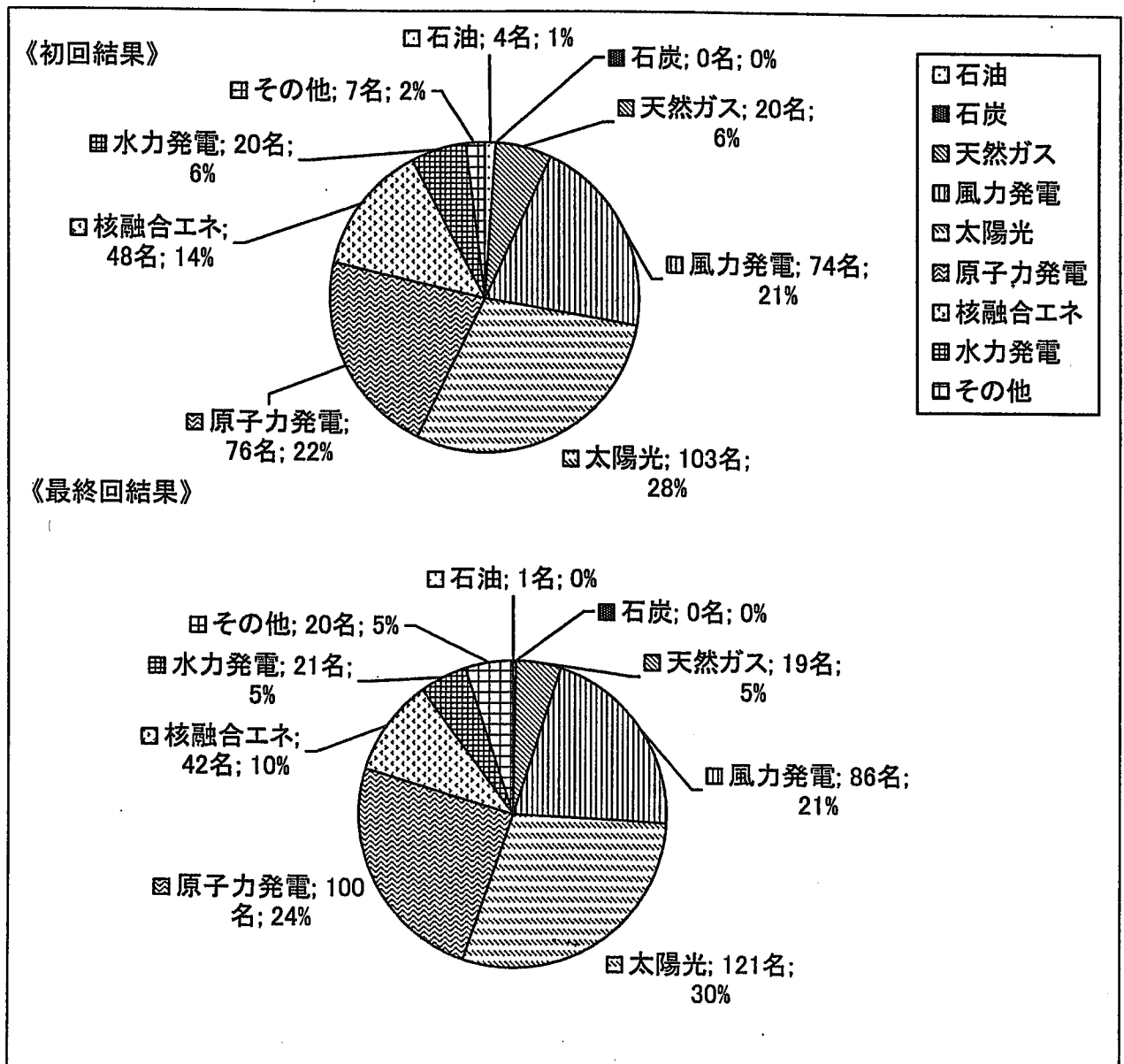


図9-2 今後期待するエネルギー ～%による比較～

付録 1

【モニターからの意見】

アンケート及び意見交換会等から得られたモニターの意見（各項目に分類）は以下のとおりである。

1. サイクル機構が改善すべき点

1.1 業務運営について

《教育に関する意見》

- 構造改革に反対する労組新聞を眼にしたが、体質改善の意識付けを職員に徹底するべきである。
- 使用する人たちをよく教育し、ミスを出さないようなシステム作りをして欲しい。
- 一般の人（特に、小、中学生等の学生）が簡単に見学できるようにして欲しい。
- 地域住民と積極的に交流を図って欲しい。小中学生に見学の機会を与える、授業に説明に出向く等して、原子力エネルギーをよく知って頂く努力をして欲しい。
- 市町村に呼びかけて学校行事の中にサイクル機構の見学を入れてもらう。これからの子供たちには原子力に対する理解も必要。
- 一般の人が原子力とエネルギーに対しての認識がなく、原子力は危険であると思いがちなので、小・中・高等の授業にもっと出て行って、PR した方が良い。
- 子供への（小・中・高等）原子力教材を多くすること。特に茨城の場合、早くからエネルギー教育を行うこと。
- 小・中・高等学校等社会見学などで時間をとり訪問すると良い。
- 一般的にはサイクル機構について興味、関心が持ちにくい。小学校の校外学習等へのPR や、地元のみでなく、遠隔地へのPR も必要。
- 学校の授業にも取り入れ原子力の安全性、必要性をアピールしてほしい。

《安全に関する意見》

- 技術的ではなく、人為的な問題で事故が起きている点（不注意、規則通りに行わなかった）。
- 安全については、今後とも初心に戻って安全実行して、常に報告、連絡、相談をして全員が団結して欲しい。

- 安全を全ての優先に！
- 安全性の徹底。
- 仕事の慣れで、扱っている物の危険性が薄れないようにすること。
- 慣れがあってはいけないと思う。
- 今以上に仕事に関わる人々が自覚と責任をもってこれからの未来へ向けて仕事をしていって欲しい。一番に安全ということを考えて欲しい。
- とにかく「事故は無し」にしてほしい。
- 思い込みをなくす。
- 放射線安全と原子力防災が一番の関心事であり、住民が安心して生活できるよう改善すべき点があれば、より良い方向に努力して頂きたい(今のところはないと思うが)。
- 安全管理をさらに徹底してほしい。
- ヒューマンエラーのない安全な研究を。
- 危険物を扱っているので人の教育は大切にしていきたい。
- エネルギー開発は重要である。安全対策をキチンと行い、地元住民に心配をかけないシステムづくりが必要である。
- 原子力は絶対必要なものだと思うが安全性のことを考えると全面的に受け入れることができない部分もある。そういう人もいることを理解し、安全対策をしっかり行い業務を進めてほしい。
- 安全第一で正直に行動してほしい。
- 私の友人で銀行に勤めていた人が「お札を数えていてもお金とは思えない」といっていました。やはりその環境に慣れてしまい、そんな物とってしまうことは恐ろしいことです。細心の注意で安全に進めていってほしいです。

《その他意見》

- 研究者たちがすすんで次の段階へいけるような体制にして欲しい。遅々として進捗しないような印象を受ける。
- 研究と製品（ビジネス）の区分が分かりづらい。
- 福島第一原子力発電所については、多くのモニターが好印象を持った。サイクル機構とは、官と民の差があるように思う。
- 施設も人的な資質も充実していると思うが、国の経済低迷を考えると今後の運営には更に経済性を重視すべきである。
- 大洗・東海とも同じような原子力の施設があるが、お互いの知識の交流等を行ったほうが良い。
- モニター制度、イベント開催（協力）、見学会、広報活動等、今後も続け

ていってほしい。

- 原子力を設置していない地域でも原子力に対する知識を深めてほしい。
- ある地域では原子力のお話を記載している資料が住民に回覧された。こういった方法もPRの手段としてよいのではないか。
- 周辺地域への理解を深めるためにもっと気軽に意見を言う場や、勉強できる方法があれば良い（それにはもっと一般住民も関心を持つことが必要）。
- 平和産業として、世界に発展を認められるサイクルを望む。

1.2 広報について

《サイクル機構からの説明に関する意見》

- 専門用語をもっと分かりやすくして欲しい。
- 説明は専門用語ではなく、理解しやすく説明して欲しい。
- 内容を一般の人でも分かるように説明すること。
- 一般住民（素人）に専門的な説明は分かりにくい。身近な内容、写真等を多く使用し、分かりやすい説明をして欲しい。
- 誰にでも分かる広報誌の作成を望む。
- サイクル機構のPRは難しく感じる。
- 原子力に関する説明は新人に説明するつもりで。
- 情報量が多くて、逆に分り難くなっている。
- 文字が小さい、もう少し大きな文字で見やすくしてほしい。
- 小中学生を対象とした説明資料としたアニメを活用するとよい。

《広報の方法に関する意見》

- 県を通してだけでなく、関係市町村への直接的PRや、情報提供手段を考えるべきである。
- HP、E-mailなど、パソコンを通じて原子力について勉強できると良い。
- もっと広い範囲で広報に力を入れ、より一般に理解をしてもらう。これによって、より原子力の必要性、安全性を知ってもらえればと思う。
- ビデオ等を配布してはどうか。
- 各市町村役場を通しての地域住民へのPR及び有志等による実地見学（石油、石炭等と原子力エネルギーの比較）。
- 原研・サイクル機構周辺の方々への原子力関係説明会があればよい。
- 学校、地域用の貸し出しビデオ、スライド等あれば身近に原子力に興味を持てると思う。
- 広報誌の録音版、点字版があってもよい。
- 広報誌を読むだけではなかなか理解することは難しく、もっと学校や市

町村などでより多くの人々に理解を求めるための講演会等々を実施すると良い。

- 既存の分かりやすい解説書の利用促進を図ったほうが良い。
- 1回だけではなく、何回か遊び（アトムワールド、わくわく科学館等）も含めた説明会（勉強会）が出来ると良い。
- もう少し幅広く地域の人々にPRした方が良い。

《広報内容に関する意見》

- 事故等があった時だけ「サイクル機構」の名前を聞くが、各市町村での会合は祭事があったときに参加する等、普段から「このような研究をしている事業所です」といったPRも必要。
- サイクル機構の名称をもっと広く知ってもらうべきである。
- モニターだけでなく、一般の人にもサイクル機構が行っていることの大切さをもっと理解できる説明が欲しい。
- サイクル機構がどういうところかもっとわかりやすくPRした方が良い。
- サイクル機構が地味。もっと前面に出したPRが必要。
- パンフレットはその場だけで、後で見る機会が無い。ビデオ等で見たほうがわかりやすく、後々まで印象に残る。
- 地域住民を巻き込み（いつも同じ人だけで無く、色んな団体、地域、年齢層の人）、話し合う場を設け、ざっくばらんに話し合えるようにするとより理解度が高まる。
- 原子力、放射線、放射能に関するより分かりやすい（比較法的）PRが欲しい。特に人体等（生物）との関係（NHKがよくまとめて放送しているが、更に必要）。
- 一般の人でも気軽に見学できることを宣伝すると良い。
- 研究内容が難しいので理解しやすい広報を行うべきであるが、要は将来のエネルギー確保の点で、一般国民に如何に必要で身近な研究であるかを分からせ、決して住民生活とかけ離れた分野ではないことを強調すべきである。
- エネルギーの重要性、仕事内容をもっとPRすること。
- エネルギーとしての原子力の有効性をコスト、資源、環境面から説明すること。また、原子力は危険であるが、取り扱いによっては安全が確保できることを説明すること。
- 一般の人への安全性のPRをすること。
- 専門用語を分かりやすく説明する体制づくりが必要である。
- 原子力は怖いものと思われているのでパンフレット等で、特に安全面を

やさしく伝えてほしい。

《地域交流に関する意見》

- サイクル機構に対する住民への興味がどのくらいあり、どれだけ努力をしているか（多少はイベント等で行っているのは理解している）。JCOの問題から遠くなってきているので、イベント等なおのこと分かりやすく行っていくべきである。
- オープンであり、なおかつ地域に密着した施設であってほしい。
- もっと色々な地域での交流活動を望む。
- 地元行事への原子力ブースを出展するときは必ずパンフレットも配布した方がよい。（モニターOBにも動員をかけてPRしてもらってもよいのでは）

《情報公開に関する意見》

- 透明性を更に持たせること。
- 実際火事等の事故が起きたときの地域へのいち早い連絡。近隣の住民への不安を取り除く努力。
- JCO事故でも時間が経たないと正確な情報が広まらなかったので迅速な対応を望みます。
- 事故、トラブルが大したことがなくてもマスコミが大々的に取上げている。マスコミ対策も必要ではないか。
- 原子力施設は2重3重にキチンと管理されている。もっと世間の人々に公開してほしい。
- まだまだ一般の方へのPRが不足している。もっと地域に根付いた理解促進活動が必要である。
- トラブル時の報告は可能な限り早く伝えてほしい。
- 気軽に施設見学ができる雰囲気をつくること。
- 地元住民のケアを強化すること。

《モニター会合に関する意見》

- 若年層も募るべきである。
- 対象層が広いので、もう少し分かりやすい説明(イラストを使うとか)をしてはどうか。
- モニターの人数、市町村の幅をもう少し増やしてもよいと思います。
- 専門用語を噛み砕くためにも見学時間を多く取った方がよいと思います。
- モニター制度はよい。継続すべきである。

- モニターの対象人数を増やして理解者を増やす工夫をすべきである。

《その他意見》

- サイクル機構を沢山の人たちに知って欲しい。
- 今後とも地域等の皆さまによく理解していただくこと。
- 地位住民の理解を得ること。
- 広大な敷地の一部を公園化等にし、一般の人の理解と安全性を強調する（安全性のPR）。
- 施設が雑然としていて、どこに何の施設があるのかわかりにくい。
- サイクル機構は研究施設であって、原子力発電所ではないことが一般住民には分からない。
- 高レベル廃棄物の処理についてはまだ不安が残る。
- パンフレットは上質の紙を使用する必要は無い。
- 出来るだけ多くの方に施設を見に来て頂けるように努力すること。
- もっと施設の良さを活用した方が良い。
- 事故を起こさないためには働いている人達がマニュアルを守るとか、心身とも健康であることも重要である。
- プルトニウムの利用はサイクル機構の主な業務であるがPR説明にはあまり出てこないようだ。
- 地域に開かれたサイクル機構になってほしい。
- エネルギーの必要性は理解できるが、事故・トラブルが多いのは残念である。
- 資源の乏しい日本にとってエネルギー開発は最優先に考えて行かなければならない課題です。サイクル機構のしくみを現実に勉強して現場に従事している職員の健闘を願い、地道に活動して事業の推進につなげていていただきたい。

2. サイクル機構の良い点

《サイクル機構職員の印象等に関する意見》

- 社内、社外へ改善しようと努力している点。
- きさくに話しかけてくれたこと。
- 「もんじゅ」や「東海アスファルト固化施設」の事故で失った信用を回復するために辛抱強い努力を続けていること。その努力は少しずつ実っていく

と思う。

- 特に女性の方の親切な行動に頭が下がった。
- 係の方皆とても親切で友好的。
- 再開にむけての意気込みも感じられた。
- 「動燃時代」より職員の方々の表情が良い。特に女性職員の男に劣らぬ仕事振り、行動力に好感。
- 女性、子供でも分かるように説明していただいた。遠い存在と思っていた職員と気軽に話が出来た。
- いつも笑顔で接する職員に気持ちが和む。分からないところはすぐ聞けて、何でも話せてよかった。
- 高度な技術研究に従事しているのに、職員の好感度が良い。
- 職員が仕事の内容の重みを感じている姿勢がうかがえる。
- 職員のまじめな仕事への取組みが感じられる。
- すばらしい環境のもとで皆努力している。
- 「常陽」メンテナンス建屋が火事になった時、対応が早かった。
- これまでに生活必需品について細かに放射線測定をしていただいた点。
- 建物、そこで働く人たちに清潔感があって良かった。今後モニターを継続する中で、人に与える印象は大事。窓口になる人々は身だしなみ等がとても大切である。
- 日本の原子力の様々な分野に対しての研究がなされていることに対して敬意を表したい。

《モニター会合に関する意見》

- 施設見学で、ナトリウムの反応を実際に見ることが出来てよかった。
- モニター会合での説明が理解しやすく、知識を深めることができた。
- モニター制度を開設し、地域住民との交流を図る等の試みは大変良い。
- モニターに対しての対応が良かった。
- モニターとして活動して、知らないもの同士で交流できて良かった。
- モニター制度は継続して欲しい。
- モニター制度はとてもよく、モニターに対してはとても丁寧な説明がされている。
- モニター会合は十分な会合であったと考えている。また、グループディスカッションのやり方はよい。
- モニターを通して原子力の必要性がよくわかった。
- 原子力は悪い情報（TV、新聞）だけでだったので不安があったがモニターをやって安心を得た。

- サイクル機構に親近感が持てた。
- 施設を直接見学することで原子力について理解を深めることができる。
- 一年間核燃料に関する知識を勉強させていただき視野が広がった。
- モニターになって初めて見学などが実際に出来、うわべだけでなく理解できた。
- 一年間のモニター活動により、原子力、核燃料サイクル開発機構について少しながら理解できるようになりました。

《サイクル機構の施設設備等環境に関する意見》

- IT 技術を駆使している点。
- 構内の整備や施設の管理は整っていて見学者として感じが良い。
- 開放的になってきた。
- 設備が充実している点。
- 十分開かれたサイクル機構であり、設備安全面でも良くやっていると思う。
- 日本は少資源国であり、使用済み核燃料を再処理したり核廃棄物の処理等は大変良い研究である。
- 知的環境が良い。
- 時代の先端技術が多い点。
- リスクコミュニケーション研究班での取組みは良い。
- 設備が充実しており、優秀な人材がそろっていると思う。
- サイクル機構は大変明るく、学術的なことでも開放的に感じた。
- 最新の設備等がすばらしく、多くの女性が活躍しているのも予想外であった。
- 東海、大洗各事業所とも研究技術開発がより進められている点。

《広報に関する意見》

- 女性や関係者の説明が分かりやすかった
- 全体的に説明が分かりやすかった。
- 施設見学案内が丁寧で分かりやすい。
- 説明資料は適切。
- 広報（広報誌、見学）に力を入れていることが伺われる。しかし読者、見学者からの反応、フィードバックがどうなっているか知りたい。
- 一般住民の理解を深めようとしている点。
- 他との比較はできないが、施設は明るく、説明も分かりやすかった。
- 施設の説明等、分かりやすかった。
- 重要施設を公開し、案内説明をしていただいたこと。
- 住民への知識の拡充を図る点は良い。

- 原子力の理解を得ようとする姿勢。
- 女性たちが地域との交流活動を頑張っている点。
- 地域等外部に向かって知らせる努力をしている点（アトムワールド、地域交流課）。
- 分かりやすい説明が出来ている点。色々な人や会社、海外等沢山のかかわりを持ち、協力し、知ってもらおうと努力している点。
- 知識がゼロの人へ専門的なことを理解してもらうのは大変と思うが、努力が見える。
- よくまとまっているので引き続き分かりやすい資料づくりに心がけてほしい。
- ページ数が少なく、写真も混じったパンフレットは一番に取りやすいので今後も整備してほしい。
- 専門分野以外の情報もあり、興味深く大変よい広報誌である。
- 広報誌等の配布先（立地、隣接市町村）住民に行渡るよう気を配る必要がある。
- テーマ（伝えたいこと）をはっきりさせた広報誌をつくるべきである。

《その他意見、感想》

- 地域になじんできた。今後も努力して欲しい。
- 世界環境、エネルギーについて、今後も話をして欲しい。
- これからの電力に必要な開発なのでこれからも頑張ってもらいたい。
- エネルギーの必要性を十分に感じているので、研究はもっと進めて欲しい。
- サイクル機構の必要性、業務の内容が少しでも理解できた。
- モニターになって知りえたことは地域に戻って集会等でPRして行きたい。
- 高速増殖炉が一日も早く稼働できるよう、期待しております。
- 原子力に関して大事な再処理について勉強し、安全性や研究のレベルの高さと安心と信頼を感じ取ることが出来た。
- 再処理、地層処分施設の見学ができ、原子力、サイクル機構に対して意識の向上が図れ、参加してよかった。
- 不信感がだんだん解けてきたように思う。今まで以上に関心を持てるようになった。
- より一層安全性に心がけ、住みよい東海村にしてください。
- 一年前はいろいろな意味で緊張していた。一年モニターをやって原子力に対する国策の意味が少しは分ったような気がする。

〔設問7〕 今後期待するエネルギーは何ですか。
その理由もあわせてお聞かせください。

石油 石炭 天然ガス 風力発電 太陽光 原子力発電
核融合エネルギー 水力発電 その他

《理由》

〔設問8〕 ご意見、ご感想等、ご自由にお書きください。

以 上



付録 3

【第 1 期アンケート結果】

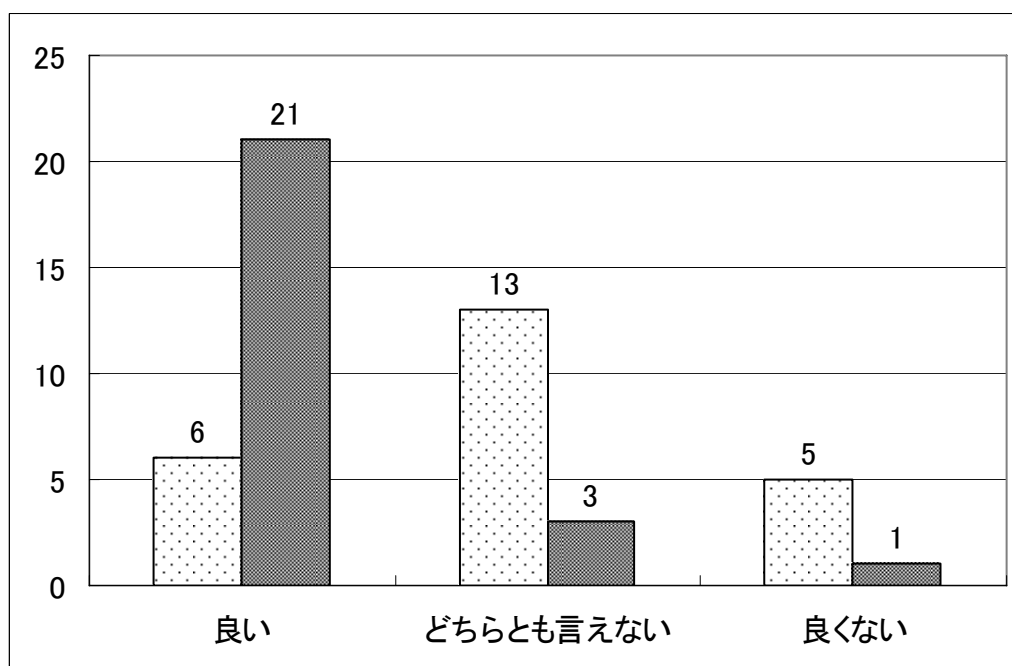
モニター経験前後の意識調査のため、同一内容のアンケートを初回（第 1 回：平成 11 年 3 月 23 日）及び最終回（第 4 回：平成 12 年 2 月 29 日）の会合にて実施した。以下にそれらのアンケート結果について、比較を含めて示す。

なお、以下に示す意見、感想等の記述は最終回のみである。

《回答者数》

アンケート回答者数は、初回 29 名、最終回 22 名であった。設問 1～7 の図中  は初回結果、 は最終回結果を示す。

【設問 1】「核燃料サイクル開発機構」の印象は 1 年前と現在とで変わりましたか。



【良くなった理由】

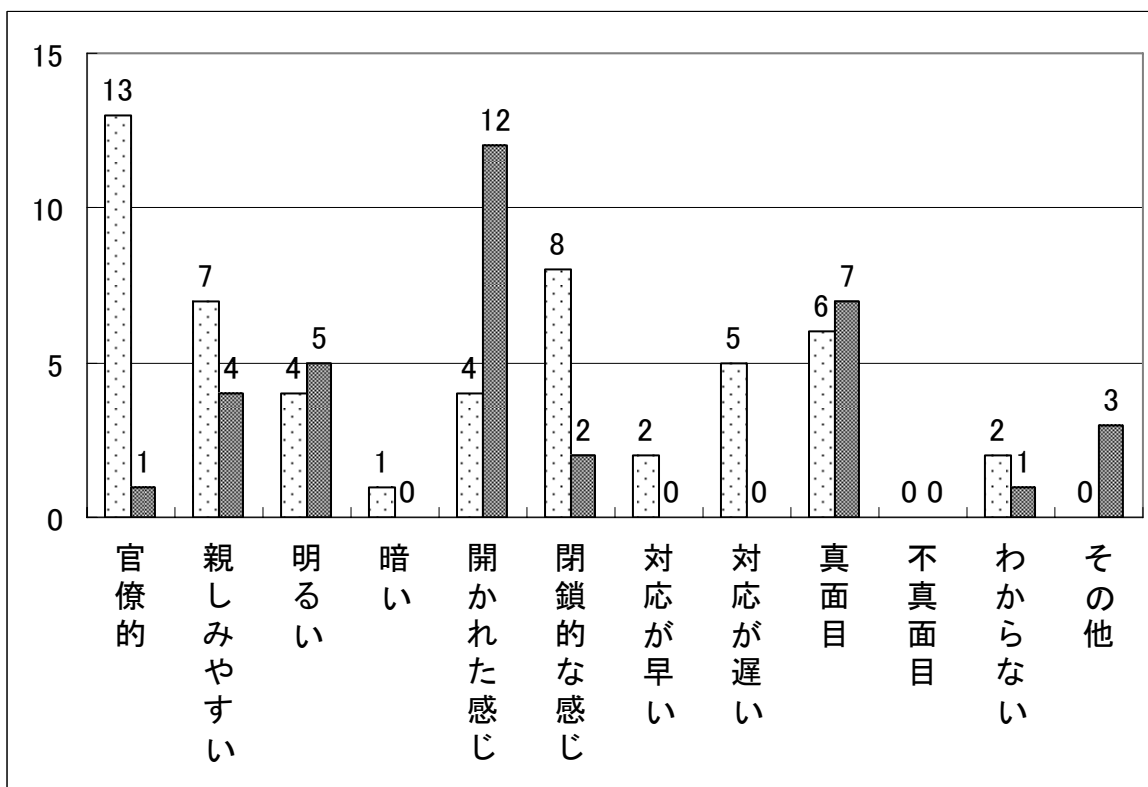
- 多少でも内容を知ることができたから（笠間市、40 代、男性）
- 原子力の勉強をして少し不安がのぞけたのと、サイクル機構の皆様の熱意を感じた（ひたちなか市、50 代、女性）
- 何回かお会いしているうちに気心が判って来たせいかも（日立市、60 代、男性）
- 職員の方々のやさしい解説と、言葉が理解できないまでも親しめるようになった

(美野里町、60代、女性)

- 施設等見学をしながら少しずつ原子力について自分なりに理解することが出来た(常陸太田市、50代、女性)
- 職員のみなさんが身近に感じるようになった(東海村、60代、男性)
- 内容が多少理解できた(岩間町、60代、男性)
- サイクル機構モニターになってからは原子力関係に非常に興味を持つようになり、テレビ、新聞等に特に気配りをして見るようになった。友人達の話にも進んで参加するようになった(瓜連町、60代、男性)
- 組織(原子力事業)を理解してもらうことに対して努力している(友部町、30代、男性)
- 全く無関心な事業所だったので、モニターをやって多少理解してきた(常陸太田市、30代、女性)
- 職員の方々が一生懸命努力しているので(那珂町、60代、男性)
- 職員の方々の対応がとても感じが良い。新聞等で地域住民の方々との話し合いがもたれているとのこと。参加が無い様ですが(十王町、40代、女性)
- 機構内の説明、見学をして内容が判ったため(日立市、60代、男性)
- サイクル機構の職員の対応の熱心さ(鉾田町、30代、女性)
- JNCで何を研究しているのか分かった分、身近に感じるようになった(常北町、40代、男性)
- 地域に溶け込もうとする努力が見られた。交流課の方々がとても気さくな方ばかりだったので良い印象が残っている(茨城町、40代、女性)

〔設問2〕 現在のサイクル機構のイメージにもっとも近い言葉はどれでしょうか。

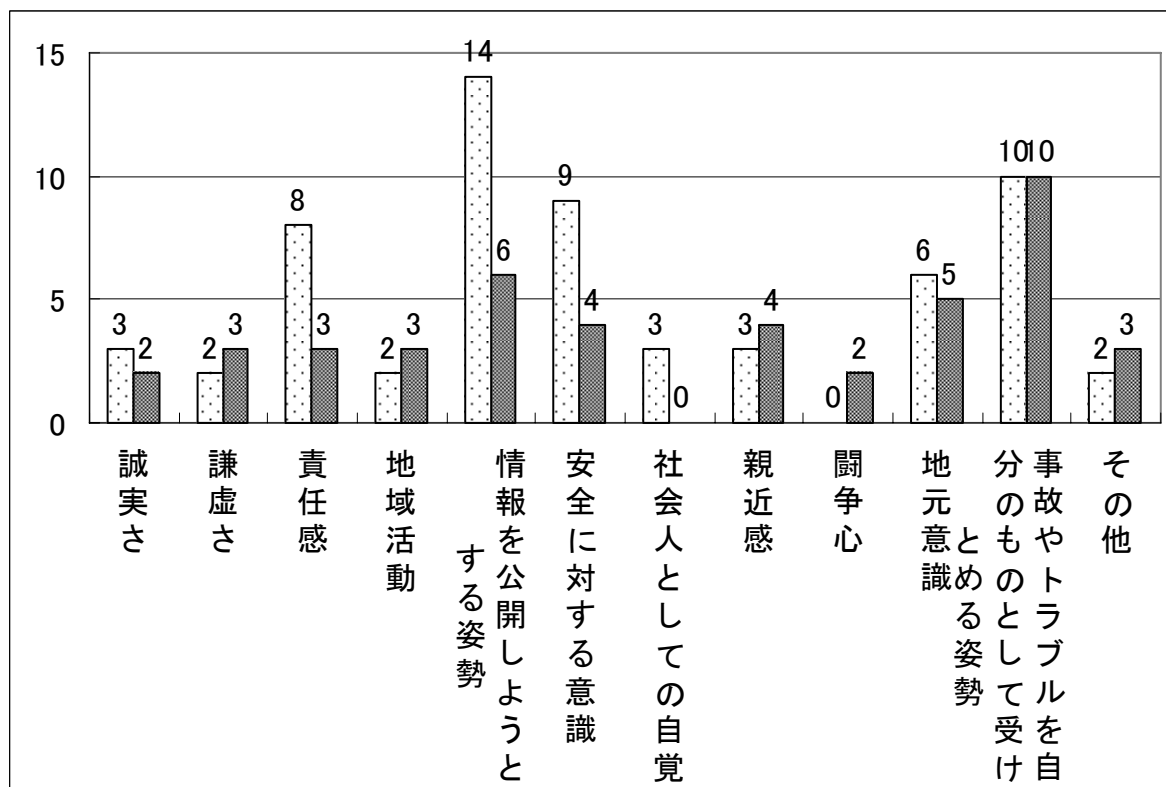
(複数回答)



【その他】

- 真面目すぎるくらい。もう少し良い意味で柔らかさが欲しい（日立市、60代、男性）
- JCO 事故の時は目に見えない仲間だという態度で協力していただき、住民として感謝している（東海村、60代、男性）
- 住民との交流を多く（岩間町、60代、男性）

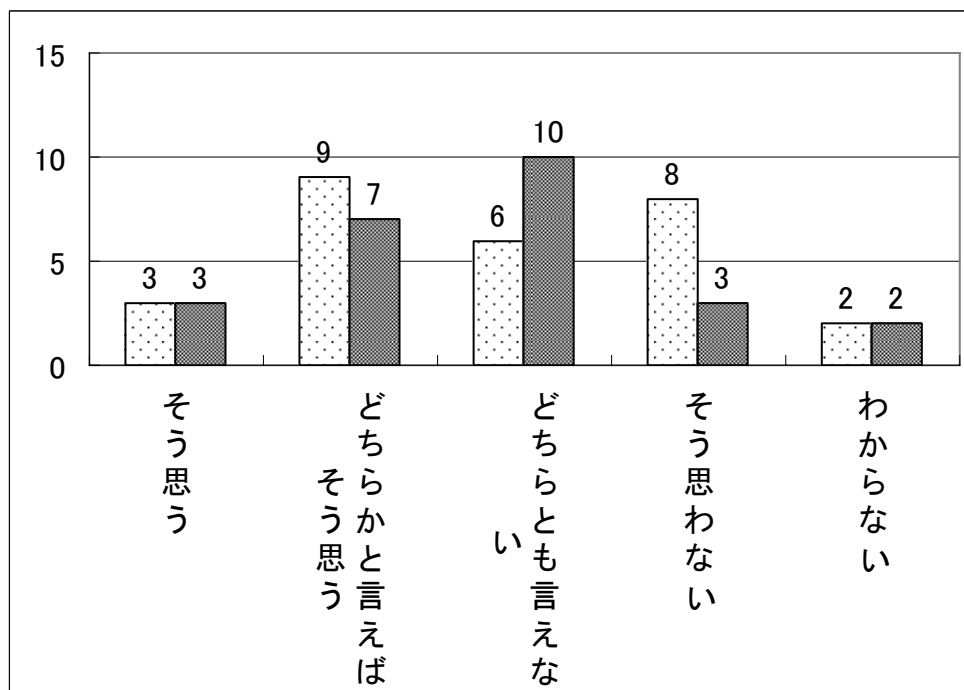
〔設問3〕 サイクル機構の職員には何が欠けていると思いますか。(複数回答)



【その他】

- 情報を公開しようとする姿勢を大事にして欲しい (東海村、60代、男性)
- 事故をおこさないこと (東海村、60代、男性)
- 失敗は許されないと言うプロ意識 (茨城町、40代、女性)

【設問4】 現在、サイクル機構は地域に溶け込んでいると思いますか。



【どちらかといえばそう思う】

- 子供会や小学校に働きかけて、見学などを多くしたら理解が深まると思う（美野里町、60代、女性）
- 見学等のことをもっとPRして多くの方に施設を見学していただくように願う（日立市、60代、男性）
- 理解を得る為に努力している（友部町、40代、男性）

【どちらとも言えない理由】

- 全体的な事柄が判らないため（日立市、60代、男性）
- 閉鎖的（岩間町、60代、男性）
- 東海村などはそうかもしれないが、常陸太田などはあまり感じられないため（常陸太田市、30代、女性）
- 私達の住んでいる町（鉾田）にはあまりかわりがない為（鉾田町、30代、女性）
- 近くに住んでいる人達は情報も入るので親しみ方が違うと思うが茨城町あたりになると意識も知識も低いのが現状（茨城町、40代、女性）

【そう思わない理由】

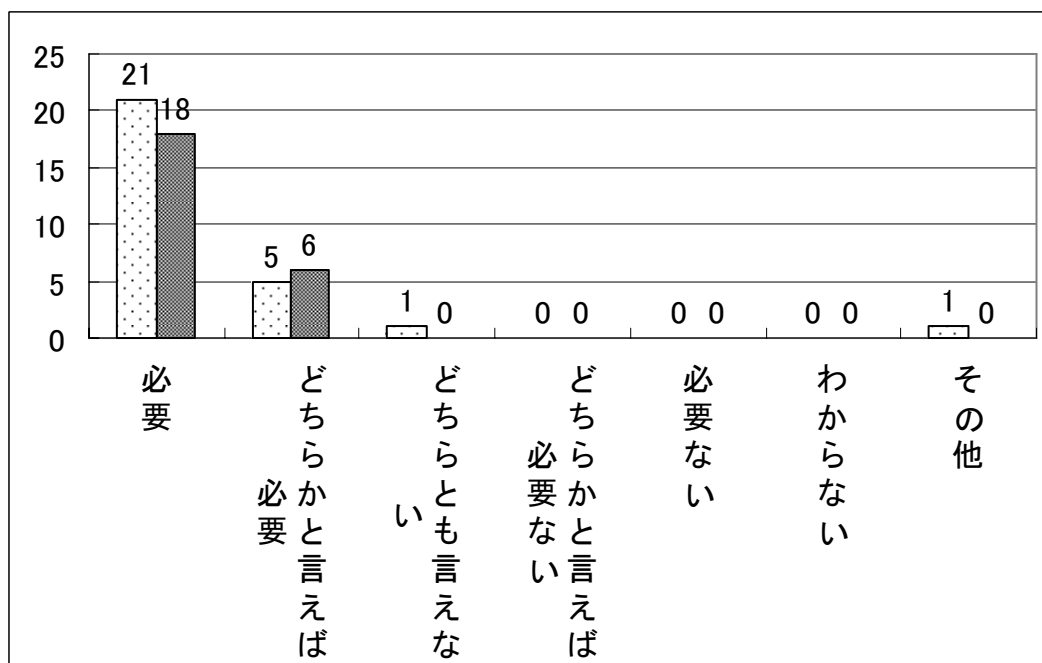
- まだまだ何をしているか周知していないと思うから（笠間市、40代、男性）

- これからの住民に対する PR を分りやすくしていただきたい(常陸太田市、50 代、女性)
- 名前そのものが理解に苦しむ(那珂町、60 代、男性)

【わからない理由】

- 私達の住んでいる町(鉾田)にはあまりかかわりが無い為(鉾田町、30 代、女性)
- モニター以外の見学者が見られない(水戸市、60 代、男性)

【設問5】 原子力発電は必要だと思いますか。



【必要な理由】

- 今の生活からバックは出来ない(笠間市、40 代、男性)
- 40%近くの発電量の中で原子力発電を抜いた生活は考えられない(日立市、60 代、男性)
- 資源が限られているから(美野里町、60 代、女性)
- 必要では有るが、これからは原子力以外のエネルギーの開発をお願いしたい(常陸太田市、50 代、女性)
- 時代の流れ(岩間町、60 代、男性)
- 現在の資源の少ない日本国では原子力発電なくしては考えられない。とにかく安

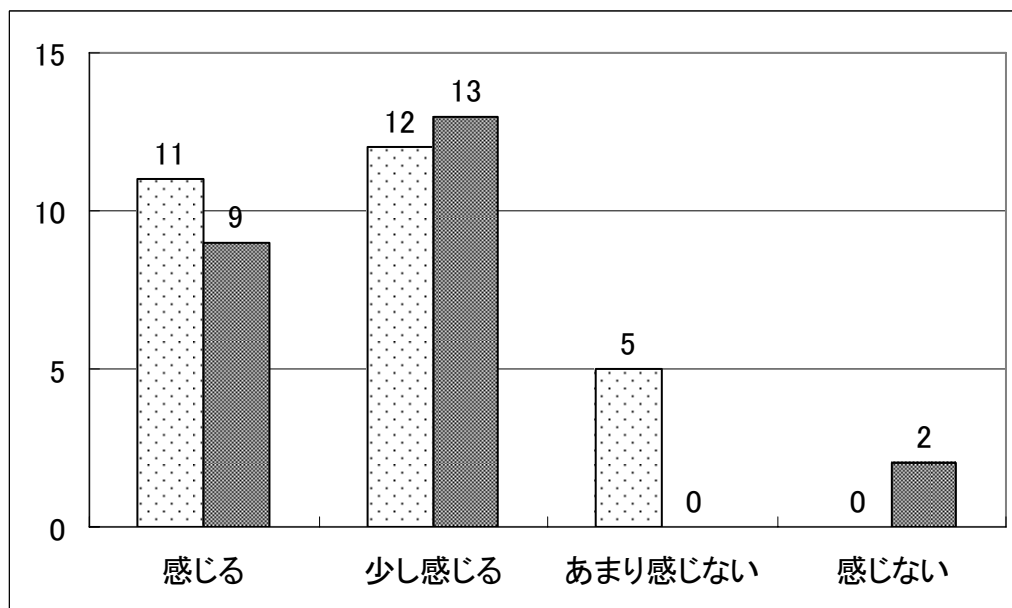
全を確保して実施して欲しい（瓜連町、60代、男性）

- 日本の限り有る資源を考えれば原子力は当然必要（友部町、40代、男性）
- エネルギー総量の34%を占めているので（那珂町、60代、男性）
- 現在の電力事情から見て、なくすことは出来ないと思う（日立市、60代、男性）
- 今の所は原子力意外に効率の良いものが無いと思うから（鉾田町、30代、女性）
- 限り有る資源の代替えエネルギーとしては不可欠（水戸市、60代、男性）
- 現在の生活水準を落とさずに、原子力にかわるエネルギーが見当たらないため（大宮町、40代、男性）
- 石油に依存し過ぎた場合、国際的に不利になる。原子力以外にも、太陽光発電などのエネルギーを増やすべきだと思う（常北町、40代、男性）

【どちらかと言えば必要な理由】

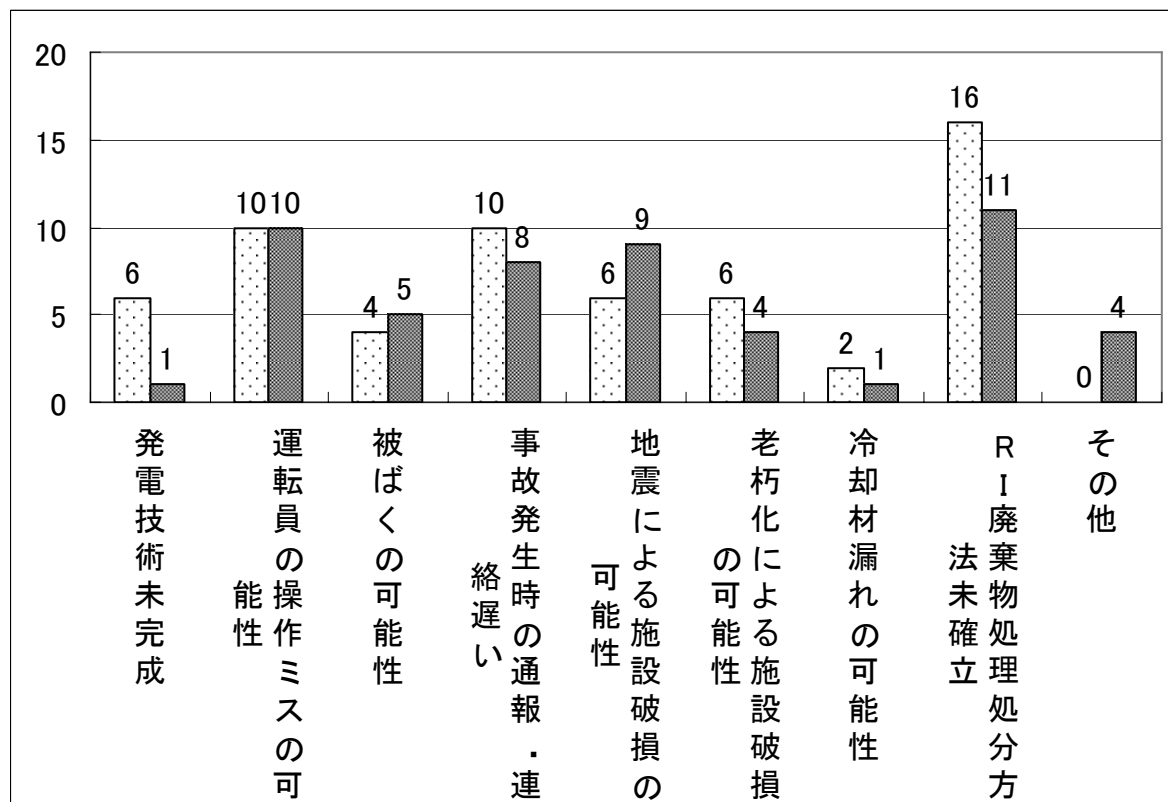
- 全く依存しないわけにはいかないから（ひたちなか市、50代、女性）
- このようなことは全くわからないが、他の資源はあまりないのではないか？（常陸太田市、30代、女性）
- 資源が少ない日本と言うことはわかるのですが、これ以上のものが無いならば安全をしっかり守り頑張ってもらいたい（十王町、40代、女性）
- 原子力に変わる、安全で人にも環境にもやさしいものができるの良いのですが、安定供給と言うことを考えると今は頼らざるを得ないと思う（茨城町、40代、女性）

〔設問6-1〕 原子力発電に不安を感じますか。



【特記】 ○臨界事故により「感じない」から「少し感じる」に変わった（那珂町、60代、男性）

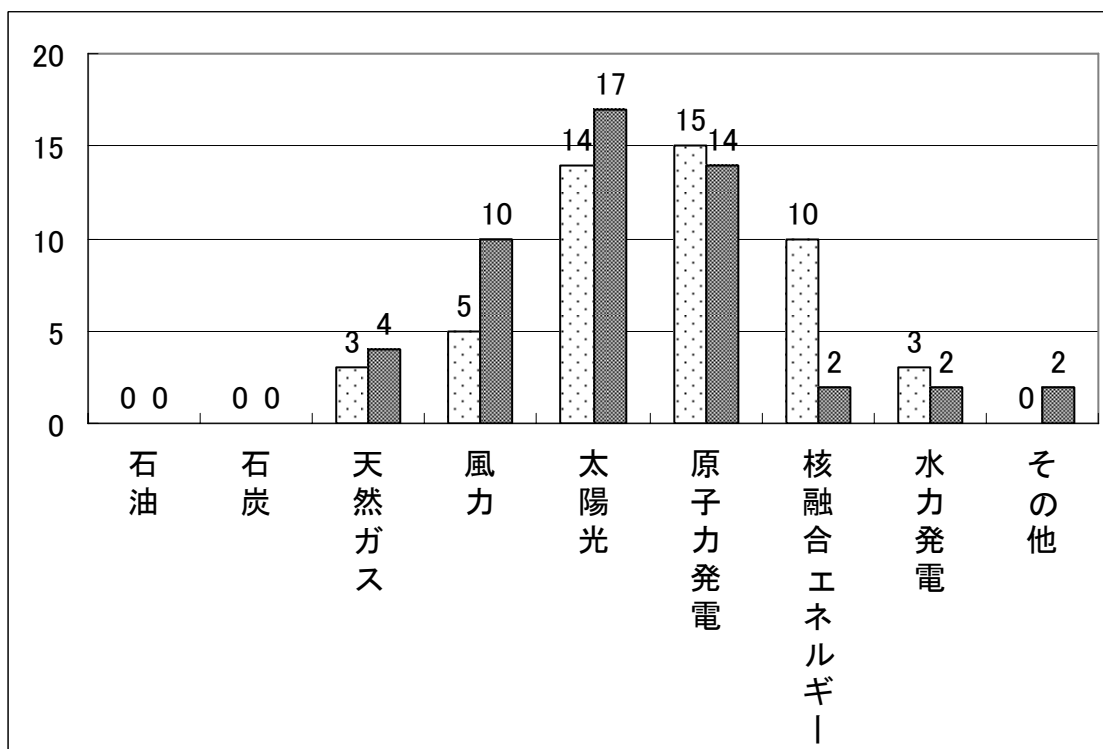
〔設問6-2〕 その理由は何ですか。



【その他】

- 社員等の責任感（岩間町、60代、男性）
- 慣れが一番恐ろしい（瓜連町、60代、男性）
- 技術を支える技能者のレベルの低下が不安（常北町、40代、男性）
- 選択し全てを考えれば、不安になる（茨城町、40代、女性）

〔設問7〕 今後のエネルギーとしてどのようなエネルギーに期待しますか。



【特記】

- 赤道で太陽光により水素を作り、燃料となる（ひたちなか市、60代、男性）
- 各エネルギー共一長一短があり、大容量の発電には原子力に頼らざるををえないのではないか（日立市、60代、男性）

【その他】

- 今までにないエネルギー（大宮町、40代、男性）

〔設問8〕 ご自由にお書きください。

- とにかく安全に作業をして欲しい。安全は最高のPR。モニターをして良かったと思わせて欲しい（笠間市、40代、男性）
- 40年原子力は安全で、関係者にまかせておけば安全と信じていたが、モニターになったらJCO事故があったりで何と日常にも問題の多い日本の原子力かと思った。それでも無知の私がモニターになって原子力に関心が行くようになったことを感謝している。少し頭の血の流れが良くなった（ひたちなか市、50代、女性）
- 御苦労さまでした。頑張ってください（ひたちなか市、60代、男性）
- 職員の方々の懸命な取り組みに感心した。このような中で何故事故が起こってしまったのか、理解しがたい。何よりも安全を第一に今後も原子力の発展に力をつくされますように。お世話になりました（美野里町、60代、女性）
- 1年間お世話になりました。ありがとうございました。東海施設見学、話し合い等わかりやすく、勉強になった。大洗施設見学が出来なかったことが残念。機会があれば是非見学したい（常陸太田市、50代、女性）
- サイクル機構の内容がわかり、良い勉強になった（東海村、60代、男性）
- PRは事故を起こさないこと。その為の責任感、知識を持つこと（岩間町、60代、男性）
- 今回一回だけの参加となったが、お世話になりました（友部町、40代、男性）
- JCO事故後の処理に専門知識を持ったサイクル機構の方々が行動されたことは立派だと思った。その点でプロ意識の高さを評価したい。今後も初心を忘れず頑張りたい（水府村、40代、女性）
- 原子力など全く関心も無かったのが、モニターを1年間やり、自分なりに興味を持ち、色んなものを読んだり聞いたりすることが出来た。今まで回覧などで配られるものなども読んでいなかったが、進んで読むようになった。1年間ありがとうございました（常陸太田市、30代、女性）
- 1日も早い信頼回復に努力して欲しい。そして原子力の安全管理に職員一人一人が頑張ってください（那珂町、60代、男性）
- お世話になりました。モニターになって興味を持つことができた。今回の臨界事故等、最初モニターになっていながら「臨界」というものを人に説明してあげられなかったことが少し悲しかったが・・・。貴社の刊行物や新聞などで読んで大変なことがよくわかった。どんな小さな見出しでもすぐに読みたくなる。これから世の中の風当たりが強いと思うが、皆様が力をあわせて頑張りたい（十王町、40代、女

性)

- とても良い体験をさせていただいた。これからもどんどん活動して、知名度を高め
て行って欲しい。いろいろありがとうございました（鉾田町、30代、女性）
- JCOを教訓としてほしい。／地域と連携して安全視察を行って欲しい。／ten9, tel101
の重さを認識して欲しい。／業務遂行は自信を持って！（水戸市、60代、男性）
- 大洗町に住んでいて、サイクル機構、原研と共存しているから、安全、安心、豊か
さを実感し、お互いに溶け込んでいると思っていたが、今年のJCOの事故後、「危
険」を最大に感じるようになった。JCOの事故は作業員の無知を強く感じた。作業
工程指導力の強化を前面に出し、安全に努力することを要望する（大洗町、60代、
男性）
- 1年間お世話になりました。原子力発電について、多少の知識を持つことができ、
色々勉強でき、ためになりました。今後、このような集まりがあれば、是非参加し
たいです（常北町、40代、男性）
- 原子力について少しでもすることが出来て、本当に良かったと思います。年4回と
回数は少ないのですが、毎回多くの資料等を準備して頂き、有意義な時間を過ごす
ことが出来ました。これからも一人でも多くの方々にモニターになって頂き「サイ
クル機構」について知ってもらい活発な意見の交換をして頂きたいと思います（茨
城町、40代、女性）



付録 4

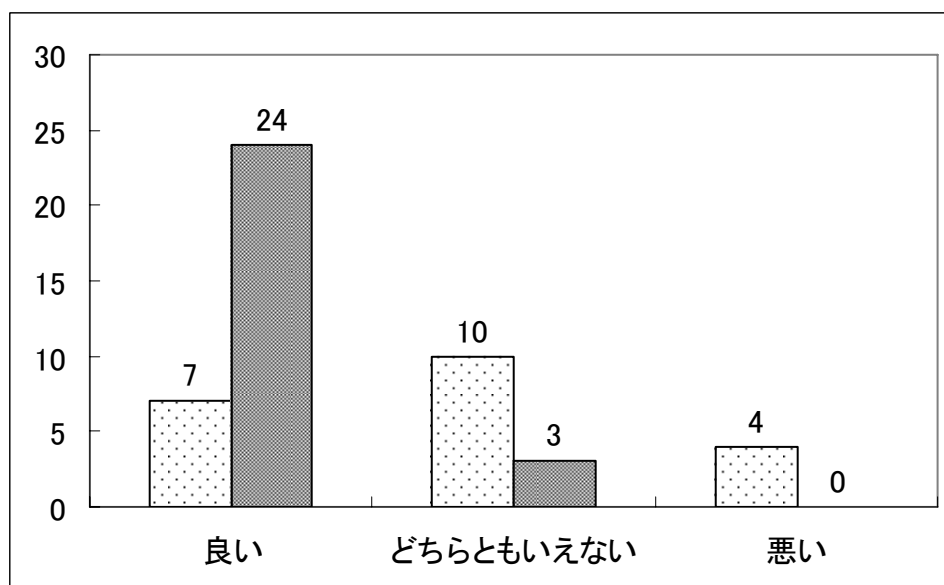
【第2期アンケート結果】

モニター経験前後の意識調査のため、同一内容のアンケートを初回（第1回：平成12年5月22日）及び最終回（第4回：平成13年2月26日）の会合にて実施した。以下にそれらのアンケート結果について、比較を含めて示す。

なお、以下に示す意見、感想等の記述は最終回のみである。

《回答者数》

アンケート回答者数は、初回が30名、最終回会合が27名であった。設問1～7の図中  は初回結果、 は最終回結果を示す。

【設問1】 現在の「サイクル機構」に対する印象はどうか。

※初回データは、現在の「サイクル機構」の印象に回答に対するもの、最終回データは、「サイクル機構」の印象の1年前との変化、に対するものである。

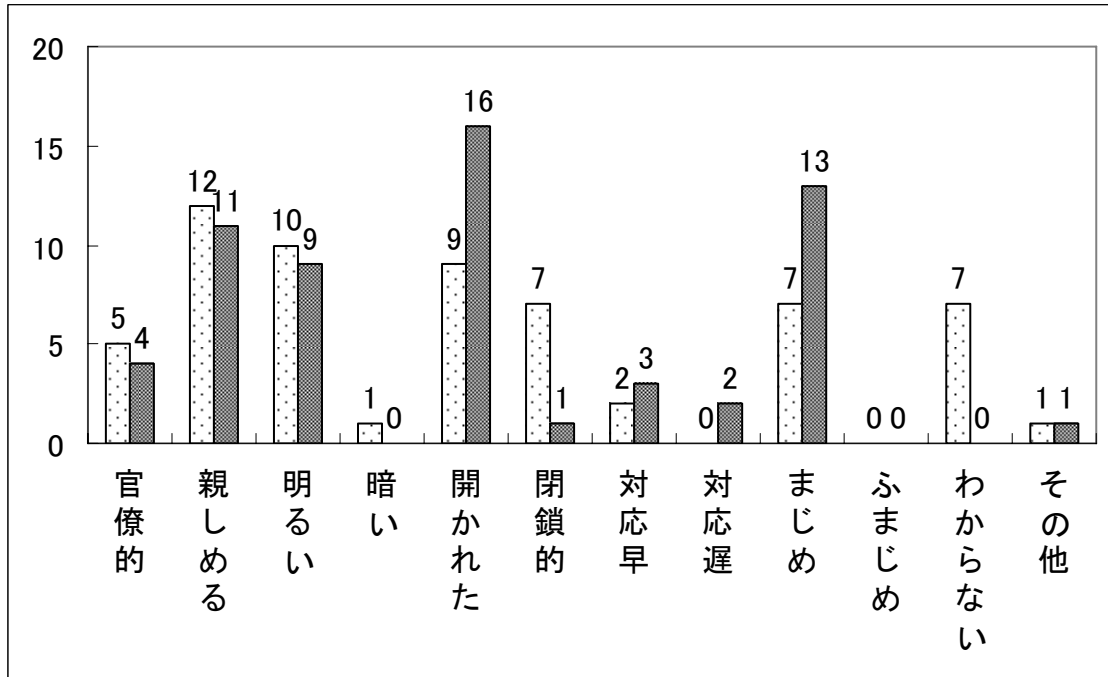
【良くなった理由】

- モニター制度等（施設の公開等）情報公開をしようとする意識が感じられる。
- 安全のため、いろいろなことを行っている（銚田町、30代、女性）
- 構内に入っての雰囲気がとても明るく、生き生きと働いている職員の方々の

姿が強く印象に残った（日立市、60代、男性）

- モニターになる前は官僚的、閉鎖的なイメージだった。
- 明るく開放的。
- 職員一人ひとりが今度事故を起こしたら、という気構えが見える（岩間町、60代、男性）
- モニターになる前は別世界のように感じていた。見学したり、話を聞いたりして、知らなかったことを見て知ることが出来た（銚田町、30代、女性）
- 親しみやすくなった。
- 安全に対して力を入れていることが見学会により良く分かった。
- 名称変更（動燃⇒サイクル機構）にも有る様に、官から民に変わりつつあるように思う。
- 何でもオープンに話してくれるので。
- 原子力についての意義を本当に持つことが出来た。
- 印象と言われても、初めから未知の社会であって原子力発電、核燃料サイクル機構の存在に興味を持てたのが成果。
- 失った信用回復のために辛抱強く努力を続けているのが良く感じ取れた。
- 誠実さを感じた。
- 安全管理、危機管理の追求がわかり、有りがたかった。
- 最初のかたいイメージだったので緊張したが、回を重ねて話をすると和やかな雰囲気になった。（美野里町、60代、女性）
- 職業に対する使命感のようなものを感じることが出来たので。（大洗町、60代、男性）

〔設問2〕 「サイクル機構」のイメージに最も近い言葉をお聞かせ下さい。
(複数回答)



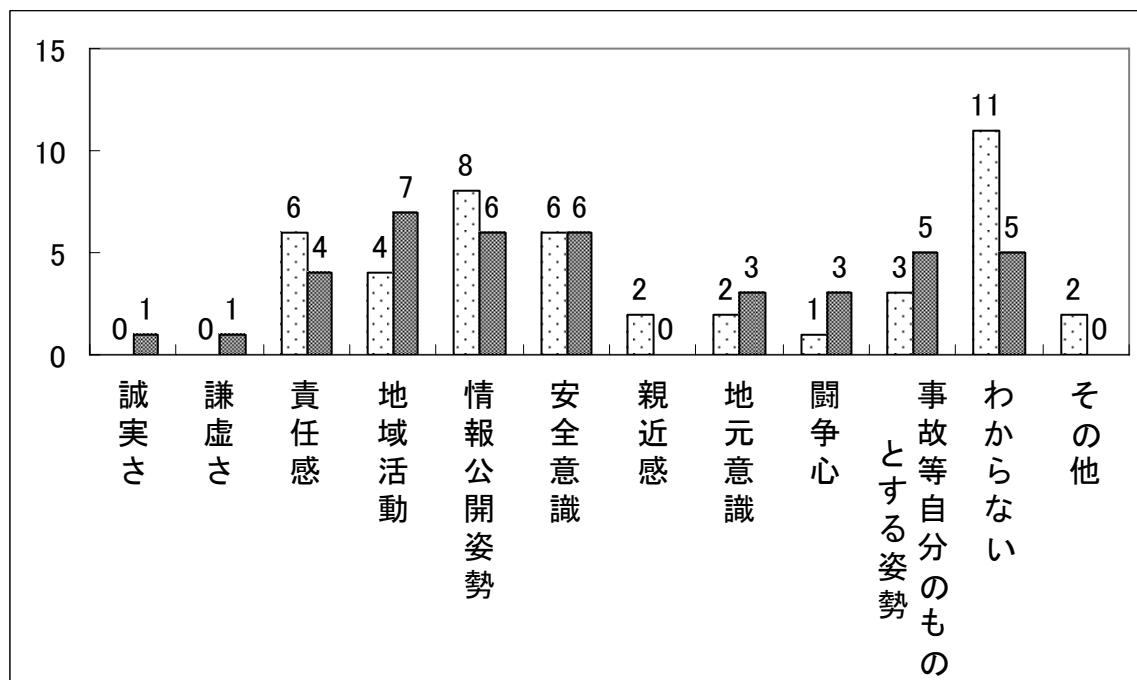
【その他の理由】

- モニターとして見学した施設は明るく開かれた感じで対応の職員も親切だったが、個人的に見学に行ける、行きたくなるという雰囲気ではない。

【意見】

- 一生懸命さ、熱意が伝わってくる (日立市、60代、男性)

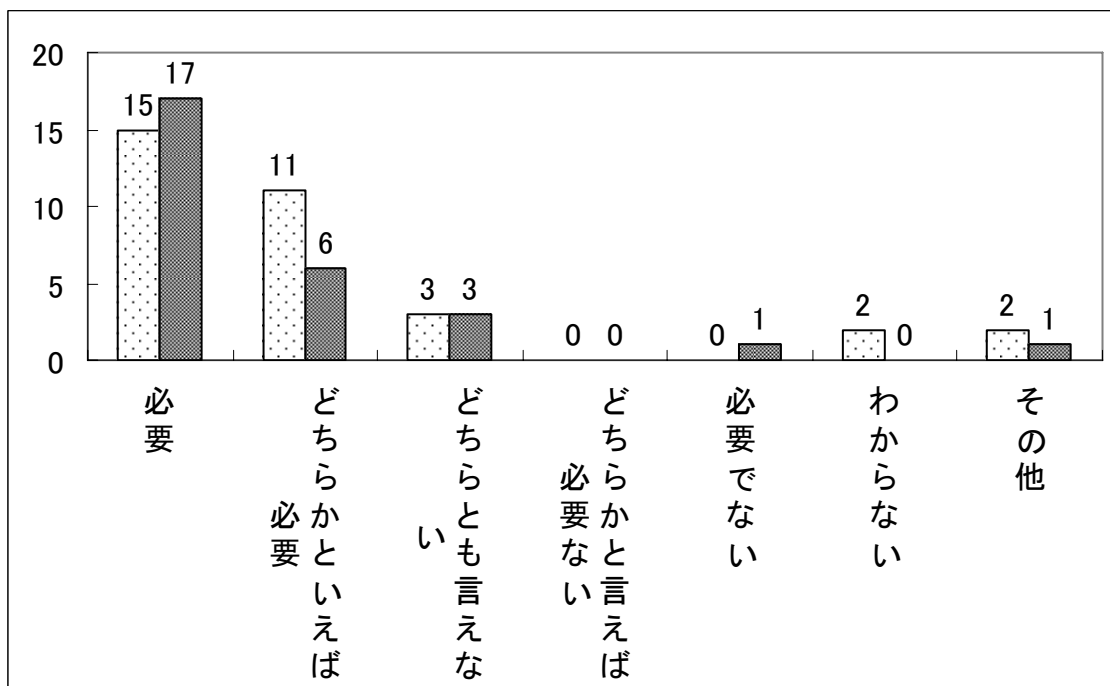
〔設問3〕 サイクル機構職員に欠けるものは何ですか。
(複数回答)



【意見】

○特に欠けているものはない。

〔設問4〕 原子力発電は必要だと思いますか。



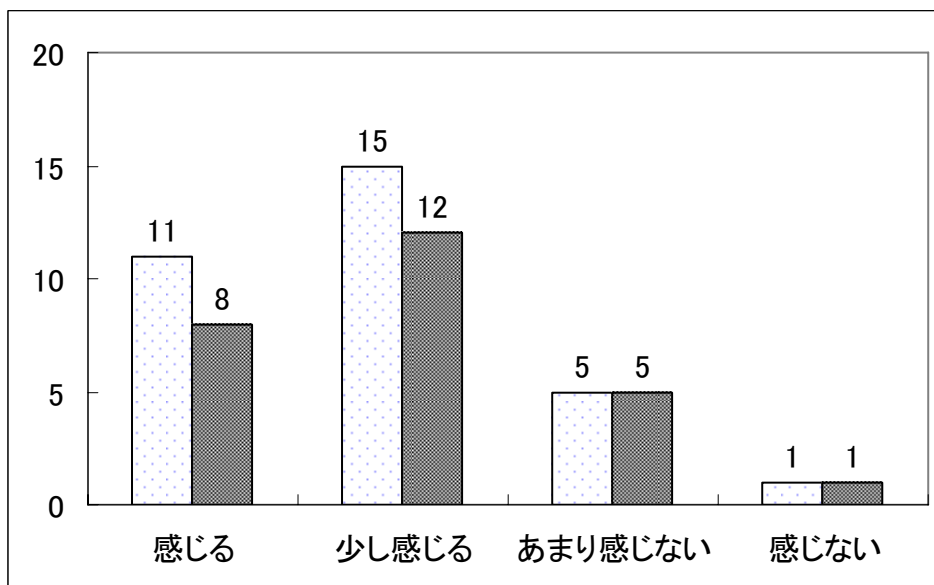
【どちらかと言えば必要だと思う理由】

- これ以上原子力発電所を増やして欲しくない。他のエネルギー利用の開発を進めて欲しい。
- 現状以上に増やして欲しくない。
- 発電の種類をバランスよく。色々な事故に対応できて影響を少なくして行きたい（発電、出力、水力、その他）

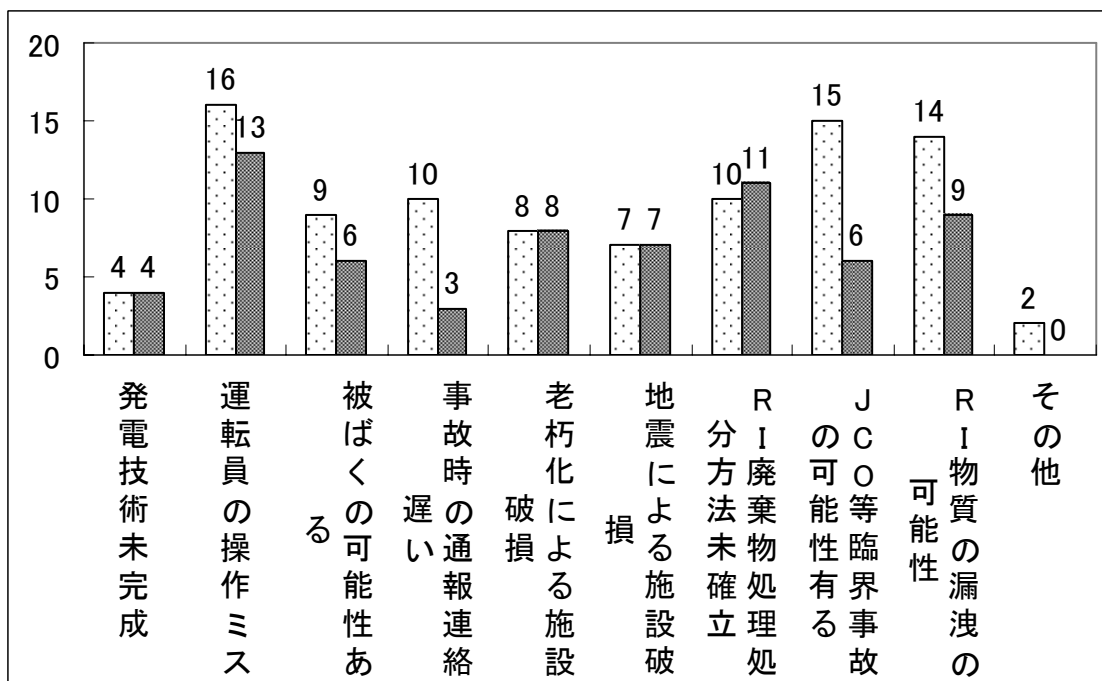
【その他の理由】

- 代替エネルギーの開発とその産業的整備を見届けてからその時点で優劣を決めることになると思う。

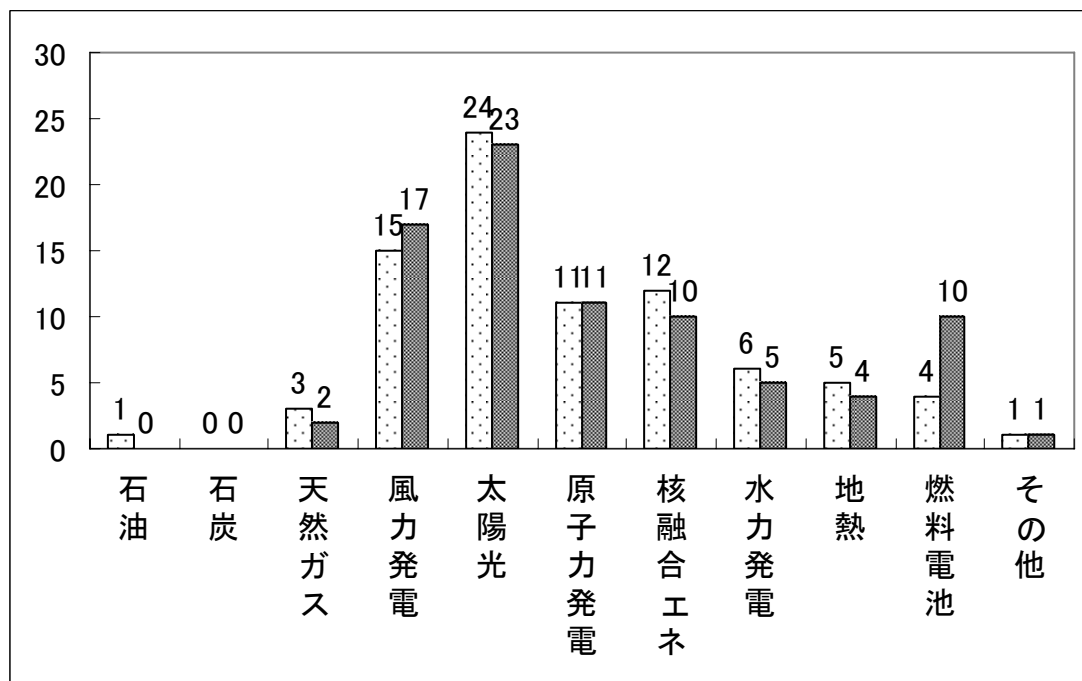
〔設問5〕 原子力発電に不安を感じますか。



〔設問6〕 原子力発電に不安を感じる理由は何ですか。



〔設問7〕 今後期待するエネルギーは何ですか。(複数回答)



〔設問8〕 ご自由にお書きください。

- 使命感を持って各人の仕事に従事することを期待する (大洗町、60代、男性)
- 原子力発電所は本当に安全か、放射線は怖くないのか、どうなっているのか知りたかった。モニターになって見学でき、嬉しい。原子力発電はウラン等の燃料を核分裂させ、その時に出る熱を利用していることがわかったが、有害な放射性物質も出ることが分かった。放射性物質が出ないよう、何十もの仕組みがある等、安全管理は十分気を使われていることがわかった。モニターになる前の原子力に対する不安は小さくなり、気持ちが楽になった。今後も安全管理を徹底して欲しい。(美野里町、60代、女性)
- モニター制度の考え方を聞いたが、大洗工学センター所長の「サイクル機構を知ってもらえたらよい」との考えは評価できない。モニターに何を求めるのかを一番に考えるべき。サイクル機構のPRだけならモニターで無くても良い。市民の声を本当に聞きたいと考えるならモニター制度がどうあるべきかわかるのでは無いか。
- 原子力への関心が深くなった。地元住民としては安全が第一。定められた手順を遵守し、作業を行っていれば事故は起こらないはず。現場作業員はノーマスに徹すると共に万が一事故が発生した場合に処置を完璧に行うよう、教

育を徹底して欲しい。

- 核燃料サイクルの意味も少し理解できるようになった。原子力＝危険と思っていたが、安全管理を徹底することで不安も少しはなくなることがわかった。今後も時間があれば参加したい。(銚田町、30代、女性)
- モニターとなり、動燃時代の認識を払拭しニューサイクル機構「開かれたサイクル機構」に認識を新たにした。安全最優先を貫徹し、地域との強制をベースに国家事業であるエネルギーの開発に邁進願う。(日立市、60代、男性)
- モニターとなり、原子力や核エネルギーの記事を以前より気にして読むようになり勉強になった。近隣に核を扱う施設が多くあり、安全面は気になる。事故時のみでなく常に安全に留意し、事故等には迅速な対応、正確な情報提供を望む。
- サイクル機構職員の真摯な態度が良く伝わった。特に女性職員の活躍が同姓として嬉しく思われた。そのような姿勢が底辺まで届くことを期待する。
- 色々な面から見ても絶対安全でなければならない。少しの不安もあってはならない。(美野里町、50代、女性)
- モニター会合は4回では少ない。何も知らなかったが、関心を持つことができた。グループディスカッションでは現場で働く職員の話が聴けるとよい。また防災訓練の様子、事故等が起きたときの対応の仕方等も今後のモニター制度に取り入れると良い。沢山の方が見て知ることが出来ると良い。(銚田町、30代、女性)
- 原子力関連施設の事故は絶対あってはならず、将来とも無事故を第一として、地域との融和を図り推進して欲しい。
- 安全検査手順を足元より見直し、安全な操業を続けることを願う。
- 事故防止に努力し、開発して欲しい。
- 電気を何も考えずに利用していたが、モニター体験で電気にとっての原子力の必要性を切に感じた。
- 大洗工学センター、福島第一発電所等見学できて良かった。
- 事故の無い、国民に信頼されるサイクル機構になって欲しい。
- モニターは気持ちよく過ごせた。これからも誠実な対応続けて欲しい。エネルギー問題は今後も大きな課題。原子力は必要なエネルギー。これからも安全第一に研究を進めて欲しい。
- より一層わかりやすい言葉で一般人の知識レベルに目線を落としての対応を期待する。



付録 5

【第 3 期アンケート結果】

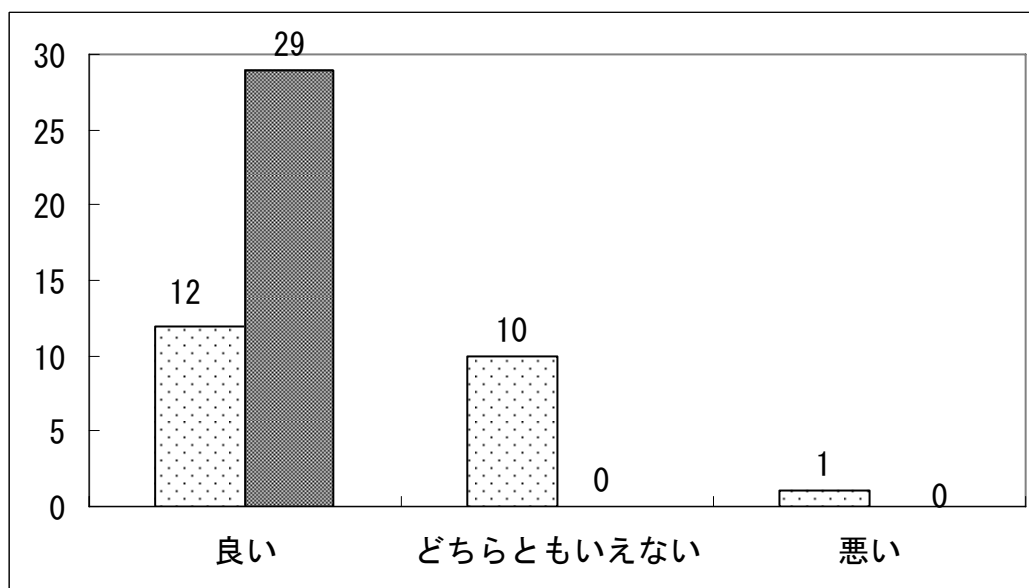
モニター経験前後の意識調査のため、同一内容のアンケートを初回（第 1 回：平成 13 年 6 月 13 日）及び最終回（第 6 回：平成 14 年 2 月 27 日）の会合にて実施した。以下にそれらのアンケート結果について、比較を含めて示す。

なお、以下に示す意見、感想等の記述は最終回のみである。

《回答者数》

アンケート回答者数は、初回 34 名、最終回は 29 名であった。設問 1～7 の図中  は初回結果、 は最終回結果を示す。

【設問1】現在の「サイクル機構」に対する印象はどうか。



【印象が良くなった理由】

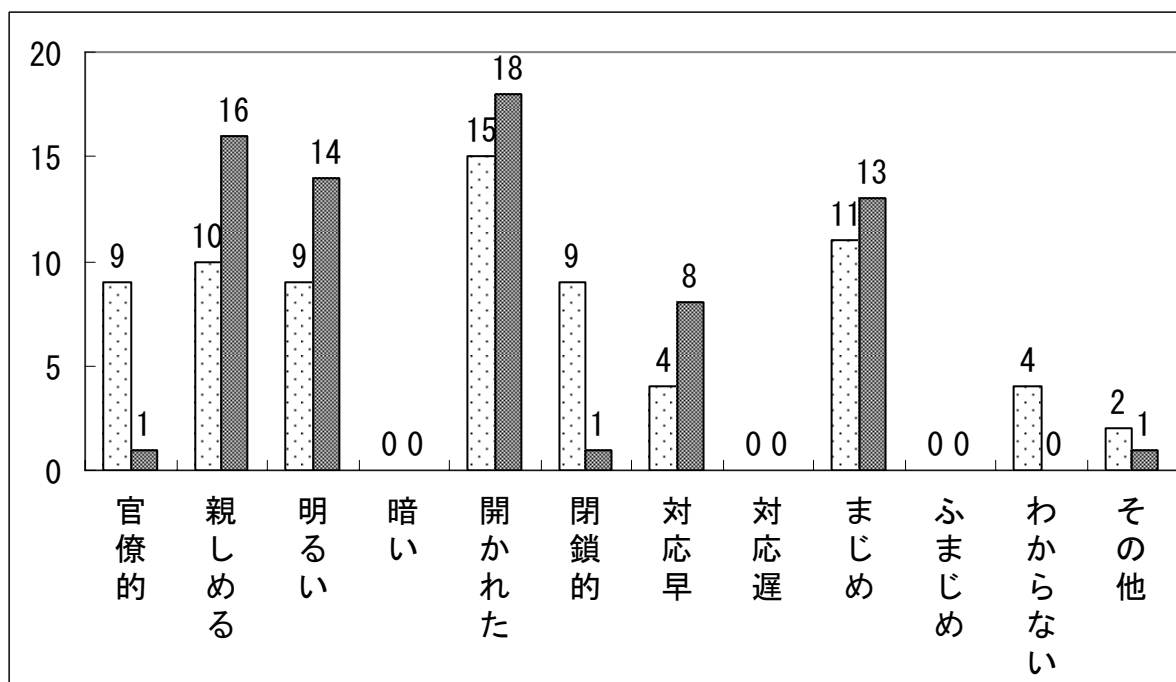
- モニター会合を 6 回/年度開催し、情報交換がかなりスムーズになったこと、更にモニターの要望もよく聴いてくれていることで、住民に安心感を与えているように思える。(大洗町、60 代、男性)
- 実際に見学し、研究所としてのテーマ等に一部ではあるが触れることができた。(大洗町、50 代、女性)
- 日常生活で触れる機会がなかったが、モニターになっていろいろ勉強することができた。(茨城町、50 代、女性)
- 不安感がなくなった。(茨城町、50 代、女性)

- 見たり聴いたりする中で、少しずつでも原子力について知識が得られたこと。
(銚田町、30代、女性)
- サイクル機構の仕事内容を少しだが理解できたから。(銚田町、30代、女性)
- 原子力に対する安全性を感じた。(内原町、60代、男性)
- 知識がなかったのがモニターになって、少し知ることができた。(美野里町、60代、女性)
- 働いている職員を身近に感じるようになった。(美野里町、60代、女性)
- 1年前は「核燃料サイクル機構」そのものがどのようなものであるのかも分からなかった。「良くなった」というより、「わかった」に近い。(笠間市、40代、女性)
- 見学等により、内部の様子がだいぶ分かってきた。(日立市、60代、男性)
- 1年前までは全くどのような所かわからなかったが、6回の会合で少しはどんな仕事をしているところかわかった。(常北町、40代、女性)
- 前向きの姿勢。(常陸太田市、40代、女性)
- 内情(今までは知らなかった)がわかってきたので理解できるようになった。
(常陸太田市、不明、女性)
- 仕事内容が分かった。(ひたちなか市、40代、女性)
- サイクル機構の業務を理解した。(ひたちなか市、50代、女性)
- サイクル機構の内容が理解できて良くなった。(瓜連町、60代、男性)
- 危ないものからエネルギー源への理解が出来た。(那珂町、60代、男性)
- 警備体制強化されたことは良い。(東海村、70代、男性)
- 各事業所の内容がはじめ分からなかったが、説明を受け、より理解することが出来た。(桂村、60代、女性)

【1年前と比較して印象が変わらない理由】

- 1年前のことは詳しくは知らない。1年前から印象は良かった。(水戸市、70代、男性)
- 今日の見学により、世界との交流、企画室等、前進の色が見える。(東海村、70代、男性)

〔設問2〕「サイクル機構」のイメージに最も近い言葉をお聞かせ下さい。(複数回答)



【1年前と比較して多くの方が感じるようになったイメージ】

親しみやすい、明るい、開かれた、対応が早い、まじめ、と感じる方がそれぞれ増加した。その理由は以下のとおり。

《理由》

- 火事の際、すぐにお手紙をいただいた。(茨城町、50代、女性)
- この1年間でも色々な件が報告されたが、国民に対する対応が良かったと思う。(茨城町、50代、女性)
- 最初は閉鎖的なイメージがあったが、モニター会合を重ねる毎に親しみを持ち、明るいイメージになっていった。(鉾田町、30代、女性)
- 名前から暗いイメージがあったが消えた。(内原町、60代、男性)
- 幹部の方は皆、明るい人達。(美野里町、60代、女性)
- モニター会合や施設見学をする中での印象として「なるべく多く知ってもらおう」という姿勢が感じられた。(笠間市、40代、女性)
- 職員の努力が大きい。(日立市、60代、男性)
- モニターとして職員の皆さまに接するようになり、そう思うようになった。(常陸太田市、不明、女性)
- モニターとして参加し、見学等で説明を受けたので。(ひたちなか市、40代、女性)
- 官僚的な感じをなくす努力がされていると思われる。(瓜連町、60代、男性)
- 対応の感じが良い。(那珂町、60代、男性)

○職員の方々が研究、技術、開発のために取り組んでいる姿が見られた。(桂村、60代、女性)

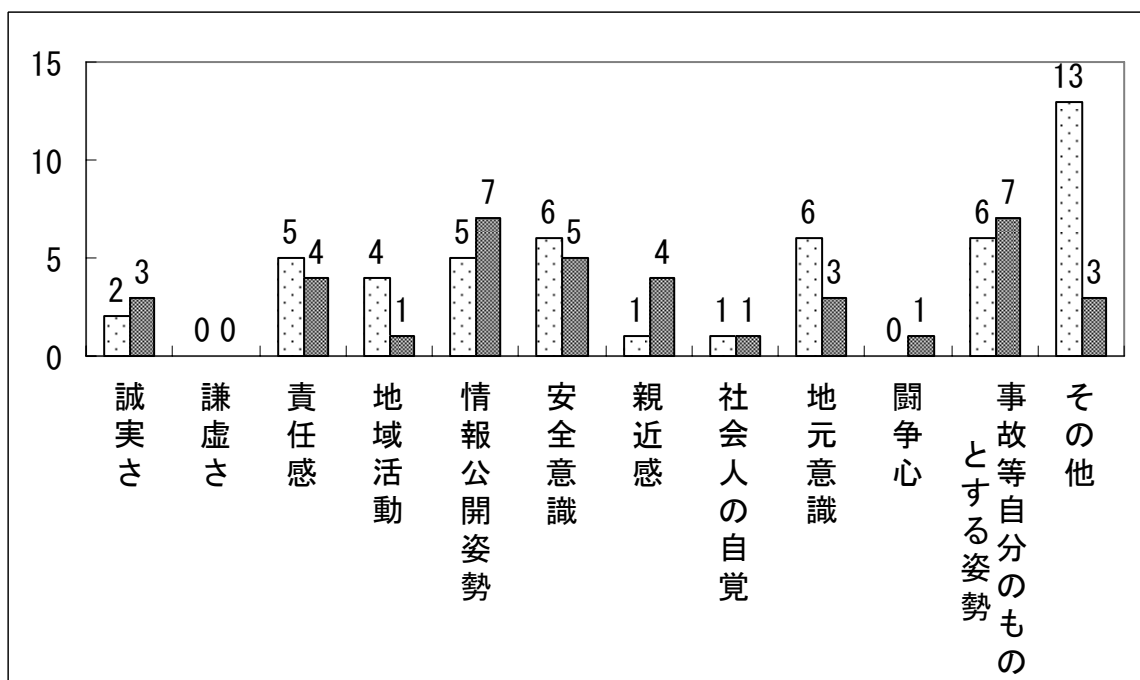
【その他のイメージ】

官僚的、閉鎖的と感じる方がそれぞれ1名ずつ第6回アンケート回答者の中にいた。その理由は以下の通り。

《理由》

○モニターとしては「サイクル機構」を身近に感じるが、第三者的にはまだまだ近寄りがたい。(常北町、40代、女性)

【設問3】サイクル機構職員に欠けているものは何ですか。(複数回答)



【1年前と比較して多くの方が感じた欠けているもの】

①誠実さ、②情報を公開しようとする姿勢、③親近感、④事故等を自分のものとして受けとめる姿勢、がサイクル機構職員に欠けている、と感じる方が多くなった。また、①責任感、②安全意識、は1年前と変わらず、ほぼ同数の方がサイクル機構職員に欠けていると感じる、という結果になった。その理由は以下の通り。

《理由》

- サイクル機構はその取り扱いを総合的に考慮して①原子炉に使用される燃料、②原子炉の稼働条件、③使用後の燃料処理等、併せ考えて研究を進める必要があるように思う。また安全面から医学的問題も含めて職員の勉強が必要と思う。
(大洗町、60代、男性)
- 事故を自分のものとして受けとめる姿勢について、欠けているとは思わないが、持ち続けてほしい。(茨城町、50代、女性)
- 他のどんな仕事でも同じだと思うが、一人ひとりが自分の仕事に自覚と責任をもって取組んでほしい。安全面だけを強調するのではなく、リスク面も明らかにしてそれに対する対応も公にしてほしい。(常北町、40代、女性)

【「その他」回答理由】

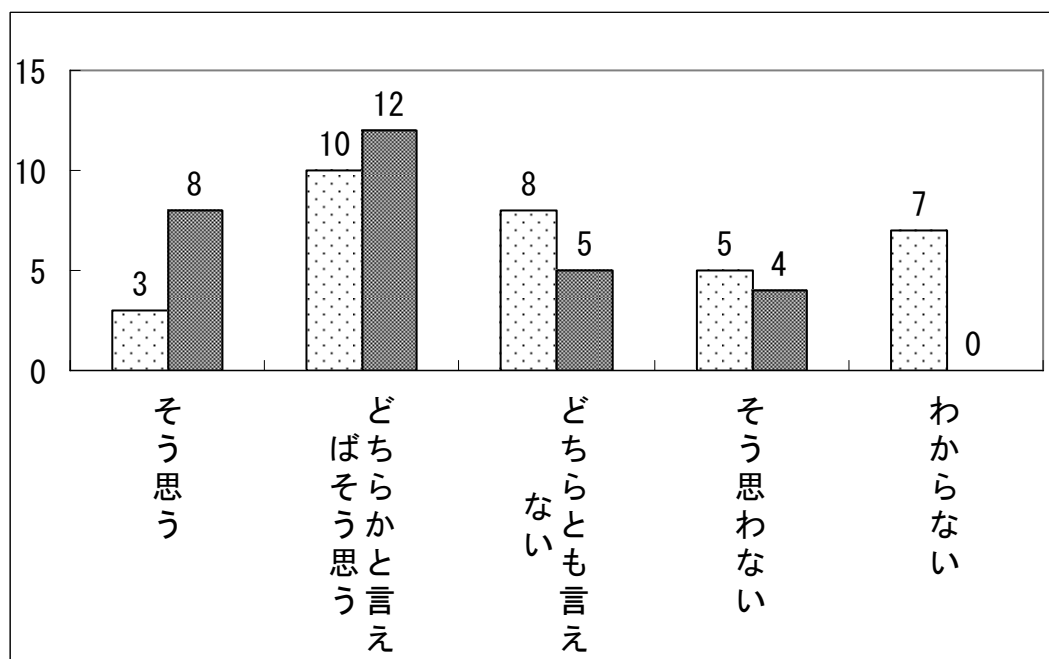
- 年に数回の会合で職員を判断するのは大変難しいが、トラブルがあったときに新聞報道などでいろいろと批判記事を眼にしたとき、「そう思わせてしまう何かがあったのかな」と思った。(具体的にどうこうということはないが・・・)。

(笠間市、40代、女性)

【意見】

- 少なくとも接した職員の方々は誠実に責任感を持って親しみやすく、謙虚に職務を果たしていたと思う。(大洗町、50代、女性)
- モニターで接した職員はみなまじめで熱心に仕事をしていると感じた。(茨城町、50代、女性)
- 接した職員はとても前向き、テキパキとした対応でとても好感。(ひたちなか市、60代、女性)
- 職員の誠実な対応に感銘(良い点)。(那珂町、60代、男性)
- 受付もよく守ってやっている。テロ事故があっては大変。(東海村、70代、女性)

【設問4】サイクル機構は地域へ溶けこんでいると思いますか。



【溶けこんでいると思う理由】

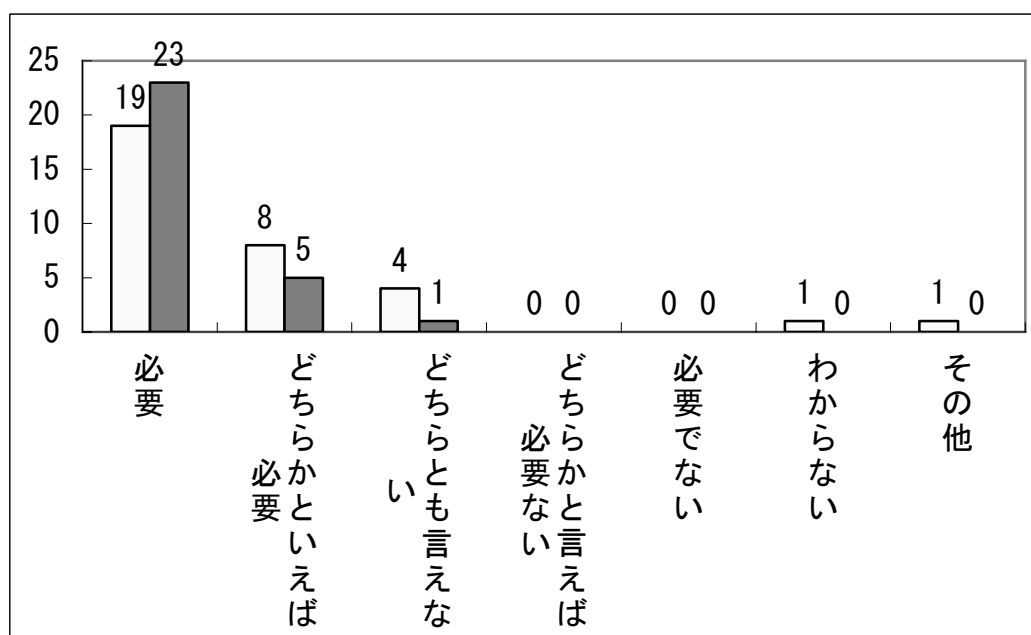
- モニター会合を開催することで、かなり親しみやすくなった。サイクル機構のみでなく、原子力研究関係を併せてモニター化する方向に進めてもらいたい。更に放射能と医学関係も含めていく必要があるように思う。(大洗町、60代、男性)
- わくわく科学館ができてこれからはもっと身近になりそうで、期待している。(大洗町、50代、女性)

- 少しづつでも近隣の市町村に出向いている点。(茨城町、50代、女性)
- 努力しているのを感じる。(茨城町、50代、女性)
- 広報事業を広く取り入れていると思った。(美野里町、60代、女性)
- ①JCO 事故以来、非常に住民の関心が高まっているため。②PR に努めているため。(日立市、60代、男性)
- サイクル機構で努力していることは認めたい。(常北町、40代、女性)
- 各地域にでかけてのPR 活動など、又展示館などでの交流がある。(常陸太田市、不明、女性)
- モニター会議においては地域に顔を向けていると思う。(ひたちなか市、60代、女性)
- サイクル機構モニターいばらきを開催していること、住民の見学会を開催していること等。(東海村、70代、男性)
- 私的にもサイクル機構と話す機会が多くあり、その中で真剣な話をしている。住民に心を向けている。(東海村、70代、女性)

【溶けこんでいないと思う理由】

- 実際私の町には来てもらっていないので、これからに期待したい。(鉾田町、30代、女性)
- 美野里町は知識が薄いと思う。(美野里町、60代、女性)
- 身近で知っている方が少ない。(ひたちなか市、40代、女性)
- 住民側から見れば、十分とは思わない。(那珂町、60代、男性)

【設問5】原子力発電は必要だと思いますか。



【必要と考える理由】

- 日本の現在のエネルギー必要量が原子力発電なくしてまかないきれない状態にあるから（より安全な原子力発電へ）。（大洗町、60代、男性）
- 省エネ等では限界があることが良くわかった。（大洗町、50代、女性）
- 現代社会の中では必要と感じた。色々な話を聞いてそう感じた。（鉾田町、30代、女性）
- 今使っているエネルギーが何年か先にはなくなってしまう。それを補ってくれるのが原子力だと思う。（鉾田町、30代、女性）
- 現在の生活にはなくてはならないこと。勉強の上で。（美野里町、60代、女性）
- 安全である。サイクルできる（経済的）。原子力発電に変わるものが無い。（美野里町、60代、女性）
- 原子力以外のエネルギーと比べ、危険ということを除けばコストの面では最有力と考える。（日立市、60代、男性）
- 私たちの現在の生活は電気を切り離しては考えられない生活になってしまったから。（常北町、40代、女性）
- 日本は資源のない国であるので、クリーンエネルギーである原子力はぜひ必要ではないか。（金砂郷町、60代、男性）
- 資源に限りがあり、自然エネルギーとあわせて電力をまかなっていく必要がある。（ひたちなか市、40代、女性）
- ①環境に優しい、②エネルギー対策で、原子燃料サイクルによって長く使用できる。（瓜連町、60代、男性）
- これからのエネルギー源。住民に心配の無い（安全）ことが何にも優先を。（那珂町、60代、男性）
- 小資源国であり、化石燃料はいつかなくなり、沢山使用すれば、大気汚染、地球温暖化につながり、原発はクリーンエネルギーであり、必要と思います。但し、絶対に人為的なミスは起こさないこと、過去の教訓と初心が大切。（東海村、70代、男性）
- 資源の少ない日本には何としても原子力に頼る。（東海村、70代、女性）
- 資源が少ない我が国では必要であると思う。（不明）

【どちらかと言えば必要な理由】

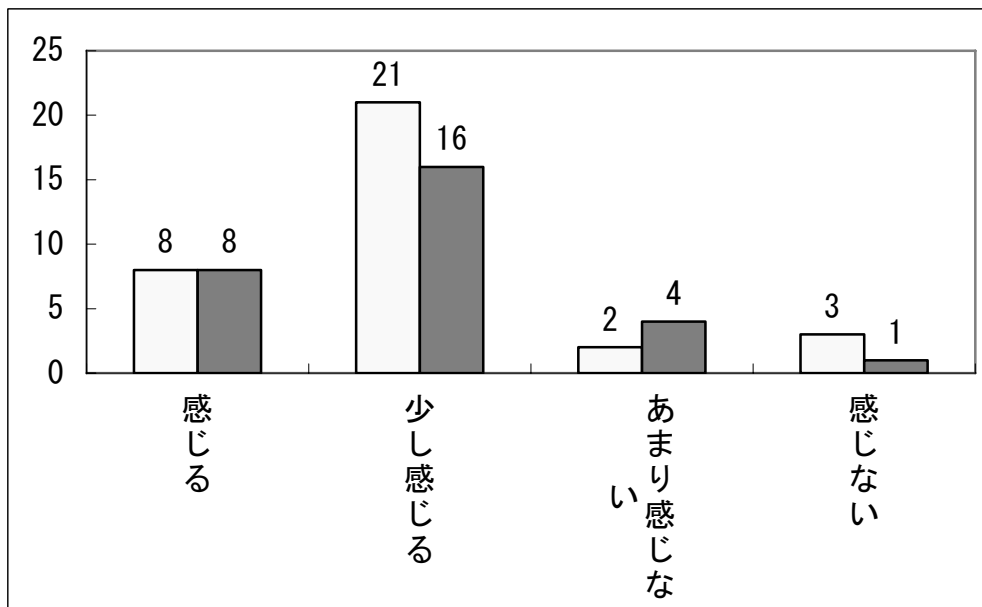
- 現在の社会生活に電力は欠かせないし、効率的だと思うが併せて太陽発電なども研究してほしい。（茨城町、50代、女性）
- 石油、石炭、天然ガス等の残りを考えると必要かと思う。（内原町、60代、男性）
- 色々なエネルギーを組み合わせ、利用していくことが良い、と思う。（笠間市、40代、女性）
- リスクはあるが、他の発電だけでは必要量がまかないきれない。（常陸太田市、

不明、女性)

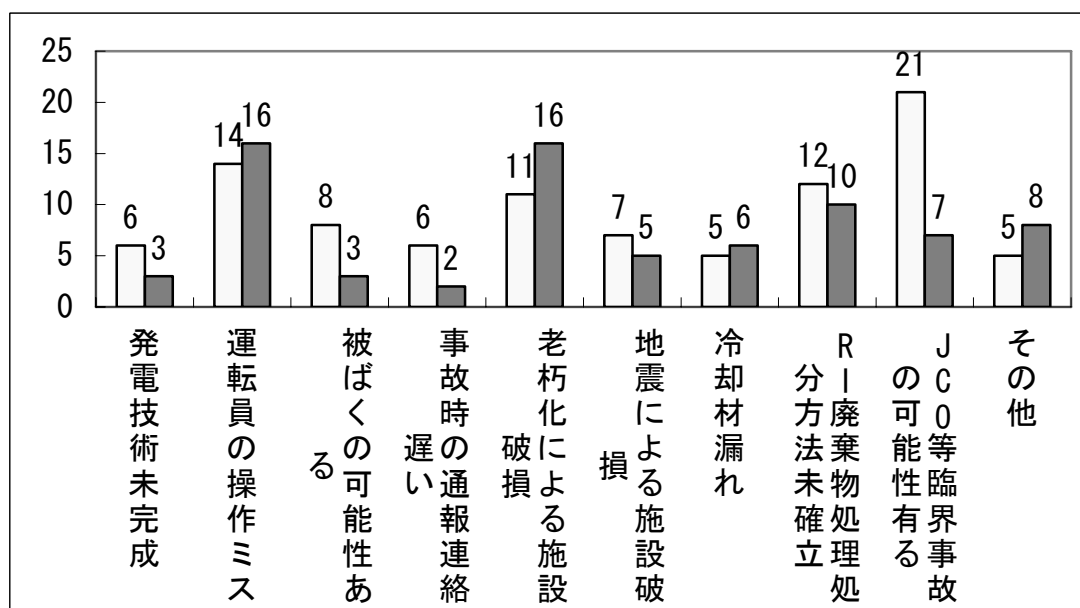
【どちらとも言えない理由】

○目前の利便さだけを追及することなく、本当の豊かさとは何かを考えると生活の仕方も変わると思う。(ひたちなか市、50代、女性)

〔設問 6-1〕原子力発電に不安を感じますか。



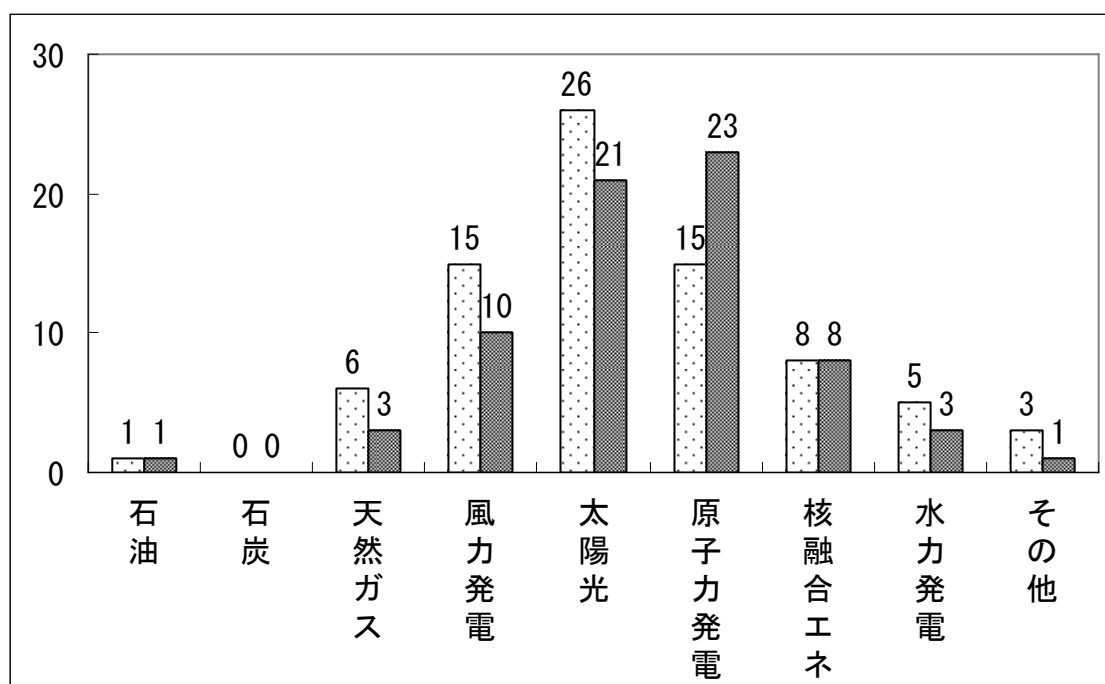
〔質問 6-2〕原子力発電に不安を感じる理由は何ですか。(複数回答)



【感じる理由－その他－】

- プルトニウムを含む核燃使用と、ナトリウム冷却材使用の”もんじゅ”。設備、材質に不安がある。(大洗町、60代、男性)
- ゲリラの的になるかもしれない。(茨城町、50代、女性)
- 危険ではあると思い、不安。業者の下請けなど。(美野里町、60代、女性)
- 不安材料は一つではなく、「大丈夫」と100%信じる事が出来ないのが本心。(笠間市、40代、女性)
- 事故が大きく報道される。(日立市、60代、男性)

【設問7】今後期待するエネルギーは何ですか。



【原子力発電に期待する理由】

- 勉強した上で知った。(美野里町、60代、女性)
- サイクルできること。量的、質的、経済的に原子力発電に変わるものは無いと思う。(美野里町、60代、女性)

【原子力発電、太陽光に期待する理由】

- 今すぐに使用できる原子力発電と共に将来的にはより安全な太陽光が実用化されればもっと良い。(茨城町、50代、女性)
- 先の長いことだが、私の子供たち、そして孫たちが幸せに暮らすためにこれからも研究をがんばって欲しいと思う。(鉾田町、30代、女性)
- 色々なエネルギーを組み合わせるとよいところを取り出して利用していければと思

- う。(笠間市、40代、女性)
- 石油石炭など資源的に限界があると思われる。安全面では風力発電など一番良いと思う反面、安全面が確保されれば環境から見ても原子力発電と思う。(常北町、40代、女性)
 - 資源に限度がある(日本は特に)ので、少しでも多く期待出来るエネルギーだから。(常陸太田市、不明、女性)
 - 地球温暖化にならないようなエネルギーだから。(金砂郷町、60代、男性)
 - 自然エネルギーであること。(ひたちなか市、50代、女性)
 - 科学の先端! 次の時代のエネルギーを。更なる研究、開発を期待したい。(那珂町、60代、男性)
 - 現在は原子力に頼っている。太陽光についての研究も実施していると聞くが、いつの話になるかわからない。(東海村、70代、女性)

〔設問8〕ご自由にお書き下さい。

- 火災事故の際、使用していた紙のごみ入れは障害者の方が作っていたものと思う。金属製のものになるということで、仕事が減ってしまうと心配した(事故が起きなければ・・・)。(大洗町、50代、女性)
- 貴重な経験をさせていただいたことを感謝している。(茨城町、50代、女性)
- JCOの事故があり、国民の意識が高まったときをチャンスにしてもう少し底辺にまで浸透させられたら良いと思う。(茨城町、50代、女性)
- 1年間モニターをさせていただき、ありがとうございました。これからも地域の人たちを含め、PRに力を入れていただきたい。(鉾田町、30代、女性)
- モニターになって原子力の動きが必要であることが理解できるようになり、新聞等なども眼が向くようになった。美野里町役場を通して、1人でも多く勉強できるように・・・。(美野里町、60代、女性)
- 「原子力」というと、「東海村の原研」というイメージしかなく、JCOの事故があって、「色々な施設がある」と知った。「大洗工学センター」は初めて聞く名前であった。モニターになり、新聞等で原子力関係の記事が出ると、読むようになった。内容が少し理解できるようになった。今後はモニターで得たものを地域で広げていく。(笠間市、40代、女性)
- 安全面には特に力を入れてやって欲しい。一般の人への安全性のPR。(日立市、60代、男性)
- 本当にモニターに参加できて良かった。今まで原研もサイクル機構もJCOも区別が出来なかった。今では新聞なども眼を通すようになった(去年までは難しい話と頭からきめつけてしまい、原子力などの話は避けていたように思う)。(常北町、40代、女性)

- まじめに仕事に取り組み、地域の人々と関わろう、理解してもらおうと思っても、相手にもよるので、今の努力のままでいいのではないかと思う。専門の人と一般の人の知識が違って当たり前。大洗わくわく科学館やアトムワールドに来てもらって、子供たちに楽しんでもらうこと、大人が子供を連れていきながら、ミニチュアの模型や説明を眼にすることから入ってもらいと良いと思う。私たち家族は（高1、小6祖父、祖母も含め）大洗わくわく科学館やアトムワールドなど好きでよく行く。（常陸太田市、40代、女性）
- 科学実験など、要望があれば出かけると言いますが、展示館のようなところで、実験教室の募集などしてみたいか（特に土曜など）。（常陸太田市、不明、女性）
- 原子力はすばらしいエネルギーであるが、諸外国が原子力発電をやめていっている。それは・・・。豊かな生活（今までの）は考え直すときでは無いか。（ひたちなか市、50代、女性）
- モニターでは、サイクル機構の内容理解が出来、よき勉強となった。（瓜連町、60代、男性）
- 今後も原子力について、勉強を続ける（地域住民と一体になっての発展を）。（那珂町、60代、男性）
- サイクル機構モニターいばらきの会合は良かった。今までにわからないところが、よくわかった。原子力によるエネルギー施設の安全管理等、その他、勉強になった。（東海村、70代、男性）
- 第6回に渡る研修会により、原子力の知識を深められた。東海村の住民は、土地や家を捨て、どこにも行けない。事故の無い安全で安心の村であることを願っている。東海村が経済的に豊かな村に立ち上ることを望んでおり、共存、共栄を望んでいる。益々の発展を願う。（東海村、70代、女性）
- 原子力に少なからず関心を持つことが出来、知識も得ることが出来た。（桂村、60代、女性）

付録 6

【第4期アンケート結果】

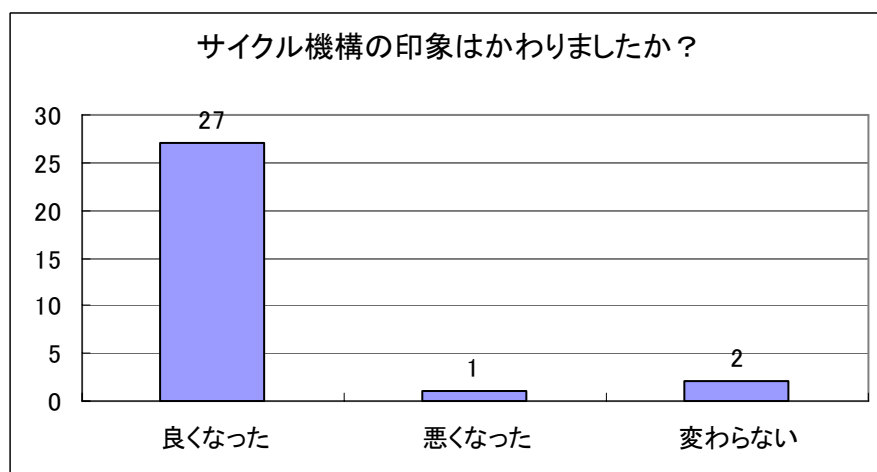
モニター経験前後の意識調査のため、同一内容のアンケートを初回（第1回：平成14年5月30日）及び最終回（第5回：平成15年3月6日）の会合にて実施した。以下にそれらのアンケート結果について、比較を含めて示す。

なお、以下に示す意見、感想等の記述は最終回のみである。

《回答者数》

アンケート回答者数は、初回 30 名、最終回 29 名であった。設問 1～7 の図中■は初回結果、■は最終回結果を示す。

(1) 核燃料サイクル開発機構の印象は1年前と現在でかわりましたか？

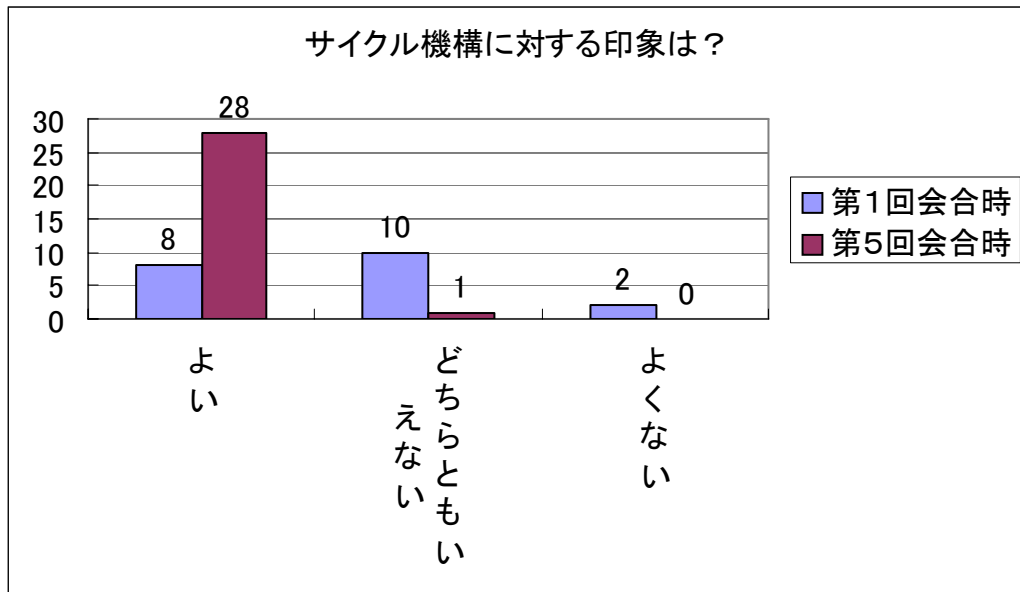
**【理由】****[良くなった]**

- ・ 親切な対応、質問への丁寧な回答をしてもらえたので。(3名)
- ・ 自分の目で見て、耳で聞いて、先入観でなく、理解できたので。(6名)
- ・ 体制、管理がしっかりしていることを認識できたので。(6名)
- ・ 親しみが持てたので。(3名)
- ・ エネルギー開発への熱意を感じたので。(3名)

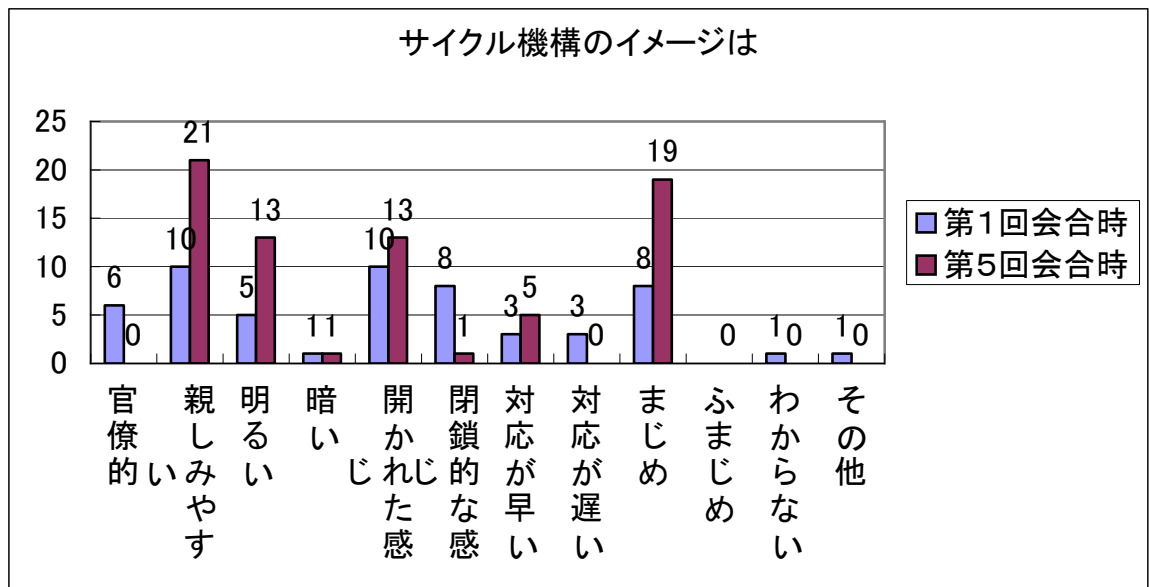
[変わらない]

- ・ 1年前から良い印象を持っていたので。(2名)

(2) 現在の核燃料サイクル開発機構に対する印象はどうか？



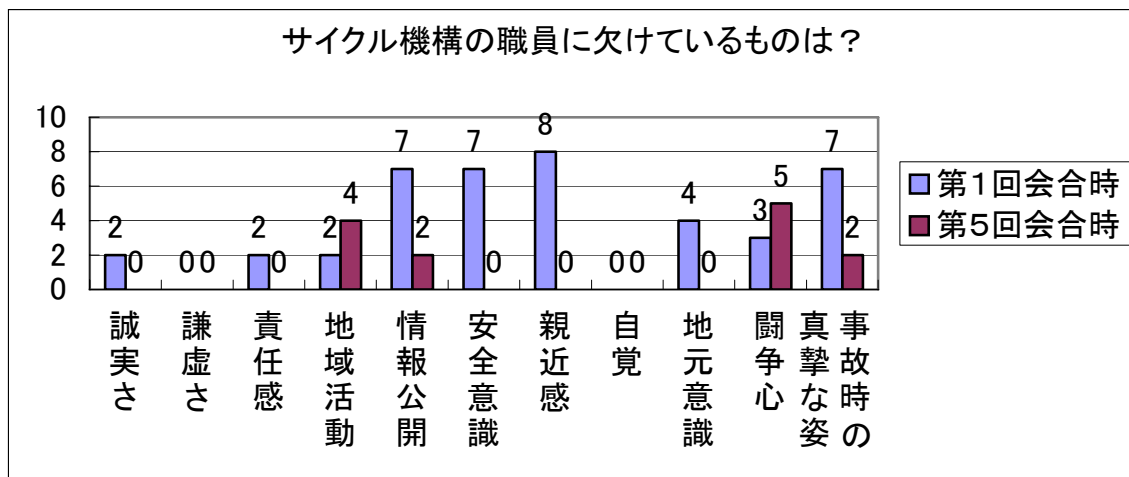
(3) 現在の核燃料サイクル開発機構のイメージに最も近い言葉はどれですか。
(複数回答可)



【理由】

- ・ モニターになって、イメージアップした。(3名)
- ・ 職員の熱意ある態度に好感が持てた。(2名)
- ・ 現場見学で開かれた職場という印象を持てた。

(4) 核燃料サイクル開発機構の職員には、何が欠けていると思いますか。
(複数回答可)



【理由】

[地域活動]

- ・ 地域の催しに参加し、もっと PR してほしい。

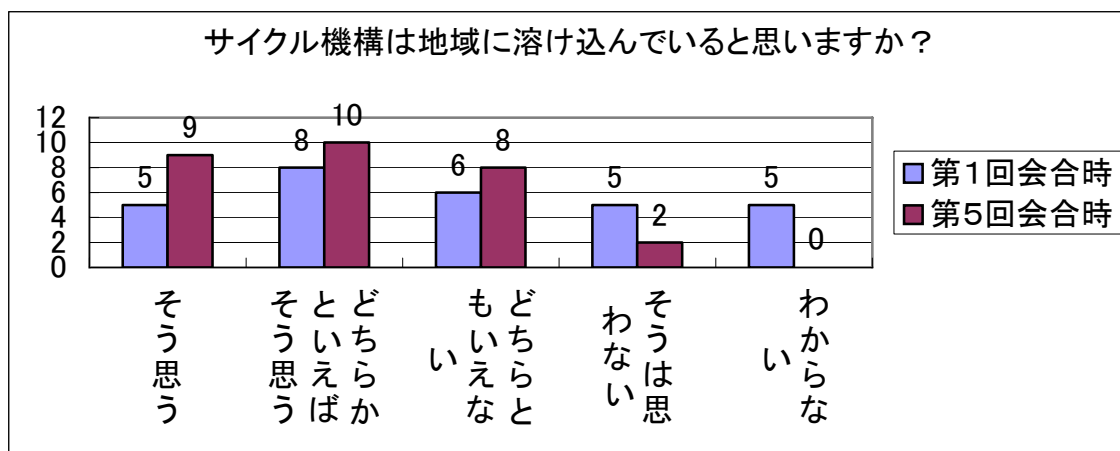
[闘争心]

- ・ 民間とは、違う印象がある。
- ・ これで良いと思わず、より良い方向性、安全を追求してほしい。
- ・ 自分の技術は世界一だとの自負をもってほしい。

[その他 (ユーモア)]

- ・ 誠実な対応の中にユーモアもあればよいと思う。(2名)

(5) 現在、核燃料サイクル開発機構は地域に溶け込んでいると思いますか。



【理由】

[そう思う]

- ・ モニター制度を持つなど、広報活動に積極的だと思ったので。(4名)
- ・ 色々な分野で頑張っている。(3名)

[どちらといえばそう思う]

- ・ 立地町村だけでなく、隣々接市町村でも積極的なPRを行ってほしい。(3名)

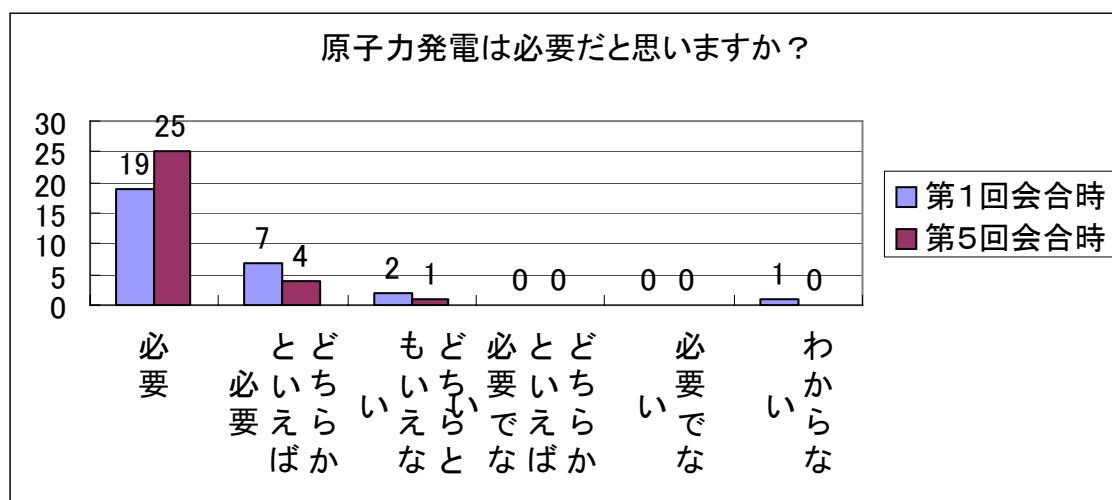
[どちらともいえない]

- ・ 一般にはまだまだ浸透していないと思うので(8名)
- ・ PRがまだまだ不足していると思うので

[そう思わない]

- ・ 地域住民には、まだよく知られていないので。(2名)

(6) 原子力発電は必要だと思いますか。



【理由】

[必要]

- ・ 資源の少ないわが国では再利用できる原子力は必要である。(8名)
- ・ 電力の需要を考えると必要である。(4名)
- ・ 経費が安いので(3名)
- ・ 大量に安定に供給できるので(4名)
- ・ 他にかわりになるエネルギー源がないので(2名)

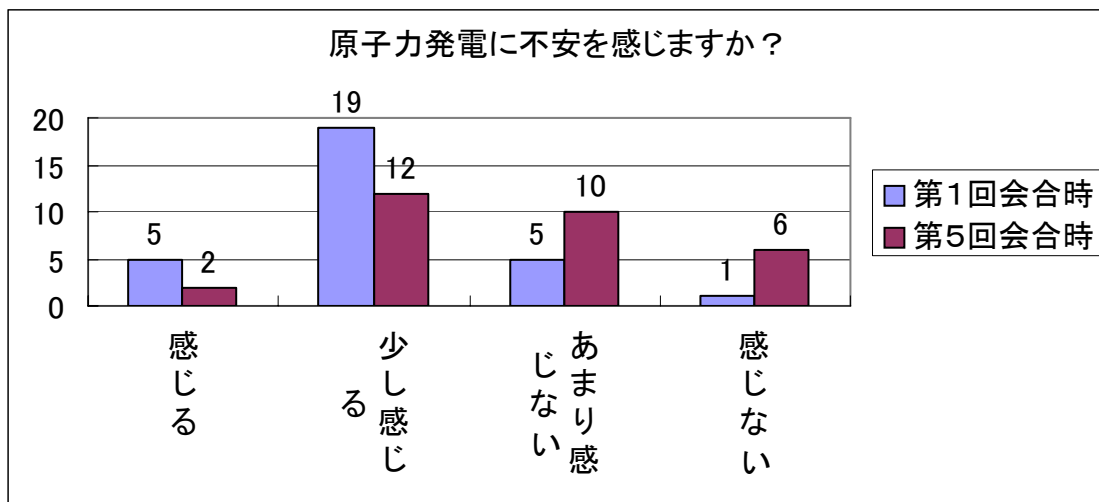
[どちらかといえば必要]

- ・ 電力の需要に対応できるのは原子力だと思う。(3名)

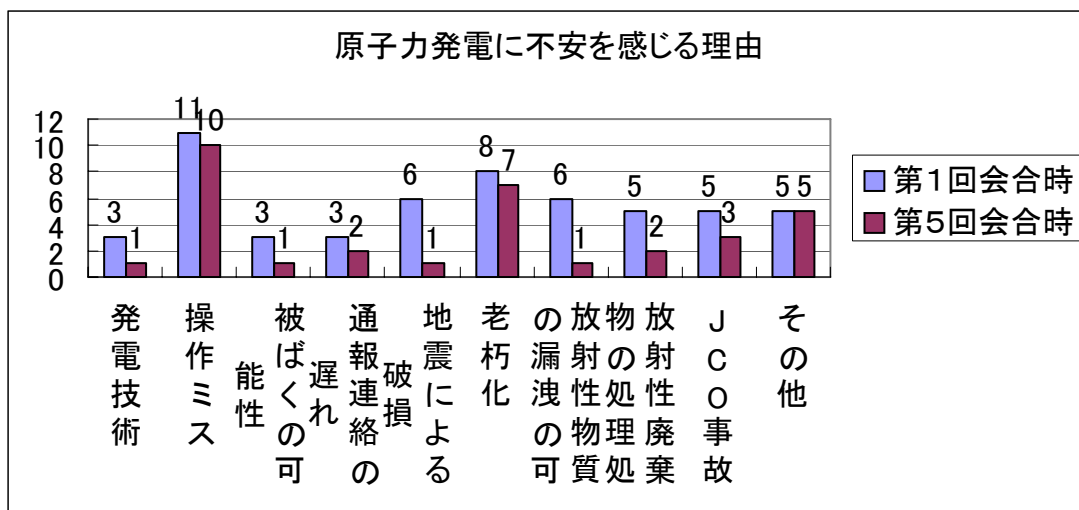
[どちらともいえない]

- ・安全面を考えると不安であるが、エネルギー確保の観点からは絶対必要だと思ふ。

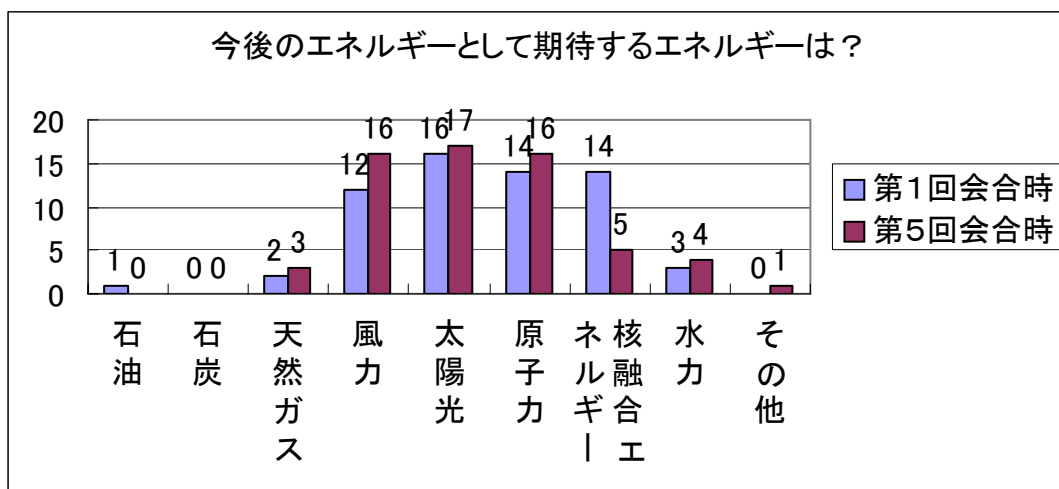
(7) 原子力発電に不安を感じますか。



《理由》(7)の質問で不安を感じると回答された方は、その理由は何ですか。
(複数回答可)



(8) 今後のエネルギーとしてどのようなエネルギーに期待していますか。
(複数回答可)



【理由】

【原子力】

- ・ 建設してしまえば、経費が安くなるから
- ・ 安価で、自然にやさしいエネルギーと思うから (2名)
- ・ 歴史も長く、技術も大成されつつあるから
- ・ モニターを1年間つとめてそう感じたから
- ・ 原子力にかわるエネルギーがないと思うから (2名)
- ・ 資源がある程度豊富だと思うから

【太陽光・風力】

- ・ 現技術で対応可能で、大きなリスクもないから。
- ・ 環境にやさしいエネルギーだから
- ・ 自然にあるもので安全だと思うから

【核融合エネルギー】

- ・ 現在研究中であるが、実現するものと期待しているから

【その他】

- ・ 新しい材料によるエネルギー技術開発を望んでいるから

(9) ご意見、ご感想等、ご自由にご記入願います。

【事業について】

- ・ 開かれた事業所を目指してこれからも安全に、資源を有効に利用して頑張ってもらいたい。(2名)
- ・ 自然にやさしいエネルギーづくりを心がけてほしい。

[広報誌について]

- ・ 原子力事故等の緊急時の個人の対応の仕方についてわかりやすいパンフレットを作ってほしい。
- ・ 広報誌「さいくる」の表紙は季節の花を使っていてきれいである。
- ・ **FBR** 実用化戦略のパンフレットはわかりやすかった。

[モニター制度について]

- ・ 原子力について興味をもつことができ、新聞で記事が載っていても読めるようになった。
- ・ なかなか見られない施設を見学することができた。勉強になった。(2名)
- ・ アンケート記入時間が短かった。
- ・ モニターで経験したことを活かしていきたいと思った。
- ・ 原子力=危険と思わずに済むようになった。

[職員について]

- ・ 親切、丁寧な対応がよかった。(2名)

【第5期アンケート結果】

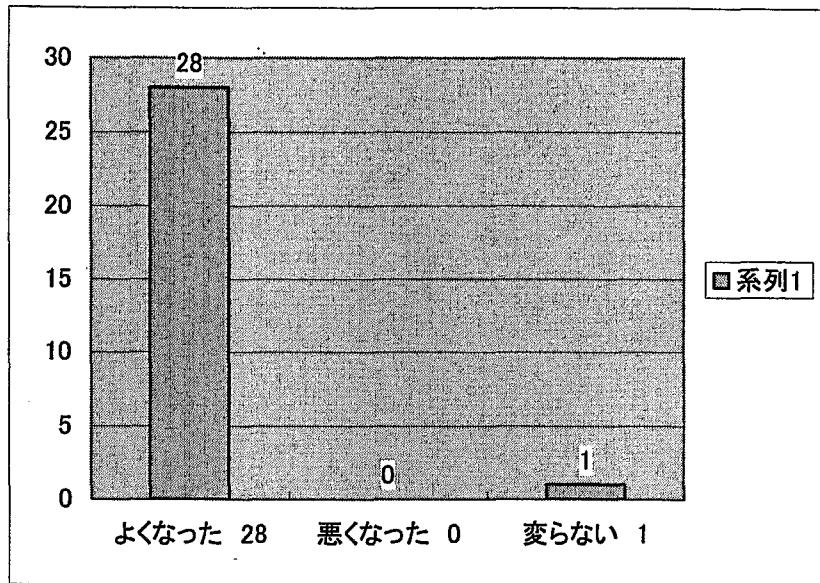
モニター経験前後の意識調査のため、同一内容のアンケートを初回(第1回:平成15年6月25日)及び最終回(第4回:平成16年3月9日)の会合にて実施した。以下にそれらのアンケート結果について、比較を含めて示す。

なお、以下に示す意見、感想等の記述は最終回のみである。

《回答者数》

アンケート回答者数は、初回34名、最終回29名であった。設問1～7■図中 は初■結果、 は最終回の結果を示す。

(1)「核燃料サイクル開発機構」の印象は1年前と現在ではかわりましたか？



【理由】

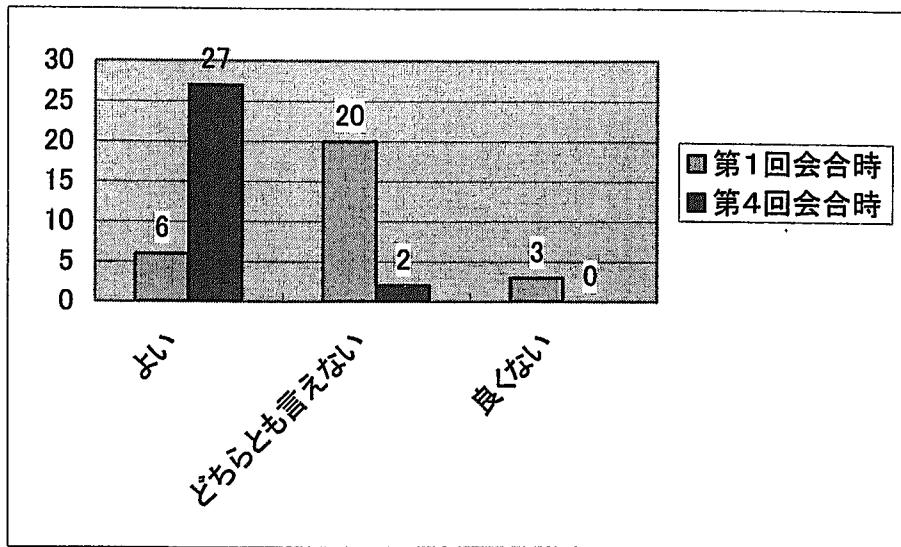
〔良くなった〕

- ・取り組み内容が理解出来た事と、係りの方々の対応が良好でした。
- ・原子力についてJCOの事故以来、憶測で考えていたところがありました。出席する都度、知る点は多かったです。
- ・施設見学等で原子力についての理解が深まった。
- ・危険だという印象がなくなり、核燃料サイクル機構は安全管理も徹底改善されていることがわかった。
- ・来るたびに職員の対応等が良くなったと思う。
- ・新聞・テレビ等では核燃料サイクル開発機構を知っていたが、実際身近に見る事によって安全性を確認することが出来た。
- ・この1年、原子力に関するニュースに対して、関心を持つようになった。
- ・どのような安全対策をとっているのか、また安全に対して細かい所まで気を配っているのがわかって良かった。(2名)
- ・モニターからの意見を少しでも取り入れ前進している姿が見られると思う。
- ・従業員のわかりやすい説明と普段見ることができない施設見学ができ、少しではあるがサイクル機構のことがわかったような気がした。

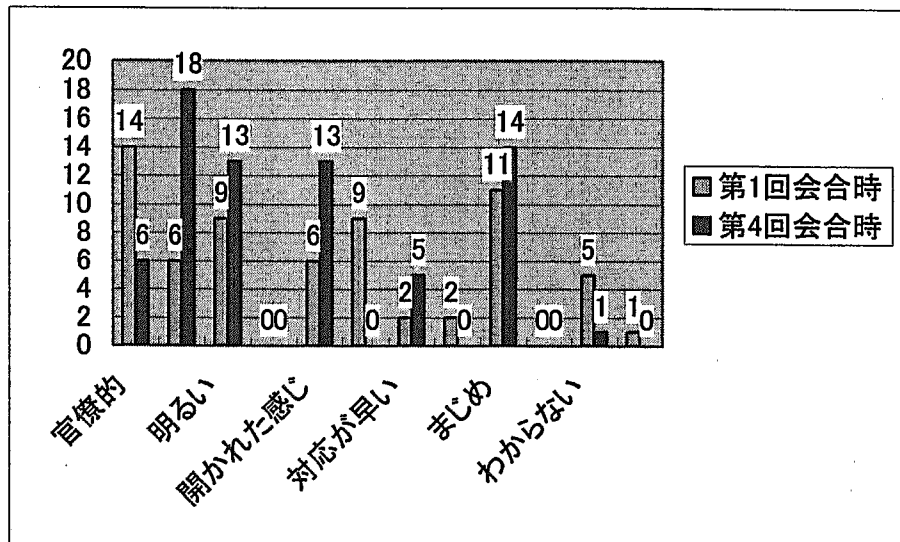
〔変わらない〕

- ・情報の公開に向けた努力を感じられると思います。

(2)現在の「核燃料サイクル開発機構」に対する印象はどうですか？



(3)現在の核燃料サイクル開発機構のイメージに最も近い言葉はどれですか？

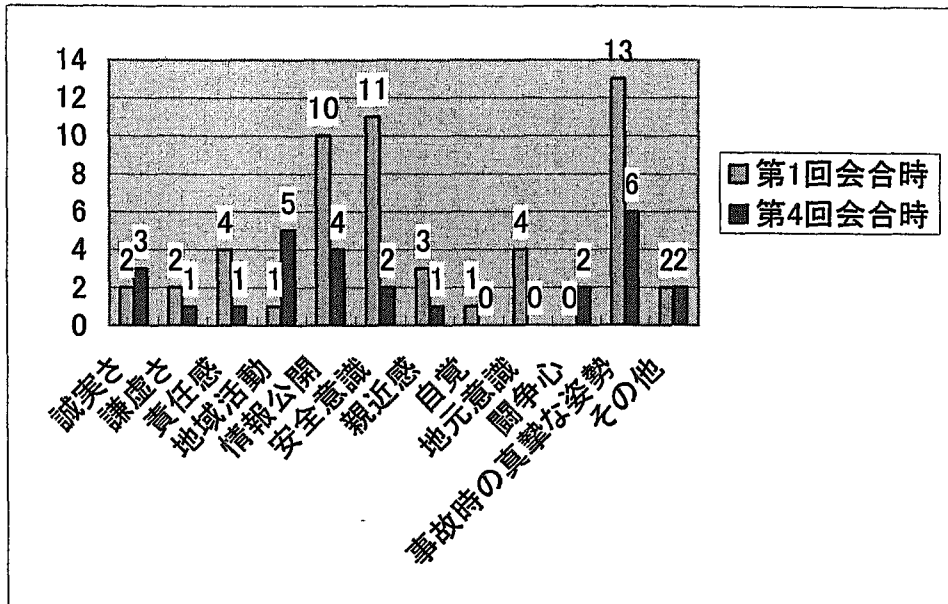


【理由】

- ・話し合いが出来るようになった。
- ・職員の方達が熱心に説明して下さり、実際に見てまわったのではじめより身近に原子力の事が感じられるようになった。
- ・仕事を一生懸命されている様子。
- ・接していただいた方々の印象になるのかもしれませんが、働いている方々も同じであることを希望します。
- ・明るい雰囲気皆さんがきびきび働いている姿に好感をもちました。
- ・職員がまじめにPRに取り組んでいる。
- ・当初、閉鎖的に思えたが、努力をして存在をPRし、理解を求めている事に感心した。これからも続けてほしい。

・従業員の対応は丁寧でよかった。

(4) 核燃料サイクル開発機構の職員には、何が欠けていると思いますか？



【理由】

〔情報公開〕

- ・事故が起きた時にはすぐに報告するように！
- ・どうしたら地域の人々に取り組んでいる方向と内容、使命、役割を理解していただけるかと言う面でやや不満を感じる。内部の技術者や関係者のみで取り組んでいるのが原因だと思う。広報面でのプロの力を借りるべきであると思う

〔安全意識〕

- ・人間がすることに絶対はないのですから、日頃の心構えがすごく大切だと思います。

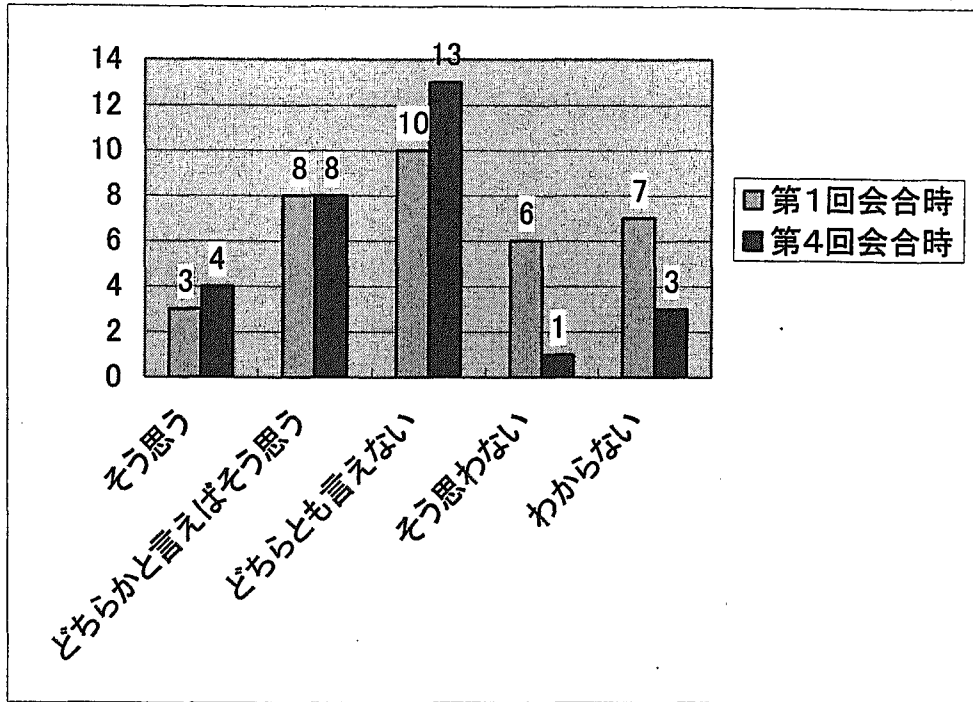
〔闘争心〕

- ・原子力は大丈夫なんだという自信と気力をもっと表に出してください。

〔その他〕

- ・特にありませんが、原子力研究所と合併の後、原研内部がどう評価されるか興味があります。
- ・モニターに接している方は皆さん親しみやすく、謙遜な方が多いと思いますが、職員全体ではいろいろな方がいます。

(5) 現在、核燃料サイクル開発機構は地域に溶け込んでいると思いますか？



【理由】

〔そう思う〕

- ・施設見学など地域に溶け込んでいる。

〔どちらかと言えばそう思う〕

- ・事故があった後から地域に溶け込もうとする努力がみえる。
- ・モニターに参加して感じた。
- ・パンフレットも分かりやすく努力されており、溶け込んでいると思う。

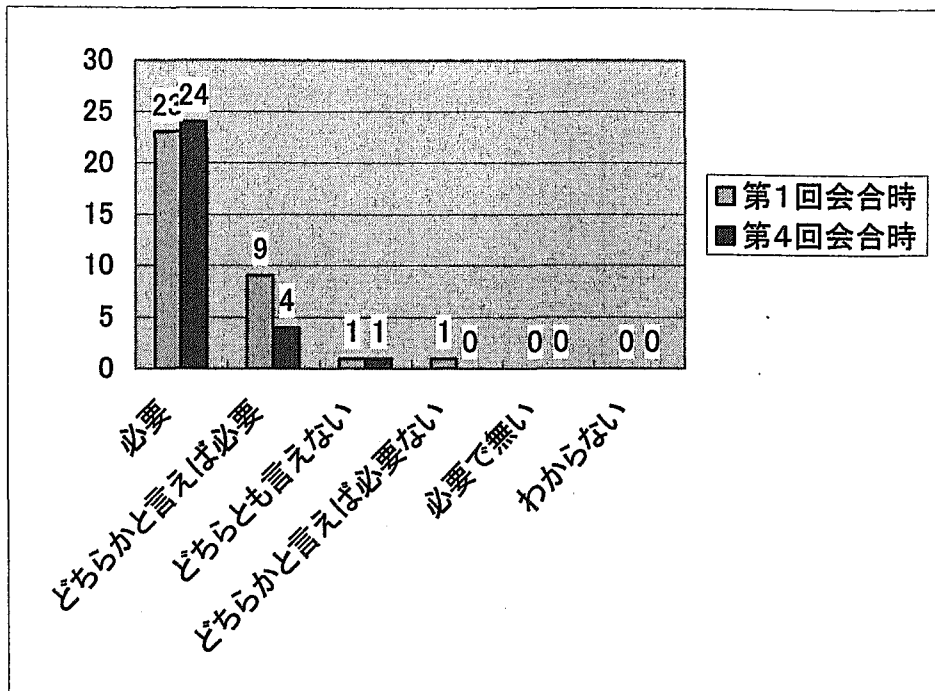
〔どちらとも言えない〕

- ・地域の方はサイクル機構の事を理解していない人が多いと思う。
- ・人によって、地域によって差があると思う。
- ・地元の人であってもまだサイクル機構を知らない人がいる事。

〔そう思わない〕

- ・モニターになった今、自分ではそう思わないが、一般の方々はまだ知らない人がいるのではないのでしょうか？

(6)原子力発電は必要だと思いますか？



【理由】

〔必要〕

- ・現在のエネルギー資源の供給環境・自然環境両面から見て必要だと思います。
- ・今までもこれからも電気無しの世の中は考えられないです。環境を考えたエネルギーの必要性は大です。
- ・エネルギーの今後を考えると、他の新エネルギーの開発がいきなり進まない限り、原子力発電は必要だと思います。
- ・資源の少ない日本では、この事業の推進は国民の理解を求めながら絶対に必要であると思われる。
- ・燃料(世界全体のエネルギー)の将来を考えたとき大いに必要である。
これからは原子力の時代であると声を大きくしたい。
- ・資源が限られているので安心してエネルギーを子孫にも残せるようにして。
- ・資源には限りがあるので是非プルトニウムのリサイクルを成功して欲しい。
自給出来るエネルギーが無いと困る。
- ・低廉で安全な代替エネルギーが今のところない。

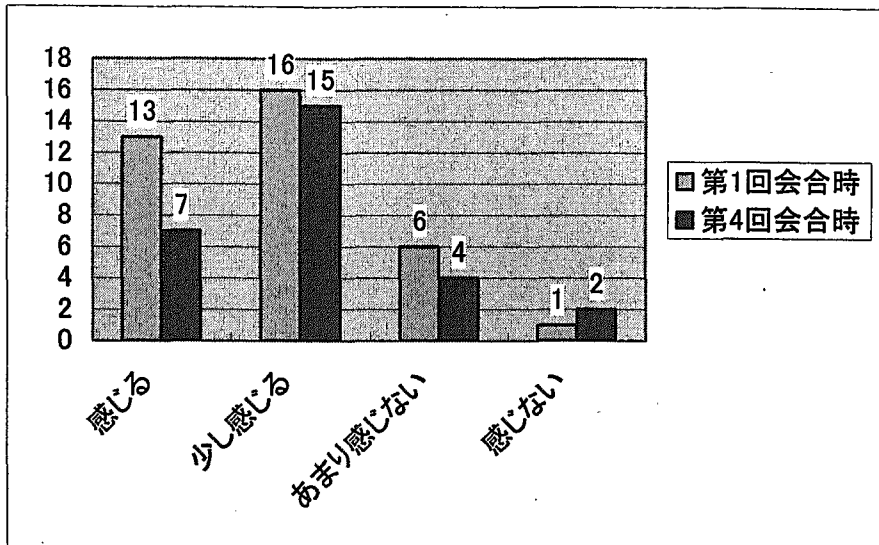
〔どちらかと言えば必要〕

- ・エネルギーが不足するため
- ・エネルギー資源を考えれば必要と思われる。

〔どちらとも言えない〕

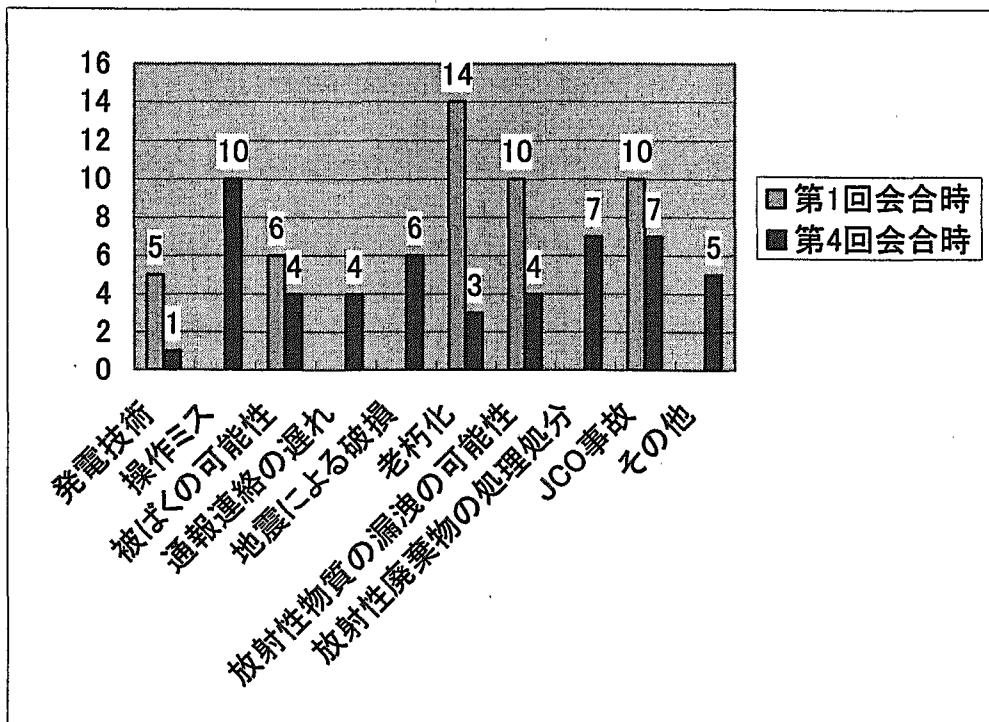
- ・危険をとまなうという意味で。

(7) 原子力発電に不安を感じますか？

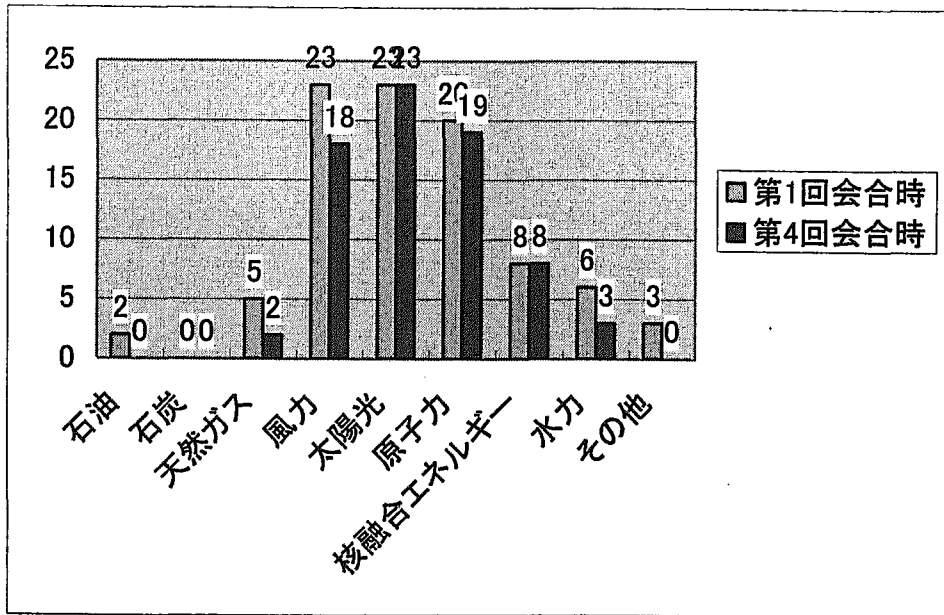


【理由】

(7)の質問で不安を感じると回答された方は、その理由は何ですか？
(複数回答可)



(8) 今後のエネルギーとしてどのようなエネルギーに期待していますか？



【理由】

〔原子力〕

- ・クリーンで安全なエネルギーが一番です。
- ・資源の乏しい日本には原子力が必要
- ・資源の有効利用
- ・地球を汚さないためには絶対に必要

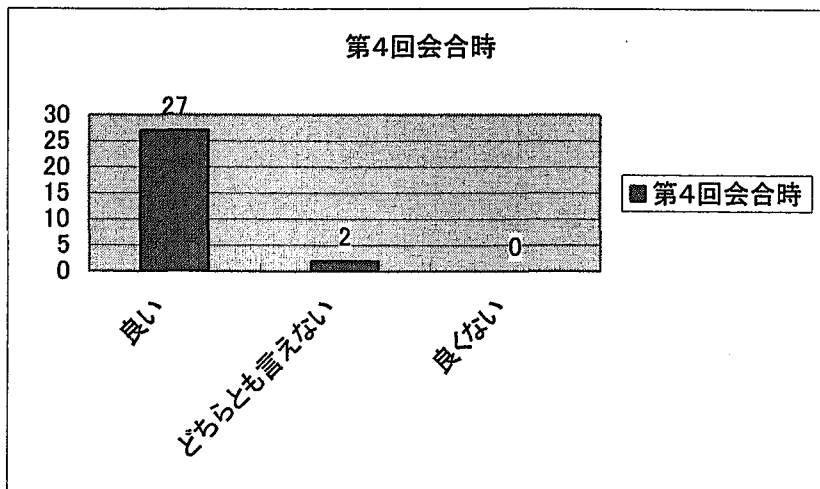
〔太陽光・風力〕

- ・空気を汚さず環境にやさしいエネルギーだから
- ・安全だし、関東が晴天が多いし、環境に与える影響が少ない。
- ・家庭用として使える
- ・廃棄物がないので

〔核融合エネルギー〕

- ・放射線の出ないエネルギーを早急に開発していただきたい。

(9) モニター会合全体(第1回～4回)の印象はいかがでしたか。



(10)ご意見・ご感想等をご自由にご記入願います。

- ・モニターを1年間経験して大変勉強になりました。関連ニュースにも耳を傾けるようになり、人にも伝えられるようになりました。でもやはり反対側の安全の確立についてはいつも絶対確認で進めていって下さい。
- ・高速増殖炉が1日も早く稼働出来る様、期待しております。
- ・色々な資料をいただき見学させていただき、大変勉強になりました。安全ということがよくわかったのですが、モニターだけではなく広く色々なところでPRを行なっていったらよいと思います。

- ・安全第一で正直に行動して欲しい。
- ・1年間のモニター活動により、原子力、核燃料サイクル開発機構について少しながら理解できる様になりました。
- ・お礼にかえて 標語「安全に 孫子につなく 原子力」
「資源保持 安全確保で 進める原子」
- ・回を重ねるたびに理解は深まりとても勉強になりました。私の友人で銀行に勤めていた人が、「お札を数えていてもお金と思えない」と言っていた事がありました。やはりその環境の中で慣れてしまい、そんなものと思ってしまうことは恐ろしい事です。細心の注意で安全に進めていって欲しいです。

付録 8

【第6期アンケート結果】

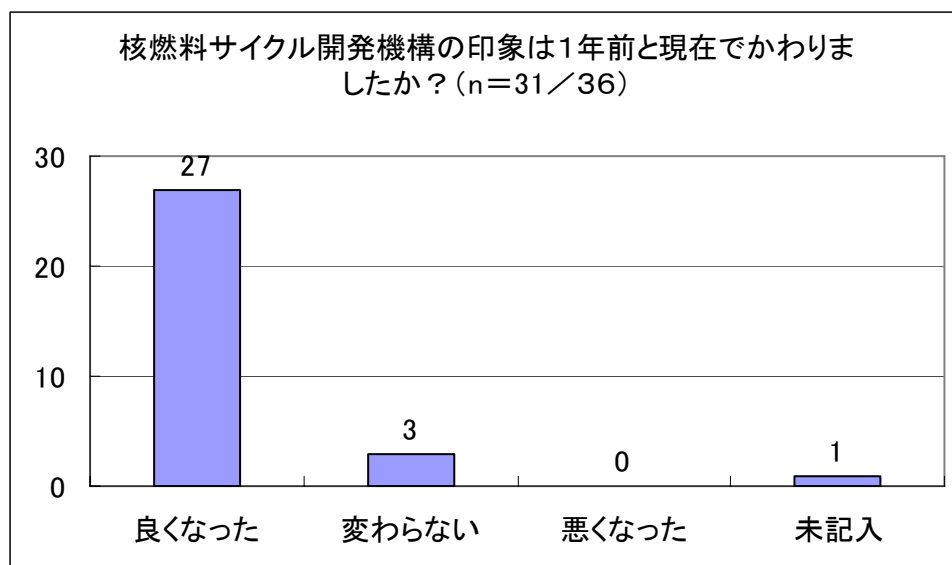
モニター経験前後の意識調査のため、同一内容のアンケートを初回（第1回：平成16年6月22日）及び最終回（第回：平成17年2月24日）の会合にて実施した。以下にそれらのアンケート結果について、比較を含めて示す。

なお、以下に示す意見、感想等の記述は最終回のみである。

《回答者数》

アンケート回答者数は、初回31名、最終回31名であった。設問1～7の図中■は初回結果、■は最終回結果を示す。

1. 「核燃料サイクル開発機構」の印象は1年前と現在で変わりましたか？

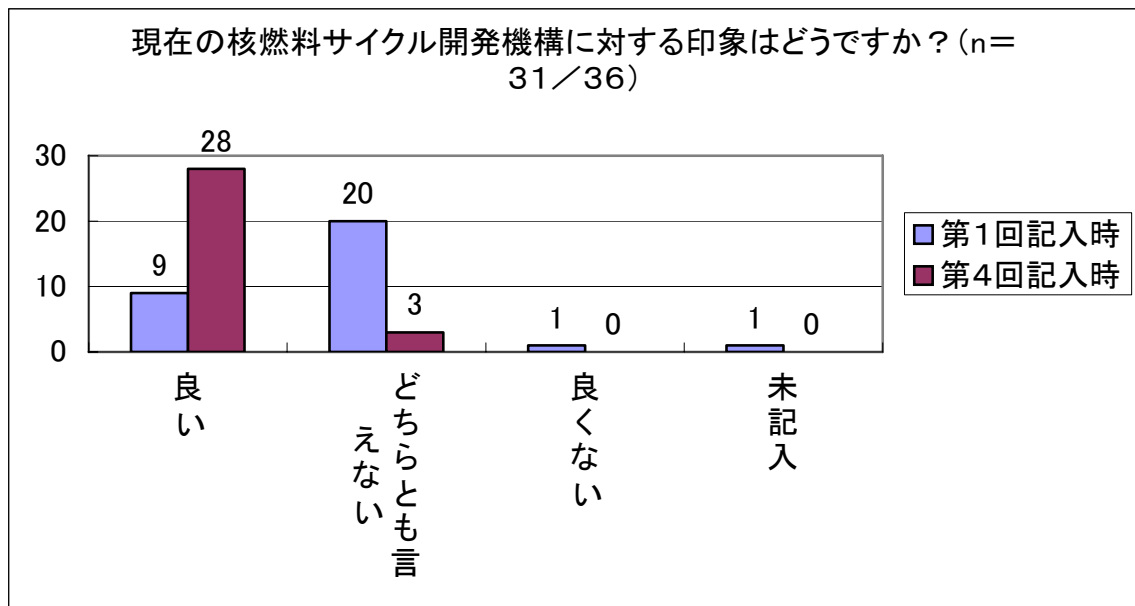
**【理由】**

[良くなったと回答された方]

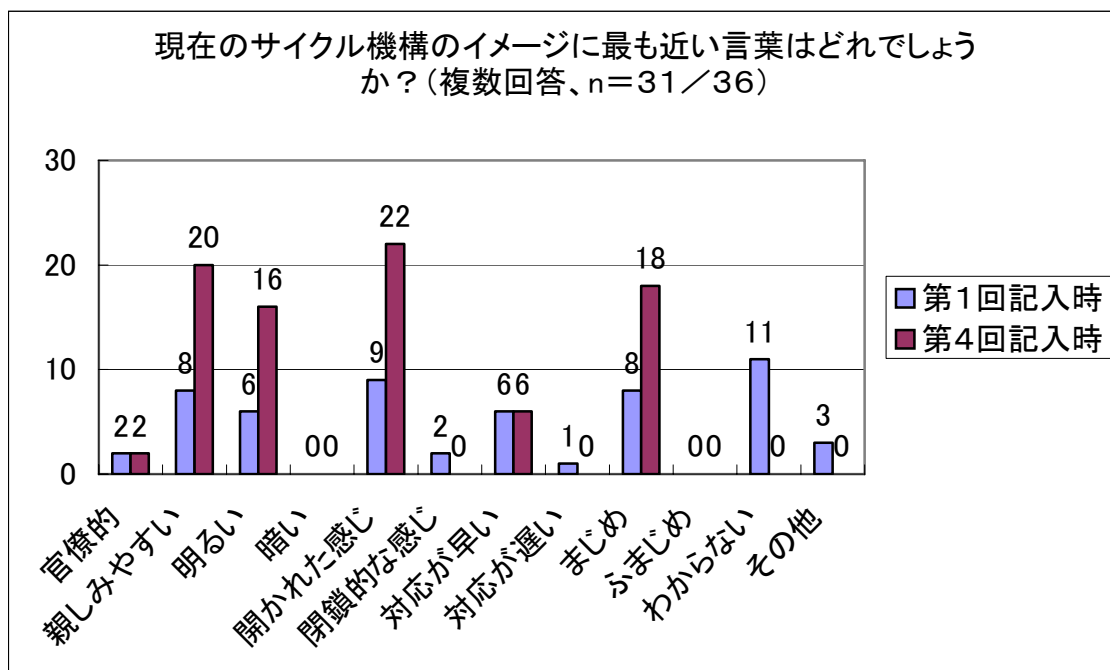
- 今まではなんとなくベールに包まれた別の世界という印象だったが、職員の方の自然な対応、説明で理解が深まった。
- 職員の対応が親しみやすく開かれた感じがする。(4名)
- いろいろな施設を見学し、その場で説明を受けてきて印象がかわった。(2名)
- 原子力は怖いイメージだったが、施設を見学して色々な面で理解できた。(3名)
- 多くの場所を見学して、原子力の安全性について理解を深めることができた。

- 安全面についていろいろな管理がなされていることがわかりよかった。(4名)
- 見学してニュースの内容も理解できるようになった。
- 各施設の運転状況がよくわかった。
- モニターに参加し、原子力やサイクル機構について理解を深めることができた。(2名)
- 何の予備知識もなく参加したが、4回の会合を経て原子力の必要性、安全への配慮がわかり、本当によかった。
- 大きな事故がないのは、職員の安全に対する努力の賜物だと思う。
- 使用済み燃料の再開発は必要だから、その研究は続けてほしい。
- 核燃料の再利用について理解を深めることができた。
- 今まででは新聞やテレビでしか知り得なかったが、実際に施設を見学し、原子力発電、核燃料サイクルのしくみが良く理解でき、担当の方も親切丁寧でまったく知らなかった1年前と印象は変わった。

2. 現在の「核燃料サイクル開発機構」に対する印象はどうか。



3. 現在のサイクル機構のイメージに最も近い言葉はどれでしょうか。



【主な理由】

[親しみやすいと回答された方]

- 私たちモニターに対する受け答え、気配り、説明などの丁寧さ。(12名)
- 閉鎖的だと思っていたが、会合を通して、開かれていることがわかった。今後は知人に展示館を紹介したい。
- 以前から機構主催の行事案内をもらっていたので。

[開かれた感じがすると回答された方]

- 環境がいい。

[まじめと回答された方]

- 毎回の対応がよかった。

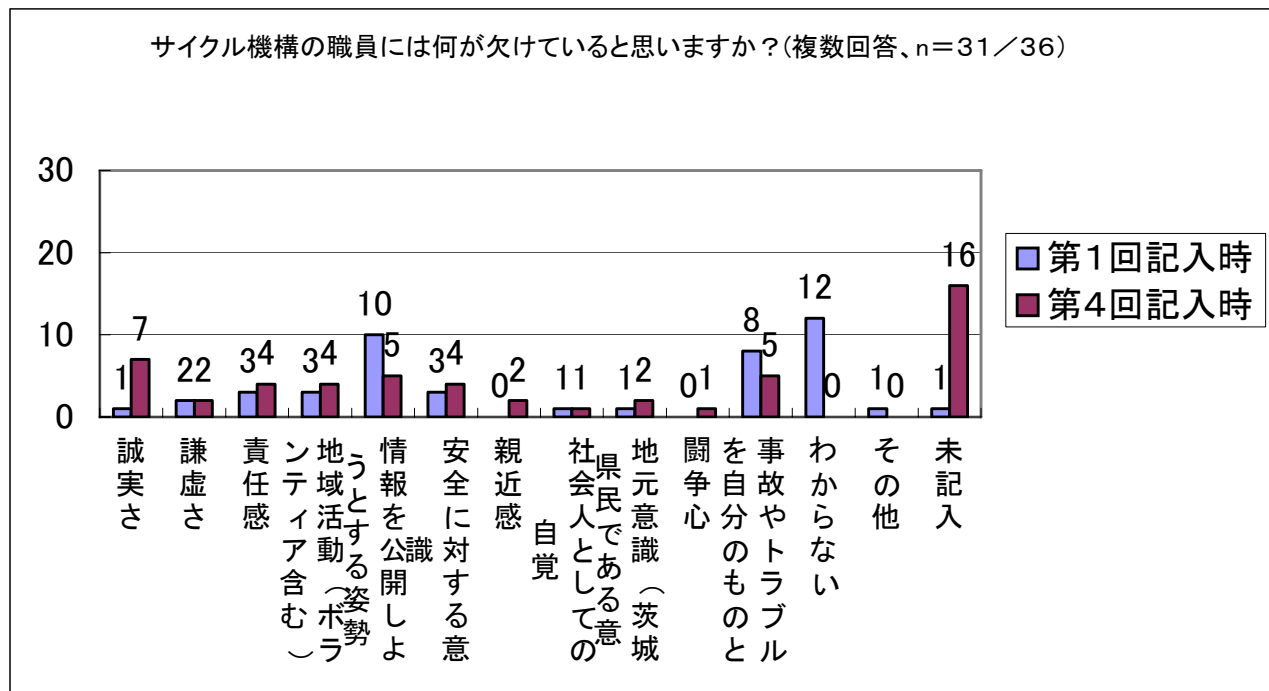
[対応が早いと回答された方]

- 適切な対応が非常によかった。
- 想像していた「勤め人」ではなかったから。

[官僚的と回答された方]

- 親身だということは伝わるがもう少しだけいてもいいのではないか。

4. サイクル機構の職員には何が欠けていると思いますか？



【主な理由】

[謙虚さと回答された方]

- この会合の対応を見る限りは欠けているところをあげる程ではないが、過去の対応を見ると上から物を見る姿勢が見受けられる。安全性が重要な仕事をしているという認識のもとくれぐれも地域の一員である立場でいてほしい。

[地域活動と回答された方]

- PR 活動をもっとやってほしい。

[情報を公開しようとする姿勢と回答された方]

- 大きい会社にいると地域の一員ということを忘れがちになると思うが、どんどん情報公開してほしい。

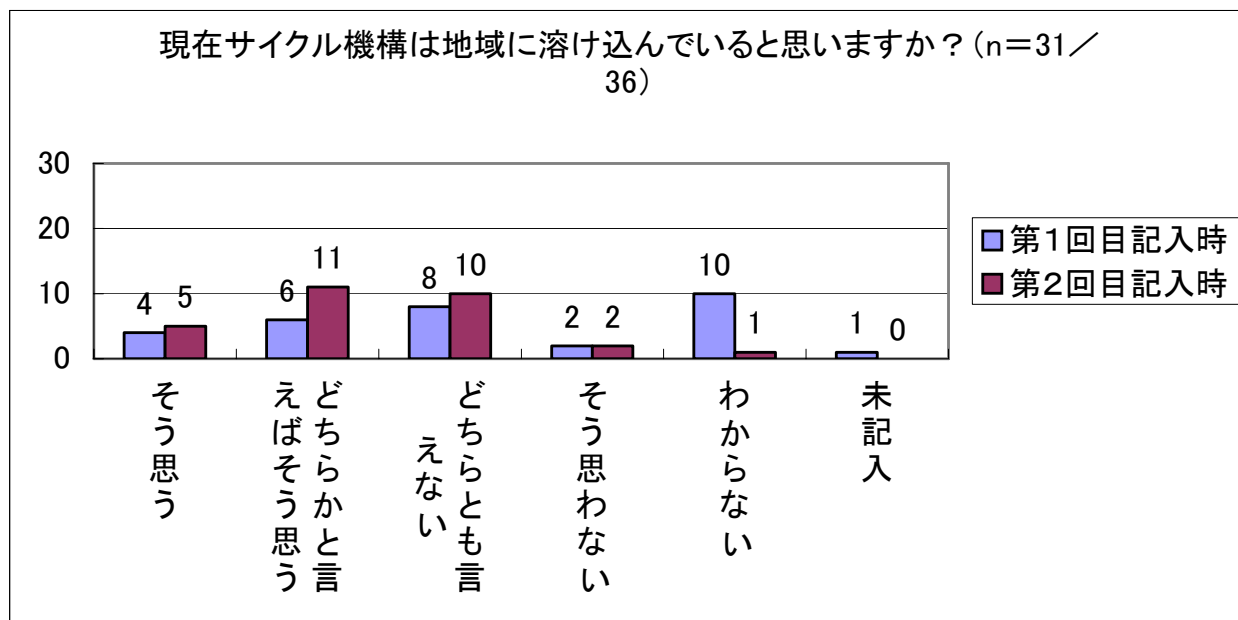
[事故やトラブルを自分のものとして受け止める姿勢と回答された方]

- 下請けの会社におしつけないでほしい。

[未記入の方]

- 丁寧に対応してもらったので、特に欠けている所は感じられなかった。(5名)
- 情報公開の姿勢は忘れずに持ち続けてほしい。

5. 現在、サイクル機構は地域に溶け込んでいると思いますか？その理由もあわせてお聞かせください。



【主な理由】

[そう思う、どちらかと言えばそう思うと回答された方]

- 広報活動、地域活動が活発である。(2名)
- 広報活動をより一層やってほしい。
- 東海村といえば、原子力、サイクル機構というイメージがある。
- 一般的には知られていないように思う。

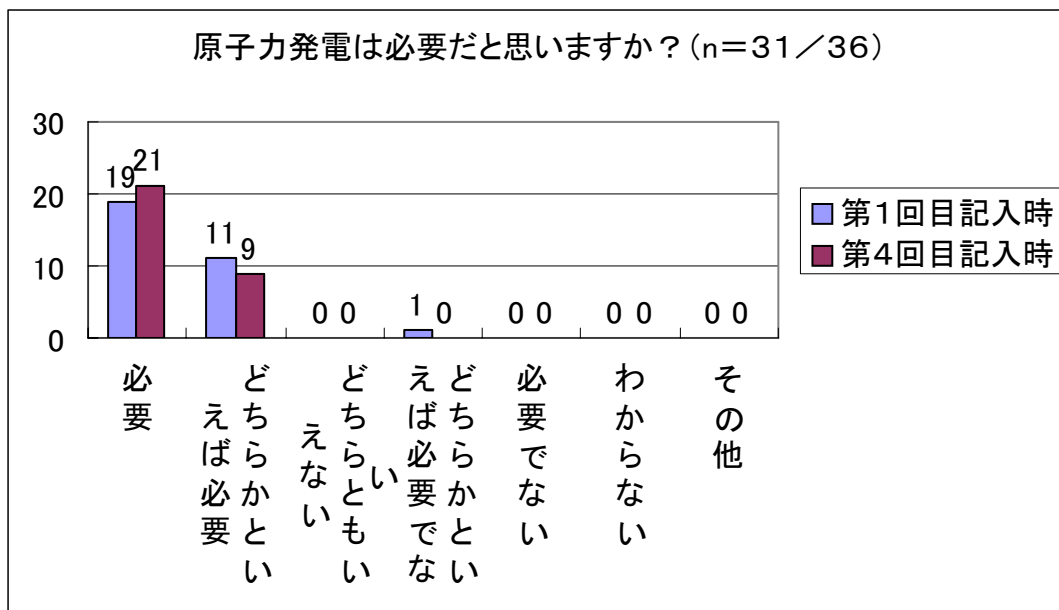
[どちらともいえないと回答された方]

- モニターになって初めてサイクル機構の業務などが理解できた。
- モニターになる前と、サイクル機構に対する意識はまったく違うがまだまだ知らない人は多いので、これからも地域活動にはげんでほしい。
- 地域活動に一層取り組んでもらいたい。(2名)
- より一層地域活動を行って、エネルギー、原子力の安全性について理解促進活動を行ってほしい。

[そう思わないと回答された方]

- 地域の人達はまだまだ理解が不足していると思うので、積極的に情報を提供してほしい。(3名)
- 一般的には理解されていない。
- モニターになる前はサイクル機構の業務内容を知る機会がなかった。

6. 原子力発電は必要だと思いますか。

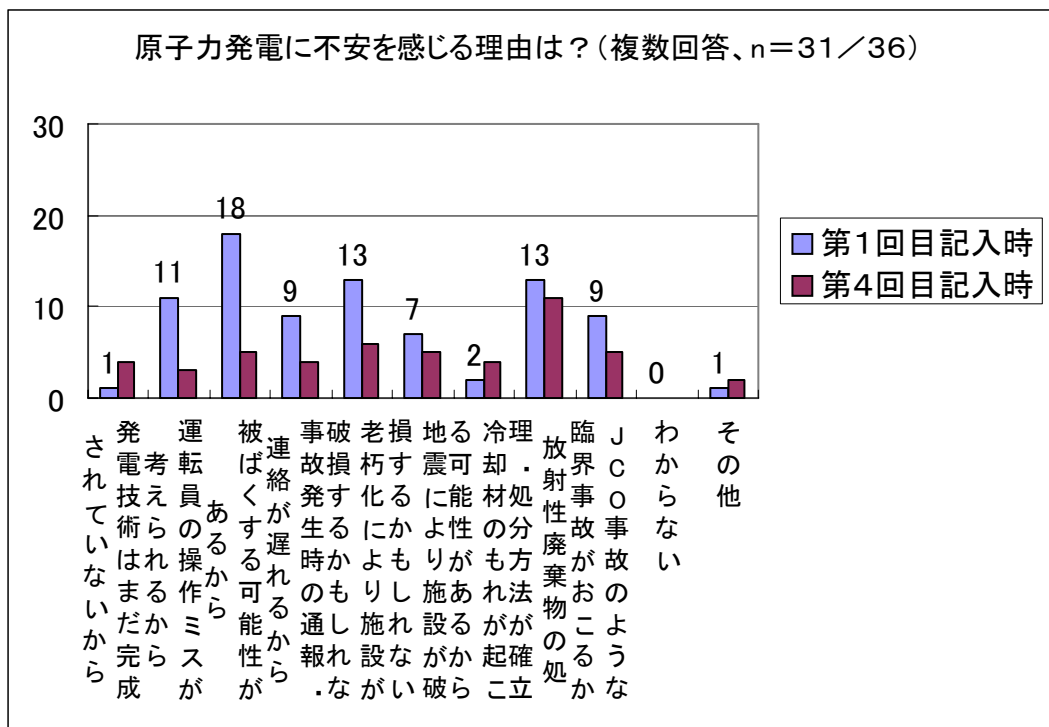
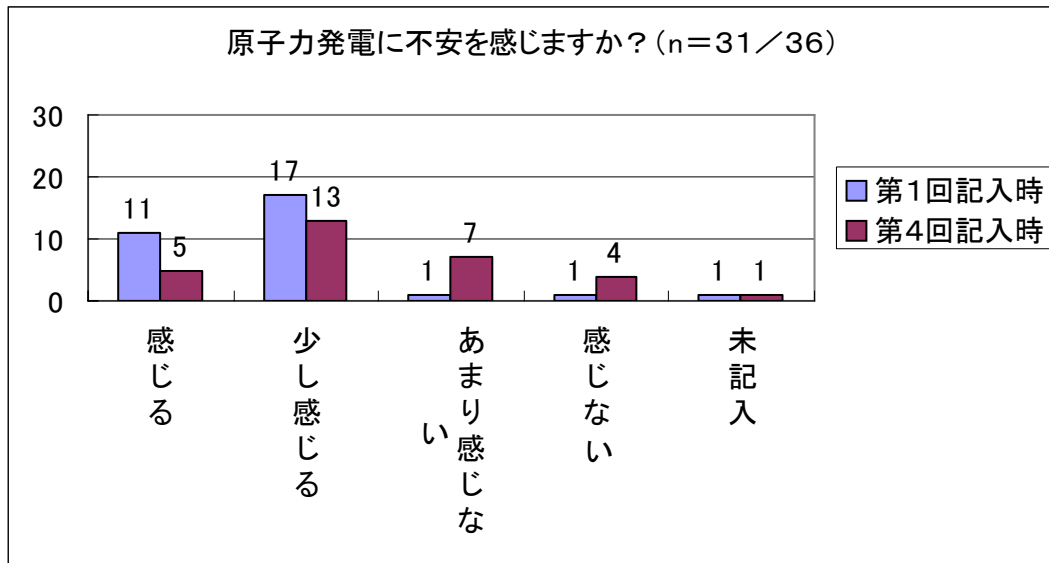


【主な理由】

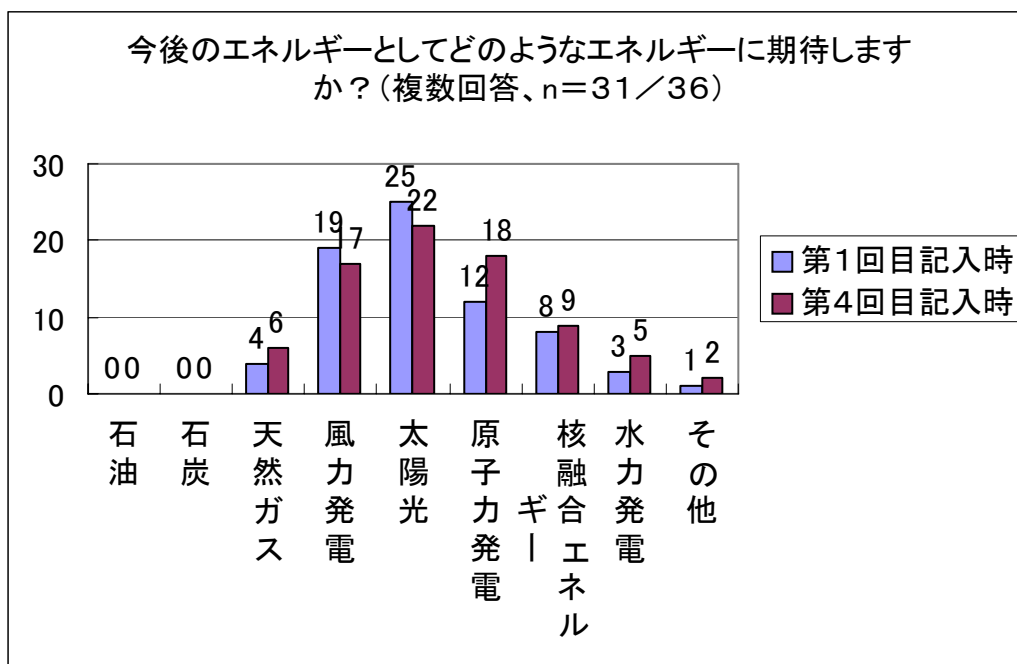
[必要、どちらかと言えば必要と回答された方]

- 安全性が高くなれば 100%必要だと思う。今の段階で石油にかわるものは原子力発電だと思う。(2名)
- 将来的には原子力発電が発電源の主な部分を占めるのではないか。
- 原子力発電がなくなると、2003年の夏のように電力が足りなくなって大変だから。
- 日本は資源が少ないから。(9名)
- 従業員の安全に対して真摯に努力している姿勢を強く感じたから。
- 水力、火力の源も限られているから。
- 火力発電は二酸化炭素が多く排出され、温暖化の原因となるし、原子力は処理が大変だがかわりのエネルギーが期待できないから。
- 安全性とコスト面。
- 地球環境の保護。(3名)
- 安定した電力供給。(2名)

7. 原子力発電に不安を感じますか？



8. 今後のエネルギーとしてどのようなエネルギーに期待しますか？



【主な理由】

[原子力発電と回答された方]

- モニター会合で受けた説明では燃料のリサイクルができるから。
- 環境問題。

[原子力発電、風力発電、太陽光と回答された方]

- 原子力と自然エネルギーの調和が必要だから。
- (地球環境に対して) クリーンなイメージがある。(5名)

[原子力発電、核融合エネルギーと回答された方]

- 環境にやさしいエネルギーなので。

[原子力発電、太陽光と回答された方]

- より安全性が確認できれば原子力発電でよいが、太陽光発電が自然環境も破壊せずいいのではないか。

[風力発電、太陽光、水力発電と回答された方]

- 自然の力に期待。
- 資源は限られていると思うのでクリーンなエネルギーに期待する。

[天然ガス、太陽光と回答された方]

- 地球温暖化の要因とならないような施設を整備できることを期待している。
- 被ばくなどの危険がない。

[天然ガスと回答された方]

○ 廃棄物の処理が簡単だと思うから。

9. ご意見、ご感想等、ご自由にお書きください。

○ モニターに参加できてよかった。一年間ありがとうございました。(8名)

○ 丁寧な対応や説明で原子力について理解できるようになった。(4名)

○ 色々な施設を見学でき勉強になった。孫にも自信をもって説明できるような気がする。

○ 安全対策がきちんと行われていることがわかり安心した。(2名)

○ JCO 事故以来原子力は怖いものだと思っていたが、イメージが変わった。再処理施設など見学でき、知識も深めることができた。

○ 未来のために最先端の研究が行われていることを知りえた。統合後も原子力利用が発展されるよう期待する。

○ 立派な施設、設備であるが、老朽化に対して点検整備を行うなど努力してほしい。

○ 安全対策についても真摯に取り組まれていると思うが、より一層安全に留意して研究開発してほしい。

○ 安全対策、研究成果についてもっと PR してもいいのではないか。

○ 今後も何らかの形で参加する機会があるとよい。(2名)

○ 一般の方にも積極的に見学させてほしい。